

第62号

学体連会報

令和7年度



公益財団法人 日本学校体育研究連合会
(<http://www.gakutairen.jp>)

(公財)日本学校体育研究連合会

JASPE
足育



JES日本教育シューズ協議会

JES
Just Evidence Shoes

“足育”事業を共催しています
(講演会・研修会・出前授業)

足が変われば子どもが変わる!
子どもが変われば未来が変わる!

ashoku 足元からの健康教育 2024年度
「足育」のススメ
GAKUTAIEN

公益財団法人 日本学校体育研究連合会 JASPE足育推進委員会



「足育」ってご存じですか? 実は、40%以上の子どもたちが、
足にトラブルをかかえています…子どもたちのよりよい未来
のために、足元からの健康教育「足育」を始めてみませんか?

まずは、ここから!

- ☒ 正しい靴の履き方を知る
- ☐ 正しい足のサイズを測る
- ☐ 学校に足育の講師をよんでみる
- ☐ 保健指導の内容を知る



As a First Step!! 始めの一步をふみだしましょう!!

ある朝、今日も一日が始まります。



「靴を正しく履く」あたりまえの事です、毎回できていますか?

正しい靴の履き方を知っていますか? →



JASPE 足育推進委員会

認定体育用品
足幅対応シューズ



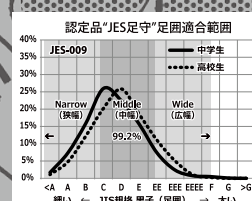
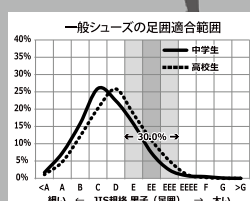
JES-009

Wide・Middle・Narrow 3-width
21.0cm~30.0cm 赤青緑黄



Wide Middle Narrow

(公財)日本学校体育研究連合会から
足幅対応 JES足守シューズなどが
特に優れた優良体育用品として
認定を受けました。



児童・生徒の安全や健康のため
学校体育用具・用品の検討・選定に
ご参照・ご活用下さい。



未来へつなぐ部活動改革 ——子供たちに豊かなスポーツ環境を 公益財団法人 日本学校体育研究連合会長 友添 秀則

日頃より、日本学校体育研究連合会の諸事業にご支援・ご鞭撻を賜り、心より御礼申し上げます。本年度もこうして皆さまに会報をお届けできることを嬉しく思います。今回は、部活動の地域展開について考えてみたいと思います。

中学・高校時代を振り返ると、多くの方が部活動の思い出をお持ちではないでしょうか。夏空の下で白球を追いかけた日々、緊迫した試合で涙した瞬間、仲間と力を合わせて勝利をつかんだ喜び——そこには、努力の意味や協力の大切さを実感する場面があったはずです。私たちの心に残るスポーツの原風景は、学校での運動部活動に根ざしているように思います。

二〇二三年四月から、公立中学校の部活動は休日に地域で行う「地域移行」が始まりました。現在では、これを「地域展開」と言うようになりました。従来の「地域移行」という言葉には、単に学校から地域へ活動を移す印象がありましたが、「地域展開」には、教育的意義を継承・発展させながら、新たな価値を創出するという前向きな意味が込められています。そのためには、学校を含む地域全体でクラブ活動を支えていく体制づくりが不可欠です。

ところで、今年度は改革推進期間の最終年度にあたります。これまで全国の約三分の一の市区町村で実証事業が行われ、多くの成果が報告されています。二〇二六年度からは中間評価を挟みつつ、六年間の改革実行期間が始まり、休日だけでなく平日の地域展開も進むことが期待されます。一方で、少子化の進行により、従来の学校運動部活動の維持は困難になりつつあります。国の調査によれば、二〇一七年時点で三二二万人いた中学生世代の人口は、今後十年間で約二割、六〇万人以上減少すると予測されています。これは、部活動の持続可能性に警鐘を鳴らすものです。

また、教員の負担も深刻です。文部科学省の調査（二〇一六年）では、部活動の指導日数が多い教員ほど在校時間が長く、規定の勤務時間を大きく超えている実態が明らかになりました。

た。中学校の約六割が全教員を顧問とする原則を採用している中、教職志望の学生が部活動の負担を理由に進路を断念するケースも見られます。

さらに、中学生の部活動参加率は減少傾向にあります。十年前には六五%を超えていた参加率も、二〇二一年度には五八%にまで低下し、特に女子の減少が顕著です。スポーツ庁の調査によれば、地域クラブにも部活にも所属していない生徒のうち、「好きなスポーツを自分のペースで友達と楽しめるなら参加したい」と答えた割合は、女子で約六割、男子で約四割にのぼります。これは、現在の部活動が中学生のニーズに十分応えられていないことを示しています。

部活動改革は、人口減少社会における地域コミュニティのあり方、そして日本のスポーツ文化そのものを大きく変える可能性を秘めています。子供たちに豊かなスポーツ環境を保障するために、今こそ私たち大人世代の英知と責任が問われています。

目次

会長挨拶	1
座談会	2
令和6年度受賞 体育授業優秀教員 授業実践紹介	10
第63回 全国学校体育研究大会山口大会を終えて	22
第64回 全国学校体育研究大会北海道大会開催にあたって	23
北海道大会分科会授業の見どころ	24
令和7年度 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介	27
令和7年度 体育授業優秀教員紹介	28
令和7年度 全国学校体育実技指導者講習会の実施報告	30
令和6年度 各都道府県教育委員会長期研修生等合同発表大会	35
令和7年度 JASRE足育（あしいく）の推進について	39
全国学校体育研究大会近年度開催地紹介	51
令和6年度 賛助会員（個人）一覧	52
令和7年9月期 賛助会員（法人）一覧	53
広告	54

第62号 表紙にある学体連ロゴマークについて



（公財）日本学校体育研究連合会

上部の円は幼児を、それを受ける形で3つの弧が描かれている。小さな弧から順次、小学生、中学生、高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んばり、両腕を高くかかげて、生き生きと運動している姿をイメージすることができる。子どものあり得べきシェーマを発展的系統的に象徴している『学校教育のシンボリズム』ないしシンボシエマ。図柄は紫紺の地に白抜きである。（会報第28号浅田隆夫理事長（当時の役職））

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
公益財団法人日本学校体育研究連合会
電話03-3465-3954 FAX03-3465-7464
発行者：友添 秀則
発行日：令和7年10月29日
mail: gakutairen@msb.biglobe.ne.jp

座談会

日時 令和七年八月二日（土） 午後一時から
会場 ZOOMによる開催

「体育・保健体育科の授業をどのように支えるか」をテーマに、各校種の先生方による座談会を実施しました。
「支える」立場で活動されている方たちに、より良い授業を創っていくための具体的な取組や工夫についてお話ししていただきました。

吉原昌子理事

本日はお忙しい中、座談会にご出席いただきありがとうございます。

今回の座談会のテーマは、「体育・保健体育科の授業をどのように支えるか」です。

本日は三つの内容でお話ししていただきたいと考えております。

一つ目は学習指導要領の趣旨を踏まえての支える視点での実践状況です。

二点目は、授業者と支える側で必要となる共通認識や相互理解です。

三点目は、これまでの実践の成果と次期学習指導要領への期待についてです。

座談会の進行は、学体連参与の日本女子体育大学准教授、須甲理生先生にお願いいたします。

須甲理生参与（以下、須甲）

進行を務めます須甲です。よろしくお話しいたします。

それでは、自己紹介からお願いいたします。

田場英樹先生（小学校）（以下、田場）

宮城小学校の田場と申します。沖縄は暑くて、プール焼けで真っ黒に日焼けしております。

よろしくお話しいたします。

上藤藍子先生（小学校）（以下、上藤）

徳島県教育委員会体育健康安全課の上藤藍子と申します。小学校の担当をしております。よろしくお話しいたします。

大巻太一先生（中学校）（以下、大巻）

札幌市教育委員会教育課程担当

当課の大巻です。

中学校保健体育を担当しています。よろしくお話しいたします。

田中春彦先生（高等学校）（以下、田中）

神奈川県立相模田名高校で総括教諭をしております田中春彦です。

昨年度までは神奈川県立総合教育センター、体育指導センターで勤務しておりました。よろしくお話しいたします。

石川泰成理事（以下、石川）

理事の石川と申します。よろしくお話しいたします。

須甲

先般出ました中教審の学習指導要領改訂に伴う諮問、その参考資料の中で、教員の授業改善

の意識が向上したということが示されました。

そうした授業を支える視点で実践されていることについてお話ししたいだと思います。

田場

私は二年前まで、前任校と合わせて五年間、体育科指導コーディネーターという役職を務めていました。

沖縄県では体育専科とは別に、独自の取組として体育科指導コーディネーターという役職の先生方が数名います。

体育科指導コーディネーターは、学級担任の先生とチームティーチングで授業を進める中で、体育の指導力向上に努めることが目的になります。その中から支える立場、支える視点でお話しさせていただきます。

まずは、年間指導計画をしつ

かりと先生方に理解していただくこと、そして領域の内容等を全職員で確認しながら進めていきました。その際、体育指導が得意という先生方が結構いましたので、先生方が結構いま

行い、どこに苦手意識があるのかを踏まえながら、ニーズが高いところに合わせて一緒に頑張っていこうと声かけをして進めていきました。

そういった中で見えてきたのは、できる、できないに重きを置いて指導されている先生方が多いということです。そこで、体育の「見方・考え方」についても共有することや、児童が作戦と一緒に考えたり、応援したり、分らないところを友達と教え合ったりするところを友達と教え合うことも体育の一つの魅力であることを伝えてきました。

座談会 出席者



田場 英樹 先生
浦添市立宮城小学校
教諭



須甲 理生 先生
日本女子体育大学
准教授



石川 泰成 先生
埼玉大学
教授



田中 春彦 先生
神奈川県立相模田名高等学校
総括教諭



大巻 太一 先生
札幌市教育委員会
指導主事



上藤 藍子 先生
徳島県教育委員会
指導主事

そして先生方には、単元指導計画の見通しを持って進めるようにという声かけを心掛けました。

体育に苦手意識がある先生も、まずは先生方から体育を好きになつてもらう、先生から楽しくしようと、支え合い、声をかけ合い、子供にそれが伝わっていったらいいかなと思いがから取り組んでいきました。

須甲

田場先生のどのような働きかけによって体育を苦手とする先生が変わり、そして子供がどのように変容したかという事例があったら教えていただけますか。

田場

跳び箱運動やマット運動で、先生自身が試技を見せられない、運動の要領をうまく伝えられないということがあったので、子供たち同士で見せ合う取組にしていきませんかとお話しました。

器械運動が得意な児童に、どうやったらできるのかという発問を通して、苦手な子と結びつけて横のつながりを作るといいのではないかと考えました。

後半の発表会では、苦手な子も跳び箱が跳べて、みんなで拍

手して喜ぶという姿が見られました。その後、担任の先生と話す機会があったのですが、少し自信が持てましたと話してくれました。それが私のいる意味であり、TTの目的が少し達成されたのかなと思った次第です。

上藤

私は、指導主事という立場で体育科の授業を支えると考えた時、少しでも先生方の力になれて、それが子供たちにつながってほしいと思っています。今年度取り組んでいることを三つお話しします。

一つ目は、研修会等の実施です。二つ紹介します。

研修会等については、先生方が課題だ、必要だと思っている内容や今までにあまり実施していない内容で行いたいと考えました。

小学校の教員は全ての教科を担当することが多いので、体育科の研修会等に参加したことがない先生方にも参加してもらえないように実施要項等にその旨を記載しています。

今年度、表現運動系の研修会を行います。令和五年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の学校質問紙調査で、自校の課題を三つ選んでくださいという

質問に対して、本県では半数近くの小学校が表現運動系と回答しました。先生方からも表現運動系の授業をどのように進めていけばいいか分からない、苦手意識があるという声を聞いていたので、講師の先生を招いて実技を伴った授業づくりの研修会を行う予定です。

また、令和七年度体育・保健体育科指導力向上研修の伝達講習会では、保健領域を実施しました。指導と評価の計画を提示し、本時案を作成するというグループワークを行いました。グループで授業を考えることを通して、子供たちが課題を見つけていくためには、具体的な手立てが大切だと思った、二学期の保健の授業を頑張ろうと思う、という声があり、実施してよかった、と思っています。

二つ目は、学校訪問等です。授業参観の際、子供たちが運動の特性に触れることができていないか、資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことが押さえられているかというところは意識している視点です。

子供の姿を交えつつ、指導・支援のすばらしかった点について伝えるようにしています。もし、授業者が迷ったり改善が必要だったりした場合は、一緒に

考えたり、別の考え方や方法を提案したりするようにしています。学校訪問等は、先生方に体育の授業は楽しい、さらに頑張ってみようと思ってもらえるような時間になりたいと思っています。先生方がそう思い、授業づくりをすることは、子供たちが運動の楽しさや喜びを味わうこと、子供たちの学び、そして子供たちの笑顔につながっていくと思っています。

三つ目は、本課の事業で、年間で数校ではありますが、希望があった学校に伺って、私が授業をさせてもらっています。事業を活用してもらい、授業づくりの参考にしてもらえればと思っています。

須甲

上藤先生、いろいろな研修会があると思うんですが、そもそも研修があっても行きたくない、苦手だなという先生方をどうキャッチアップして、サポートしているか教えてください。

上藤

そのような先生方は、たくさんいると思います。例えば、各校一名以上参加の悉皆研修では、参加された先生方に校内での伝達をお願いする等していま

すが、研修会に行ってみようかな、と思ってもらえるためには、どんな工夫ができるか、研修会以外でどのような働きかけができるか、ということは、常に考えているところです。

大巻

私も指導主事として関わっている中で、先生方が授業改善をし続けることがとても重要であると感じています。そのために先生方に伝えている視点を三つお話しします。

一つ目は、札幌市での研修を充実させることです。そのために本市では、教職員が必ず研修できる日を設定しています。小学校と中学校をパートナー校として小中一貫した教育を進めているので、小中の先生が互いの授業を見合う場をつくって、連続性、系統性のある教育を意図的、計画的に進めています。具体的には、中学校の先生が小学校の授業を見ることが、小学校での学習内容を理解し、九年間の系統性を意識した授業構成が可能になったという成果などが挙がっています。

二つ目は、授業の主役は子供たち自身というコンセプトで教育活動を進めることです。子供たちが主体的に学びを深め、学

んでいること自体に喜びが感じられる授業を、先生方がつくっているような後押しを私たちがしなくてはいけないと考えます。そのときに大切になるのが、子供たちの声を聴くことだと思います。子供の気持ちを聞いた、課題意識を持たせたりすることを大事にして、先生方と一緒に授業づくりに取り組んでいます。

三つ目は共生の視点です。多様な全ての子供が、等しく学びに参加できる配慮や工夫が授業にも必要だと思っています。運動が苦手な子が運動を好きになれる工夫をしていくことが、この共生の視点では重要な要素だと思っています。

体育の授業では、子供たちが運動って楽しい、友達と一緒に取り組めると面白いという思いが味わえる授業ができるように、先生方と共通理解を図りながら授業づくりを進めているところです。

子供たちが楽しいと思える授業になれば、生涯にわたるスポーツライフという保健体育科の目標に向かっていけるのではないかと思い、先生方と一緒に進めています。

田中

私からは、昨年度まで在籍していた神奈川県立総合教育センターの取組の話をさせていただきます。

総合教育センターでは、二つのコンセプトで様々な研修業務にあたっていました。その一つが研修観の転換ということで、現場の先生方がこれまで受け身になりがちだった研修等に対して、自らが主体的に学びをデザインする「主体的に学ぶ研修」へ変換していこうということでした。体育指導センターでも、そうしたコンセプトを軸に、研修の内容を考えて実践をしていました。

そしてもう一つは、研修と研究の一体化です。センターが進めている研究を研修に落とし込み、現場の先生方にとって実践的なもの、汎用性のあるものができるように取り組んできました。

このような背景がある中で、私がセンターに所属していた三年間では、インクルーシブ体育に着目し、センターとしての研究を進めることとなりました。神奈川県立高校には、インクルーシブ教育実践推進校というものがあることがあって、最初は三校のパイロット校からスター

トし、現在は十八校まで増えています。この制度には特別募集枠があり、その対象は知的障がいのある生徒に限られています。普通高校で学びの機会を広げながら、全ての生徒が共に学ぶ中で、お互いのことを分かち合い、協働する力を育みながら成長していくことを目指しています。研究内容としては、まずこのインクルーシブ教育実践推進校の体育の授業がどのように行われ、どのような課題や困難があるかを把握することからスタートしました。そこで見えてきたことは、一見スムーズに授業が進んでいる一方で、すべての生徒が授業を楽しめているのだろうかということでした。この課題は決してインクルーシブ教育実践推進校だけではなく、全ての学校に同じような課題があるのではないかということから、より多くの学校の実態把握や、様々な知見研修等を重ねました。このようにインクルーシブの視点で体育の授業を考えた結果、アダプテッドやインクルージョン・スペクトラムモデルといった理論を参考とした「共に学び共に育つ体育授業の実現に向けた調査研究」に取り組むこととなりました。

この研究は、学習指導要領の

前文や保健体育の改訂の要点にもあるように、体力や技能の程度、性別、障がいの有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して指導内容の充実を図る取組です。いかに授業で実践していけるかという点と、インクルーシブ教育実践推進校と、車いすを使用している生徒が在籍している全日制高校二校の県立高校に協力をお願いして実践研究を行いました。

はじめはどちらの学校も実践事例も経験もないだけに、どうしていいかわからず、無理でしようという抵抗感もありました。

しかし、一緒に単元計画等を考えていく中で、こういう道具の工夫や場の設定をしましょう、ルールをこうやって変えましょうといったアダプテッドの視点を盛り込んだ工夫を現場の先生方としていく中で、これならできるとか、これはやっぱり難しいよねとか、様々な意見はありながら、徐々に前向きな考えになっていったかと思えます。

無理に障がいのある生徒や課題のある生徒に合わせていくという意識ではなく、みんなが同じ場で楽しめるようにするためにはどんな工夫ができるかとい

う考え方や、もしかすると先生たちが普段実践していることも、実はアダプテッドの視点を取り入れた授業につながっていますよねという気付きを促せるように関わってきました。

須甲

様々な実態にに応じて、授業者である先生方を支えていらっしやることをお話しただきました。その中で、子供が変わることによって、これでいいんだな、こういう方法もあるんだなという実感から、先生方の意識改革につながっていくのだなとわかりました。

次に、授業を支える側の先生方にとって、授業者の先生方とどのような共通認識や相互理解が大切になるか、先生方を支える、子供たちを支える上で、どのような視点を大切にしているのかということをお話ただけですか。

また、授業や先生方を支える中で難しさを感じている点についても教えてください。

そして、サポート役としてやりがいを感じることがどういうときかというところもお話いただければと思います。

田場

共通認識、相互理解という点では、やはり児童の実態の理解だと思っています。発達段階や実態や、抱えている課題等の理解が不可欠だと思っています。そこで私は体育科指導コーディネーターとして、体育と他教科のつながりも大事にしながら進めていきました。それが学級経営につながったり、体育で学んだことを他教科に生かしたり、「体育でこれができたから国語でも頑張る」と、そういったところが子供の自信になればいいなと思いつながり、学級担任の先生方と対話を重ねてやってきたところでした。

子供たちそれぞれでどこまで頑張りたいかという「個人のめあて」や課題が違うことがあるので、そこを学級担任の先生と共通理解をしながら、子供に合った学びができるように、いつも授業ミーティングを行いながら進めていきました。

体育の授業の後にはすぐ国語であったり他教科の授業が始まったりするので、十分間の休み時間や放課後に手紙の交換をしながら、今日の授業こんなところよかったよ、先生、あの声かけナイスだねというように、私からのラブレターを送って伝

えるようにしていました。

私は、体育科指導コーディネーターの仕事と併せて、指導主事補という役職を担っており、他校へ指導助言等で呼ばれて、授業を見させていただく立場も兼任していました。そういう時に心がけていたのは、「単元を通して子供を育てていきましよう」という助言です。また、先ほどからお話が出ていますが、体育が苦手な先生は、私の講話に対してあまり興味を示さないこともありましたので、関心をもってもらうためにも、難しいことをどれだけ簡単にかみ砕いて伝えるかを意識していました。

さらに、他校の先生と一緒に授業づくりをしたり、他校で体育の授業をさせていただいたりもしました。

難しさでいうと、先ほどの田中先生の話にもつながるかと思うのですが、発達障がいがある子供や特別な支援を要する子供の対応は非常に難しさを感じています。飛び出してしまいう児童や、場面緘黙の児童、そもそも体育の授業に取り組もうとしない児童を、どう授業に向かわせるのかというところに難しさを感じていました。

でも、私としては自分も楽しむようにしていたので、その子

の目線に合わせて、隣に座って他の子たちを見ながら、「あの運動ならできそうじゃないの?」「あの子すごいね」など、子供に寄り添いながら進めるようにしました。

体育科指導コーディネーターは各クラス一時間ずつの授業になるので、体育の授業が終わった後、その後の様子を学級担任と共有する時間を設けました。その中で「英樹先生と一緒に体育の授業ができて良かった。次からは参加してみようかな」などの子供の声を担任の先生から聞いたときは、少しはこの子に寄り添えたかなと、やりがいも感じたりしました。

私は、授業は子供たちと一緒ににつくりあげるものだと思うています。体育の授業終盤に「ええっ! 授業もう終わり?」「もっとやりたい!」等の声を聞くと、またやりがいを感じます。

須甲

田場先生の授業を見たくなりました。本当にすばらしいサポートだと思いました。

指導主事補として関心をもってもらおう実践の具体はどのようなことがあるのでしょうか。

田場

例えば有名人のもののまねをし
ながら進めたり、説明スライド
にお笑い風のものを入れたりし
ながら、常に「笑い」が生まれ
るようにし、「楽しく体育を学
ぶ」雰囲気作りに努めました。

須甲

田場先生のお話を聞くと、担
任の先生をサポートしながら、
体育の授業の力量を高めていく
というコーディネーターの重要
性を感じます。

上藤

共通認識や相互理解について
お話させていただきます。

先生方は、子供たちや授業に
対して熱い思いをおもちなので、
まず私が、先生方の思いを大事
にしたいと思っています。

そしてその上で、体育科の学
習であるということを押さえ、

子供の実態に応じて、子供たち
が楽しく安心して授業に参加で
き、「体育の授業は楽しいな」
と感じられるように、さらに、
子供たちが学び、伸びていくこ
とができるように、私たち教師
の役割を考えながら、お互い
お話ができるようにしたいと思
っています。その際、学習指
導要領にも触れながら、できる

だけ分かりやすく、丁寧にお話
しすることを心がけています。

学校訪問等では、その時だけ
のかかわりになることが多く、
前後のことが分からないという
点でもどこかしらを感じることも
ありますが、後日お会いした時
には、できるだけ、こちらから
お声かけしたいなと思っていま
す。先生が、「あの後こうなり
ました」ときらきらした目でお
話してくれる時は、すごくう
れしいな、と思います。また研
修会等のあとに、「やってみま
す」「こうしてみました」とい
う話を聞くと、ああよかったな、
と思います。

大巻

支える側で必要となる共通認
識や共通理解について考えると、
先生方との関係性をつくること
がまず一番重要なのではない
かと思っています。

先生方とお話すると、授業
づくりに対して、子供たちへの
熱い思いや、目の前の子供たち
への愛情が詰まっていることが
分かります。先生方のそういう
思いを私も受け止めさせていた
だいて、その中で先生方の実践
からともに学ぶことも、伴走者
として重要な姿勢であると思
います。指導主事としての役割と

しては、学習指導要領ではこの
ように位置づいていますねとか、
学習指導要領に書かれているこ
とと先生の授業のことが関連づ
くのではないでしうかという
話をする中で、先生方に理解
をいただくことが多いです。

学習指導要領については、田
場先生のお話にもあったので
が、少し難しい表現もあるので、
自分の言葉に落とし込んでから
伝えることを意識しています。

先生方と関わる中で、悩みや
課題について素直に打ち明けて
もらうのが難しいこともありま
す。時間も限られていますし、
聞くことを躊躇している姿が見
られることもありますので、「何
でも聞いてください」、「一緒
に勉強していきましょう」という
姿勢を見せることで、先生方と
の関係性がつくられて、そこで
共通認識も図られていくのでは
ないかと実感しています。

また、仕事をする上で、心理
的安全性というのがとても重要
だなと思って日々生活をしてい
ます、先生方との授業づくりで
も自分の意見や考えを安心して
表現できるようになっていただ
けるように、丁寧にコミュニ
ケーションを図りながら進めて
いきたいと思っています。
成果が見えにくいという課題

がありますので、その場で終わ
るのではなく、次回お会いした
ときに、あの授業どうなりまし
たかなど、後追いをする中で、
先生方の実感や、子供がどう変
容したのかを共有させていただ
くことで、私自身のやりがいにも
つながっています。

そのような営みを繰り返すこ
とで、先生方が自信に満ちあふ
れた実践につなげ、情報を共有
しながら、授業改善の輪を広げ
たいと思っています。

須甲

現場の先生方にとっては、子
供がこのように変わりましたと
か、このような成果を出しまし
たという話を、聞いてくださる
上藤先生や大巻先生のような存
在がいるというのが、幸せなん
だなと思いました。

研修会や授業研の後も気にか
けてくれているということで、
先生方が引き続き学習指導要領
の趣旨をどう具現化していくか、
よりよい授業をしていくかとい
うことにつながっているんだろ
うなと感じます。

田中

私もセンター時代、多くの学
校の授業を見させていただいて、
その中で先生方とお話すると

きに、一番重要視しなくては
いけないと思ったのは課題の共
有でした。田場先生もおっしゃ
たことですが、生徒が多様化し
ている中で、様々な課題を抱え
ていることを認識しなくては
いけないと思います。

高校の体育授業では、課題が
あっても、そこに目を向けなく
ても何となく授業が成り立つて
しまっている現実もあるように
感じます。本来は生徒一人一人
の課題から授業全体の課題をき
ちんと把握し、それに応じた目
標を設定して授業を考えていか
なくてはいけない。そういった
理解を現場の先生にもしてい
ただくのは必要なのですが、た
だそこがすごく難しい。

その難しさの理由の一つとし
て私が考えているのは、体育の
授業ではいまだに技能重視の考
えを持っている先生方が多くい
るのではということ。そう
いった現状からも、先ほど申し
上げたとおり、これからの体育
の学びに共生の視点をどう生か
していくか、そうしたことを先
生方に理解してもらええるかが大
事だと考えています。

今回の実践研究では、研究の
最初と最後で先生方の変容も見
られました。本当に協力的に
やっていただいたのですが、授

業を考えて進めていく中では、我々の意図していることと、現場の先生方がずっと生徒を見てきて考えていることに齟齬があつて、こういう授業をやっていたきたいというのが伝わらなかつたこともありました。

ですので、そこは先生方との信頼関係、大人同士のコミュニケーション能力というのが、支える側としてはすごく必要だと思ひました。どれだけ先生方に信頼してもらえるか、そのため

にも根拠のあるデータや、実際に先生方が効果を感じられるようなものを提案していくことで、生徒が変わっていくのを先生方が実際に目の当たりにすることが、一番大事だと考えます。そのため支える側として、どういう仕掛けを先生方にしていくかというのが、課題でもあり重要なところだと思っています。

須甲

技能重視の先生が多いと先生もおっしゃいましたが、この課題について、先生方自身にどのよう気づいてもらうかという、そういう手だてがありましたら教えていただきたいです。

田中

自分自身も今年から現場へ

戻つて実践している中で、とても難しい課題だと感じています。全体を大きく動かすことはなかなか難しいので、まず少しの変化からでもいいかなと思つて実践しています。やれる範囲で、授業の中の一つの工夫だけでもいいから徐々に変えていって、成功体験を積み重ね、それが周りの先生方にも波及していくことが大事だと考えています。

須甲

ここで石川先生から、四人の先生方にお伺いしたい点や感じたことについて、お話しただければと思います。よろしくお願いいたします。

石川

先生方、貴重なお話をありがとうございます。

田場先生、やはりメンターやピアサポートは非常に効果的なのではないかと思っています。本学の学生の様子を見ていても、力量の高い先生にその場で即座に指導してもらえ、賞賛の声をかけてもらえる実習生は、実習そのものも充実し、力を付けて帰ってきています。

こういう制度を沖縄県で採用したその過程が分かつたら、参考になるかなと思っています。

もう一点は、体育が苦手という先生が多いくることです。が、体育だけでなく、この教科は苦手、自分あまり好きでないというのもあると思います。そういう教科に対して一体どうやって勉強されているのでしょうか。体育のように技能を伴うもので自分ができなかったということを過大に先生方が捉えてしまつて、体育の授業が嫌だと思つていことが考えられませんか。

上藤先生のお話では、一点目としてご自身が授業実践に向いていくというお話でしたが、県の指導主事がこれやることに可能になった理由をお聞きしたいと思っています。

二点目としては、県の指導主事は県内に一人しかないわけ、先生一人で全部の学校を回るのは不可能だと考えます。県と市町村の指導主事が組織的にどう現場の先生方を支えるかというのは重要な視点になるかなと思ふのですが、徳島県としての特徴的な何かがあつたらお聞きしたいです。

もう一つ、行政の立場である大巻先生にも関連しますが、授業研究会での研究協議の持ち方についてお聞きしたいです。参

勉強になる研究協議にしてい

ための、何か特徴的なものや工夫があつたら教えていただきたいです。

大巻先生、一点目としては、小中一緒に授業を見合う中で、中学校区の小学校と一緒に九年間のカリキュラム作成などの下地がないと、授業を見た感想や授業観を伝え合うだけになつてしまつてはもったいないと思ひます。札幌市での授業を見るまでの過程における取組について工夫などがありましたらお聞きしたいです。

二点目は、先生がおっしゃられていた心理的安全性の担保についてです。これは中学生にとつて大切な視点だと私は思ひています。例えば、授業において、技能が低位な子の感じ方にあまり触れずに、できている子たちに対しての指導のほうが多いような気がします。できない子が胸を張れるような指導の仕方についてはどうなのかなと思ひました。

三点目は、中学校では運動部活動を一生懸命やつている先生方もたくさんいると思ひます。今後、部活動の地域展開にあつて、仮にその体育の先生が部活動指導を剥がされるといふ事態になつたときに、体育の学

習指導に目を向けてもらえるようにすることが重要になると思ひています。

部活の教育的価値も分かりませんが、部活動にかける情熱と同じぐらい体育の授業に情熱を注いでもらうにはどうしたらいいか、指導主事の立場でのお考えをお聞きしたいです。

田中先生、インクルーシブや共生の視点についてお話をいただきました。高等学校でこれに取り組まれているのは本当に敬意を表したいなと思ひます。

先生がおっしゃられたように、これまで一般的に言われている技能重視の学習観から、相当転換しないと難しいだろうと思ひます。そういつたときに、学習課題をどう持たせるかがものすごく重要なんだろうと思ふので、先生たちがそこをどう意識化できるかですね。何々ができるようにするという目標のみがあるような授業展開、授業づくりではもう無理なんだろうと思ひています。そのヒントになるのが、実は資質・能力、三つの柱の思考、判断、表現や、学びに向かう力の学習内容に含まれていると考えます。技能以外に目を向けていく授業づくりをどうつくるかをお聞きしたいです。

最後に、本学に長期研修生と

して、体育の学習指導について研究したいという高校の先生が来ています。その先生から高校現場のことをいろいろ聞きますが、そんな状況なのかと考えさせられることもあって、田中先生もきつと同じような思いを持っていらつしやるんだらうと思います。

どこかでこれまでの流れを変えなければいけないのではないかと思います。それに関し

須甲

非常に重要な視点、そして私自身も興味深いことを提示していただいたと思います。

今、石川先生からあったお話も含めて、三つ目の今後に向けて、一層の充実が求められる課題、そして新たな学習指導要領への期待について伺いたいと思います。

田中

石川先生からお話いただいたことを、私もすぐ納得しつつ、重く受け止めているところ

です。

これまでもお話ししてきた共生の視点は大きなキーポイントになると感じています。今後の学習指導要領改訂でも、共生の視点は重要視されていくだろうと考えます。そしてまたこれはチャンスかなと個人的には思っています、技能重視の偏重から、思考、判断、表現とか、学びに向かう力といった、そういう点を授業の中で重視していける体育になっていけばいいなと考えています。

先ほども少し話しましたが、アダプテッドの視点として、多様な生徒の課題に合わせて、場であったり、用具やルールであったり、進め方であったり、そういったものを変えていくことをきつかけとして、誰もが楽しめるような体育の授業を、これからは目指していかなければいけないと思っています。体育はこうでなくてはいけない、という教員側の固定観念をまず壊していくことが大きなポイントだと今回の研究を通して感じました。この研究から学んだことを、いかに多くの学校に広げていけるかが、今後のセンターとしての課題だと考えます。また、現場の先生方の授業改善、授業力向上、そしてカリキュラムマ

ネジメントの実現も当然不可欠だと思っています。

私のように研究に携わった者が、学んだ内容のエッセンスを多くの先生方に伝えて、バトンをつないでいくということが大切であり、今現場にいる私自身の大きな役割かなと思っています。

大巻

私が若い頃、周囲には部活動に愛情を注ぐ先生がたくさんいて、当時は部活動指導にあがられて体育の先生になりたいという理由が多かったかなと思います。最近の学生に何で先生になりたいと思ったのかと聞いたところ、楽しく頑張れる、魅力的な体育授業を実践する先生に憧れを持ってという声が多くなってきたと感じます。

保健体育教師としての魅力が向上すれば、いい授業をしたいと思う先生も増えてくると考えています。ただ、それだけでは今まで部活に情熱を注いでいた先生が、同じような熱量で体育の授業づくりにもということには簡単にはならないと思います。そういう意味でも、部活動の地域移行はチャンスであると考えています。ぜひ、これまで情熱を注いだものを授業改善につな

げ、体育の授業で子供たちが変容する実感を得られる先生を増やしていくことが私の使命かなとも思っているところです。

現行の学習指導要領で、「主体的、対話的で深い学び」という学び方が明確に示されて、特に主体的な学びという点でとても変化があったかと思っています。

学習を進めるにあたり、課題を発見させる手だてを講じたり、子供が自ら自分に合った課題解決できるように練習を選択したり、ルールの工夫を行ったりという、思考力、判断力、表現力等の資質・能力を身に付けることができる授業がとも増えきたなという実感があります。今後いつそう、先生方が子供たちと一緒につくっていく授業がより増えていけばいいなという期待を込めて支援していきたいです。

上藤

できるだけたくさんの先生方に体育の授業づくりについての情報や考える機会を届けたいと思っています。はじめに、体育科の研修会等に参加したことがない先生にも参加してもらえないようにしたい、と話しましたが、体育科の研修会等はハードルが高いと感じる方もいます。今後、

課のホームページなども活用していければと思っています。

実際に研修会等に参加された先生が、校内で伝達してくれることは、とてもありがたいです。

「研修会等の内容を校内で伝達しました、共有しました」という話を聞いたり、紹介したものが実際に体育館に掲示されているのを見たりすると、先生方が受けてよかったと思う内容は広がっていくということを実感しています。研修の在り方も工夫しながら、今後も先生方の授業づくりにつながる研修会等を行っていきたいと思っています。

先ほど石川先生がおっしゃってくださったことについては、私自身とても大切に重要なところだと考えています。組織的な取組という点について、本県は、教育事務所があったり、全ての市町村教育委員会に体育の指導主事がいたりするわけではありません。本県の実態を踏まえた上で、具体的な取組を考えて進めていかなければいけない、というご示唆をいただいたと思っています。研究協議のもち方についても、よりよいものになるよう、工夫改善を図っていきたいと思います。本県には、もう一人小学校担当の指導主事がいます。よりよい取組について相

談したり、中学校の指導主事とも話をしたりしながら進めていくことで、アイデアも広がっていきると考えます。

また、幼児教育と小学校教育の接続や低学年の体育の重要性を感じていて、今後さらに、この点についても大事にしていきたいと考えています。低学年の子供たちが、「体育って楽しいな」と感じたり、体育の授業で「やったあ」「うれしいな」をたくさん実感できたりするように、授業を支える取組を考えていきたいと思っています。

学習指導要領については、資質・能力の三つの柱をバランスよく育んでいくことや、「主体的・対話的で深い学び」が全教科等を通して示されていることは、意味があることだと感じています。

また、「学びに向かう力、人間性等」において、運動領域には、指導内容が示されています。具体的な内容を態度として涵養すること、子供たちが運動の楽しさや喜びを味わったり、学びのある体育科の授業や生涯にわたる豊かなスポーツライフにつながるたりしていくと思います。こういった態度を大切にしていることは、体育科の魅力であり、体育科だからこそだと思います。

います。引き続き体育科の中で大事にしていけるといいなと思っています。

須甲

上藤先生が飛び回っている理由が分かりました。そうなる組織的に対応することは課題ですね。

「学びに向かう力、人間性等」については、中教審の特別部会で個人内評価に移行させて、評定を必要としないという提案がなされました。このことは別途今後検討していく必要があると思います。

田場

体育科指導コーディネーターと体育専科の違いですが、ティームティーチングで先生方の指導力向上を目的としたのが体育科指導コーディネーターで、体育専科は働き方改革の視点から先生方の空き時間をつくるようにということで配置されています。

個人的には、体育の指導力を高めていくために体育科指導コーディネーターが広まってほしいなと思っています。しかし、県の予算的な問題と、文科省等との関わりもあるので、難しい問題だと感じています。

沖縄県では、体育専科は主に高学年に配置されることが多いのです。しかし、個人の意見として、体育科専科は低学年に配置する方が良く考えています。低学年の段階で体育嫌いを生まないために、できるだけ皆さんの「楽しい」があふれた授業を、体育専科が実践することと、中学年、高学年により良くなつていくと考えています。しかしなかなか実現には至っていません。

私は今、教務主任をしながら理科専科をしているのですが、空き時間には体育の授業に入る機会もあります。

先日は二年生の水遊びに入らせてもらいましたが、ティームティーチングの特性を生かして、T1、T2を交代しながら授業を進めることで、体育に苦手意識をもっていた先生が、自信をもって授業を進める姿にとても感動しました。

体育科指導コーディネーターと一緒に、お互いに支え合いながら授業を行うことで、指導力を高めることにつながるのだと、改めて認識しました。

またついこの間には、地区の体育研修会で、二年生の水遊びのプログラムを実践しました。参加した先生方に児童役として

参加してもらい、四十五分間、最初のめあてから終わりの振り返りまで、一時間の進め方について紹介しました。実際に先生方が児童役として研修会に参加することで、より児童の気持ちに触れることができたと思います。参加した先生方からも好評でした。

次期指導要領に関しては、苦手な人こそ難しく捉えてしまう部分があると思うので、「分かりやすく使いやすい指導要領」であってほしいなと思います。

体育を勉強している人でも、これってどういう捉えなのと考えると、しょう部分があるので、どの先生でも身近に感じられる参考書的な捉えの指導要領である、と、体育の敷居も下がるのかなと思います。

先ほど上藤先生もおっしゃっていましたが、他教科とのリンクは今後大きなことと思っています。私は「体育は一つのツール」だと思っています。体育を通して子供たちをどう育てるかというのを常に頭に入れているので、この子供たちが将来よりよく過ごせるために、その隣に体育があればいいなと感じています。そこは常に後輩や同僚と確認しながら、あまり難しく考えず、いつまでも「アイラブ体育」で

いけたらいいなと思っています。

須甲

先生方、すばらしいお話をありがとうございます。

授業のスペシャリストであり、また支える側として様々な視点から先生方の授業改善や子供たちの変容に取り組まれていることをお聞きできて、有意義な座談会となりました。

石川先生、最後のまとめのお話をお願いします。

石川

ありがとうございます。

皆さんのメッセージが全国の先生方にうまく届いてくれるといいなという思いを強くしました。とても幸せな時間を過ごさせていただきました。

吉原

長時間にわたり貴重なお話をありがとうございました。全国の先生方にお伝えしたい内容が盛りだくさんの座談会となりました。

これで令和七年度座談会を終了させていただきます。

中学1年 B 器械運動 ア マット運動の実践である。授業を始めるにあたり、生徒に「マット運動が好きか」のアンケートを実施した。その結果は、【好き 16 人・嫌い 45 人・どちらでもない 6 人】(78 人中) という結果であった。その理由としては、【肯定的意見：回るのが楽しい・技ができるとうれしい・得意、消極的意見：痛い・こわい・練習してもできない】などが挙げられた。

【ゴールイメージの共有】

【シンクロマットでの発表】

今回は、特に苦手意識をもった生徒への配慮を最優先に考えた。個ではなくチームで演技を構成することで、仲間と演技をつくる喜びと、簡単な技でも構成の面で活躍できるといった達成感を感じさせられるようにした。

マット運動への苦手意識克服を目指した授業改善
 ↳シンクロマットでのグループ活動を通して

第1時 安全指導・補助運動の確認・実施

マットの運搬時に安全確認を怠り、危ない場面が見受けられるため注意を促す。補助運動について、特に腕支持の感覚、倒立時の肩に乗る感覚を取り上げ、毎時間行う中で徐々に動きの質を高めることが目標であることを説明した。

第2～5時 感覚づくり、運動修正の考え方確認

なめらかに回ったり、技を連続して行ったりするために必要な要素について考える。

第6～8時 チームでの演技づくり

2～5時で獲得した知識・技能をもとに、技の質を高める。よりよくできるとはどのようなことかについて追究させた。

映像を活用し、客観的に自己の動きを観察することの大切さに触れる。

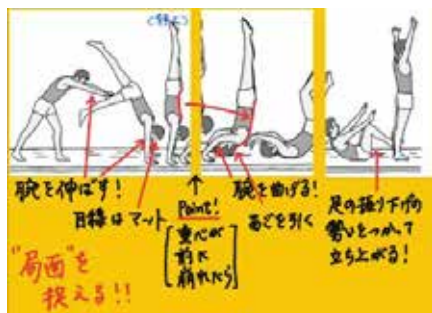
第9時 発表会

お互いの演技を称える態度、他者から学び、別の種目や領域に生かす機会とする。

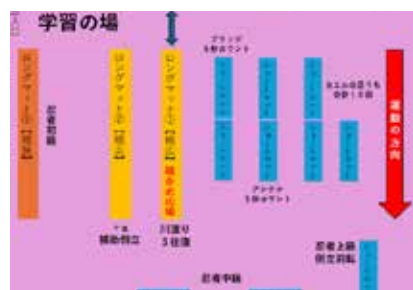
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	単元のねらい・展開
学習の流れ	0	オリエンテーション	準備・補助運動・本時の活動確認							・自分の感覚の細かいところに目を向けさせ、仲間伝えたり、仲間の言葉を理解しようとする活動を行う。 ・生徒の必要性に合わせ、ICT機器を活用し、自分の動きを客観的に見る。 ・仲間を認める
	10		ペアで動きを高めよう！ ～自分の動きと対話し、技を発展させる～ キーワード ・角度 ・スピード ・運動リズム ・タイミング ・目線 ・連続性 ・なめらかに	仲間と動きを高めよう！ ～チームで構成を工夫し、よりよい発表をつくりあげる～ キーワード ・一つ一つの技の精度 ・表現方法 ・ダイナミック				最終確認		
	20		回転系 接転技群 前転グループ後転グループ ほん転技群 側立回転・側立回転技グループはねおきグループ 巧技系 平均立ち技群 片足平均立ちグループ倒立グループ							発表会
	30	演技を構成してみよう！ はじめ～なか～おわり 巧技系→接転系→ほん転系 ・仲間と出来栄を共有する ・自分の課題を捉え、練習につなげる				シंकロマットに挑戦！ ・1曲分の構成を考える ・メンバーの特性を最大限に生かす ・マット運動のポイントをおさえる				
	40	安全で効果的な補助・積極的なアドバイス・自己との対話								
50	補助運動の確認	片付け・振り返り・次時の見通し確認							単元のまとめ	
評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	評価方法
	知識①			②						学習カード・テスト
	技能				①②③④				⑤⑥⑦⑧⑨	観察・映像
	思考			①		②		①	②	学習カード・テスト
	態度		①	②			①	②		観察・学習カード
単元評価	知識	①器械運動には多くの「技」があり、これらの技に順応し、その技が得意な楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。								
	技能	②技の方向は技の課題を解決するための適切な動き方があることについて、学習し、説明や模範を示している。								
	思考	③技をマットに際し、発跳させず回転するための動き方や回転力を高めるための動き方や、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。								
	態度	④安全を考えたより変えたりするなどの動きの仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくなるための動き方、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。								
	思考	⑤バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動きで、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。								
評価規準	態度	⑥回転姿勢や結束姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。								
	思考	⑦提示された動きのポイントやまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。								
	態度	⑧提示された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。								
＊「評価機会」の通常の数字は形成的評価、白抜き数字は総括的評価を示しています。										
＊「知識」の括弧的評価については、単元テストを実施しています。										

ペアで動きを高めよう！

- ・角度 ・スピード、リズム
- ・手足の伸び ・タイミング
- ・目線 ・連続性（安定性）
- ・なめらかさ ・順次接触



生徒は、観察の視点を意識しながら、技の質を高めるためのアドバイスを積極的に行った。また、倒立などの実施者が不安を感じる技については、補助を活用し、できたという感覚を感じられるように練習を進めた。



仲間と動きを高めよう！

- ・一人ひとりの技の質
- ・全体の構成



単元の最後に行ったアンケートでは、マット運動が好きかという問いに対する「好き」の割合は、73%（64人中47人）となった。マット運動で技ができる感覚や、発表の形を個ではなくチームにしたことなどが要因と考えられる。これから実施する領域や種目においても、生徒にできた感覚を与えられる授業を行っていきたい。

んだ。ただやるだけでなく、大きい前転、滑らかな前転とそれぞれ意識してやった。大きな前転とは何か、どうやったらそう見えるかなど色々考えて取り組む事ができた。後転では頭の位置、手の押し方などを考えてやってみた。感覚を掴む事ができたし、何度か成功したので良かった。

なった。私たちの班は体操が得意という人が少ない。だからこそ、上手い演技ではなく、美しい演技ができるように練習で行ってきた、美しく見せるためのタイミングや腕・足の伸ばし方などを意識していきたい。また、美しく見せるためにはシンクロも大切なので班員で声を掛け合いながら息を合わせ、発表では今までの練習を存分に発揮できるように頑張りたい。



【授業を計画・構築するにあたって重点をおいていること】

既存のルールで苦しんでいる生徒がたくさんいる。苦手意識があったり、不安を抱いている生徒の実態に応じた教材を生み出していく。スポーツ文化という素材を生徒の実態や育てたい資質・能力という側面から丁寧に教材化していく。特に生徒が自分で選んでいける余地を単元の中に残すことや、技能の向上に合わせてルールを変えていける構造にするなど、生徒に合わせて単元構成を自分たちで変えていけるように仕組んでいくことに重点を置いている。

【子供たちへの指導、働きかけ等で特に心がけたり、実践していること】

例えば運動が苦手な、球技も苦手な生徒(苦手×苦手)や、運動が得意で球技も得意な生徒(得意×得意)、運動が得意だけど球技は苦手な生徒(得意×苦手)等に配慮した声かけや働きかけを使い分けている。具体的には苦手×苦手な生徒には安心感を与えるために簡単なルールで単元をはじめ、単元当初から自信をもってプレイしていることへのフィードバックを積極的に行っていく。得意×得意な生徒は、上手なところは褒め、課題があるところへの気づきを促す働きかけをする。ボールをコントロールする技能は得意だが、ボールがないところで味方をサポートする動きに課題がある等を自ら気づくようにしていく。また、生徒は教師が感じづらい微妙な変化を感じ取る力が優れている。例えば、この教材に慣れてきて数名が飽きを感じてきたら、生徒が自分たちでゴールの大きさやルールを変換することでさらに魅力的な教材にしていけるようにしている。さらに、技能だけでなく思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の学びも知識及び技能の時間と同じだけの時間を費やし、考えたことや支えることが技能向上につながるように単元計画を組み立てている。

授業づくりのポイント

私の授業実践

埼玉大学教育学部附属中学校(埼玉県)
氏名 阿部 健作

生徒がテーマが夢中になる教材づくりと三つの資質・能力のバランスのとれた育成

【指導計画及び評価計画】第1学年球技(ゴール型:サッカー)の指導計画及び評価計画

【授業展開における工夫】資質・能力の三本柱をバランスよく配置している。人間性をモデリングして、その人間性の学びが染みてきたことに課題解決を取り入れている。

【配慮事項等】生徒の技能向上と学習内容に合わせて教材を変化できるようにステージを第1～第3ステージまで設けている。問いによって教材の価値を高められるようにしている。

学習計画

1時間目にフェアなプレイを守る姿についてモデリングを行い、温かい雰囲気づくりを行う。

2・5時間目の技能はボールを止めて蹴る、空いている空間に動くに絞る

8時間目は座学でパフォーマンス課題に取り組む

(3) 指導と学習計画(8時間扱い) 本時は○印 6/8時								
	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	フェアなプレイについて考え、見通しを持つ。	得点しやすい空間にいる仲間にパスを出す。	技術や戦術、作戦の名称とポイントを整理しよう。	仲間の課題やできばえを伝えよう。	ゴール前の空いている場所に動こう。	補助や助言をして仲間の学習を援助しよう。	チームの課題に応じた練習を選ぼう。	単元を通して学んだことをまとめて、来年度の一年生に伝えよう。
学びに向かう力、人間性等		技能	知識	思考力、判断力、表現力等	知識・技能	学びに向かう力、人間性等	思考力、判断力・表現力等	思考力、判断力・表現力等
学習内容	・オリエンテーション ・自分の役割を知る準備の仕方を考える。 ・フェアなプレイを考える。 ・特性や作戦について学ぶ。 ・メインゲームに取り組む。	・ボールの止め方、パスの出し方を知る。 ・ボールを正確に止めたり、蹴ったりできるように練習に取り組む。 ・W-Up ゲームのやり方を知り、行う。 ・ゲームの分析方法を知る。	・技術や戦術、作戦の名称を整理する。 ・ボールを止めずに正確に蹴る方法を知る。 ・ボールを止めずに正確に蹴れるように練習に取り組む。 ・ゲームの分析を行う。	・ボールの運び方について知る。 ・ボールを有効に運べるように練習に取り組む。 ・仲間の課題や出来栄について伝え方を知る。 ・仲間の課題や出来栄を伝える。	・空いている場所について考える。 ・空いている場所への有効な動き方の練習を行う。 ・チームの作戦を考える。 ・チームの役割分担、戦術の課題を見出す。	・空いている場所について考える。 ・空いている場所への有効な動き方の練習を行う。 ・補助や援助の仕方について考える。 ・自チームに合った練習を実施する。 ・さらなる作戦を考え、練習を重ねる。	・空いている場所への有効な動き方の練習を行う。 ・戦い方、課題、練習方法の選択を行う。 ・ゲームにおける課題解決に向けた話し合いを行う。	・パフォーマンス課題「来年度の一年生に教えてあげよう」に取り組む。 ・自分が単元を通して学んだことをまとめた授業ポスターを作成して他者に伝える。
学習過程	【第1ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム①	【第2ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム①	【第2ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム①	【第3ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム②	【第3ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム②	【第3ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム②	【第3ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム②	【第3ステージ】 1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム②
	1 特性や約束の確認 2 学習の準備 ・パフォーマンス課題の提示 ・学習カード ・学習の見通し ・役割分担 ・目標の確認 3 これまでの復習 4 試みのゲームでの現状把握 5 月付け 6 学習の振り返り 7 次時の予告	7 ボールを止め方の知識確認 8 ボールを止める練習に取り組む 9 ゲーム分析方法について知る 10 メインゲーム① 11 分析結果の話し合い 12 集合・整理運動・健康観察 13 学習の振り返りとまとめ 14 次時の予告 15 挨拶・月付け	7 ボールを止めずに正確に蹴る方法の知識確認 8 ボールを止めずに正確に蹴る練習 9 タスクゲーム 10 メインゲーム① 11 分析結果の話し合い	7 ボールの運び方の知識確認 8 ボールの運び方の練習 9 タスクゲーム 10 メインゲーム① 11 分析結果の話し合い	7 空いている場所への有効な動き方の知識確認 8 空いている場所への有効な動き方の練習 9 タスクゲーム 10 メインゲーム② 11 分析結果の話し合い	7 練習の補助や仲間への助言についての目標確認 8 空いている場所への有効な動き方の知識確認と有効な動き方の練習 9 タスクゲーム 10 メインゲーム② 11 分析結果の話し合い	7 パフォーマンス課題の再提示 8 パフォーマンス課題に取り組む 9 パフォーマンスを交流する 10 単元のまとめを行う 11 次の単元の予告と挨拶	
評価の計画	加 技 思 考 力 知 識 表現 力 方法 場面 1, 2	(2) 8, 10	① 7, 13	① 10, 11	② 9, 10	② 9, 10, 11	② 8, 9, 10	① 4, 6, 8

① 本実践で使用したボール



製品名：ミズノ キックパットジュニア
直径 約 230mm
高さ 約 90mm

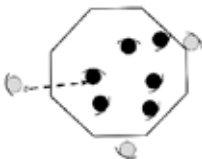
②メイン教材



【ルール】

- ①四角形の 360 度ゴール
- ②3 人が攻撃、1 人が守備
- ③45 秒×2 でたくさん得点を決めたチームの勝ち
- ④守備チームがエリア内でボールを踏むと一度外にボールと人を出す

③下位教材



【ルール】

- ①スライドボールで行う中あて
- ②ボールを蹴って人に多く当てる
- ③30 秒でたくさん当てたチームの勝ち
- ④当たっても中に居る

【第1学年球技（ゴール型：サッカー）の実践】

ボールに苦手意識のある生徒が多い実態から①のようなスライドするボールを用いた。また、②のように3対1でゴールを目指すスライドセストをメイン教材とした。③を下位教材としてボールを止めたり、蹴ったりすることに集中できるようにした。④は運動もサッカーも苦手な生徒 B が授業後半で適切なサポートが増えた様子である。その他、技能向上に向けて分析結果からチームや個人の課題を克服する姿や、出ていないときにサポートし合う姿が見られた。

④運動もサッカーも苦手な生徒 B がサポートする様子



3 時間目はその場に留まっていたが、8 時間目は左右に動いてパスコースを作る姿が目立った。

	On the ball				Off the ball			
	意思決定 (on-off)	技能発揮 (on-on)	サポート (off-off)	調整 (off-on)	意思決定 (on-off)	技能発揮 (on-on)	サポート (off-off)	調整 (off-on)
3 時間目	5	0	5	0	0	3	1	1
8 時間目	5	0	6	3	6	3	8	1

ポート



籠



フープ



ミニバス



③運動が苦手な球技も苦手な生徒 B の様子



3 時間目はその場に留まっていたが、9 時間目は角度を生んでパスコースを作る姿が目立った。

	On the ball				Off the ball			
	意思決定 (on-off)	技能発揮 (on-on)	サポート (off-off)	調整 (off-on)	意思決定 (on-off)	技能発揮 (on-on)	サポート (off-off)	調整 (off-on)
3 時間目	5	3	5	4	5	4	5	4
9 時間目	15	3	11	5	10	4	11	4

【第2学年球技（ゴール型：バスケットボール）の実践】

ケガへの心配を抱える生徒が多い実態からボールは片手でも扱うことが可能なミニバスの 5 号球を使用し、①のポートボールをメイン教材とした。①ではボールをキープしてボールを奪われないことを目指したが、②のように籠ゴールに発展させることでシュート局面に重きを置けるようにした。さらに固定ゴールに発展させることで、攻撃のバリエーションが増えるように工夫した。③のようにずっと止まってしまう生徒 B がサポートにゴールとは反対方向に動く姿が増えた。単元後半では態度(共生)について取り上げ、これまでの 6 位と 1 位のチームが戦う中で自分たちに合うルールを創造しながら試行錯誤する姿が見られた。

①メイン教材 ポートボール

教材 I



製品名：
アディダス バスケットボール 5 号球

【ルール】

- ①ゴール台に人が立ちボールをキャッチしたら得点
- ②4 人が攻撃
- ③2 分×3 でたくさん得点を決めたチームの勝ち

2 時間目はポートボールゲームの中でボールをキープする力を磨く

4 時間目に違いを認め合う姿のモデリングを行う

7 時間目までに資質・能力の三本柱をバランスよく指導する。これまでに身に付けた技能と 4 時間目の違いを認め合う姿の目標像、6 時間目の違いに応じた作戦を選ぶ知識を活かして 8 時間目に違いを踏まえて戦えるゲームづくりに取り組む

(3) 指導と評価の計画 (10 時間扱い) 本時は○印

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	話し合いに参加しよう。 学びに向かう力、人間性等	技術	分析した役割に応じた活動の仕方を見付けよう。 思考力、判断力、表現力等	一人一人の違いに応じた課題や戦術及び修正などを認め合うよう 学びに向かう力、人間性等	ボールとゴールが同時に見える場所からシュートを決めよう。 技術	試合で戦術の相違に応じて作戦や戦術を修正しポイントを整理しよう。 知識	攻防を制し、勝敗を決めよう。 知識	違いを踏まえて、仲間と協力して課題やゲームを行う方法を考えよう。 思考力、判断力、表現力等	分析した役割に応じた活動の仕方を見付けよう。 思考力、判断力、表現力等	単元を通して学んだことをまとめて、発表に役立てよう。 思考力、判断力、表現力等
指導内容	・オポジットポジション ・自分の役割 ・準備の仕方 ・話し合いへの参加について ・特性や作戦 ・メインゲーム	・ボールのキャッチの仕方 ・攻撃におけるボールをキープする有効性 ・パワーポジション ・パスゲーム、パスゲーム、パスゲーム ・パスゲーム、パスゲーム、パスゲーム	・チームの役割を確認し、有効性を振り返り課題を認識させる。 ・ボールを有効に運ぶように練習 ・話し合いでの役割を確認し、有効性を振り返り課題を認識させる。 ・チームの課題や出来栄を伝えさせる	・一人一人の違いがあること、それを生かした練習やゲームがあることを確認させる。 ・チームの戦い方に応じた個人の役割を確認させる。 ・一人一人が自分の課題を認識し、チームで共有させる。 ・新しいゲーム	・ボールとゴールが同時に見える場所からシュートを決めよう。 ・シュートを意識した有効なポジションとそれを生かす攻撃のポイント ・チームの作戦案 ・チームの役割分担、個人の課題	・よりよいポジションでパスをもらいシュートを狙う。 ・チームの作戦を考え、チームの役割分担、個人の課題を見いださせる。 ・自チームに合った練習を実施する。 ・さらに作戦を考え、練習を重ねさせる。	・攻防の展開の仕方、勝敗を決めるポイントを整理する。 ・これまでの学習を生かして、様々な状況のゲームに取り組めるようにする。	・一人一人の違いについて考えさせる。 ・一人一人の得意なことを認め、みんなが楽しめるゲームについて考えさせる。 ・違いを生かしたゲームを考案させる。 ・ゲームにおける課題解決に向けた話し合いを行う。	・チームの役割を確認し、有効性を振り返り課題を認識させる。 ・ボールを有効に運ぶように練習 ・役割を確認し有効性を振り返り課題を認識させるようにする	・バリエーションを課題「全員が楽しめるようにバスケットを行うためには？」に取組ませる。 ・自分が見た授業ポイントを授業で観るに役立てる。
学習	【第1ステージ】 ボールをキープすることに重点を当てやすいゲーム	【第2ステージ】 よりよい状況でのシュートに重点を当てやすいゲーム	【第3ステージ】 一人一人の違いを踏まえてやりやすいゲーム							

授業づくりのポイント

創造性の 捉え

- 個人：基本技能の練習を通して、自己の動きが更新されていく
 集団：グループ内でアイデアを出し合い、一つの演武を創り上げる

【手立て①個】空手道学校訪問プロジェクトによる出前授業

- ・講師が実演する演武を観戦し、挙動のキレ、動きや動作の迫力を実感する。
- ・講師の指導の下、突きや蹴りなどの基本技能を学習する。

【手立て②個】空手道の基本技能の習得に向けた活動

- ・教師から配信された「スキルチェック表」を用いた評価活動を行う。
- ・空手道の習熟者である当校の職員からも、アドバイスを受けながら練習する。

【手立て③集】「演武構成シート」を用いた創作活動と共有

- ・基本型Ⅰをベースにし、一人が4挙動を担当してオリジナルの演武を創る。
- ・担当した挙動を画像共有アプリで共有し、修正と確認をしながら練習する。

【手立て④集】演武のグループ間評価

- ・「中間発表」で課題を明確にし「まとめの発表」で完成形を創り上げる。
- ・「中間発表」では、「評価シート」の視点に沿ってグループの評価を行う。

創造性に着目した体育授業の単元開発 ～空手道の演武創作～

上越教育大学附属中学校

金子 秀史

単元の指導計画（全11時間）

○評価に用いる評価

●学習改善につなげる評価

	◇主な学習活動 ◎具体的な手立て	評価の観点			評価規準等 (評価方法)
		知	思	態	
導入 (1)	◇空手道を学習する意義やねらいを理解する。 ◎全日本空手道連盟の資料や生徒への事前アンケートを基に作成したスライドを提示する。 ◇空手道の歴史と特性について知る。 ◎空手道への興味や関心を高めることができるように映像資料を用いて説明する。			●	●空手道への興味や意欲を高め、取り組む価値について考えている。 (ワークシート)
展開 (9)	◇空手道学校訪問プロジェクトによる出前授業を体験する。 ◎日本空手道連盟のスタッフから、空手道の基本技能について教わる活動を位置付ける。 ◇基本技能の習得を目指し、繰り返し練習をする。 ◎技能の習熟度を客観的に測ることができるように、スキルチェック表に照らし合わせながら仲間同士で評価し合う活動を位置付ける。 ・上段受けの位置が頭付近で、技を受けると腕ごと頭に当たるので、肘の角度をもう少し広げたほうがよい。 ・中段突きの際に脇が空いてしまっているの、脇腹を擦るように最短距離で突き出すように意識した方がよい。 ◇講師の前で基本技能の発表を行う。 ◎講師からのアドバイスを基に、より正確で迫力のある動作を目指して練習するように促す。 ◇グループに分かれて演武を創作する。 ◎一人一人の意見を大切にした演武を創作するために、個人で考えた動きを演武構成シートにまとめ、共有する活動を位置付ける。 ◇中間発表を行う。 ◎グループ間で評価し合う活動を位置付ける。 ・力強い足の運びができていた。方向転換をするときにもっとスムーズに方向を変えることができるとうい。 ・動きは一致しているが迫力が足りない。もっとキレのある突きや受けができるとよい。 ◇自分たちの演武を見直し、グループ練習を進める。 ◎中間発表でもらったアドバイスを基にし、迫力やまとまりなどを意識して練習するように促す。 ◇まとめの発表を行う。 ◎グループ間で評価し合う活動を位置付ける。 ・中間発表よりも方向転換がスムーズになっていて、次の一步の移動がそろっていて美しかった。 ・突きや受けの動作が迫力あるものになっていた。止めるところや動き出すタイミングがそろっていて、とても見応えがあった。	●	●	○	●空手道の技能について知識を深めている。 (ワークシート) ●仲間の技能的な課題について自分なりの意見や考えをもち、仲間と伝え合っている。 (ワークシート) ○基本姿勢や歩法、突きや蹴りなどの技能を、より正確に迫力のある動作で行うことができる。 (スキルチェック) ○仲間の発表について自分なりの意見や考えをもち、伝え合っている。 (ワークシート) ○迫力のある動作やまとまりの演武を目指して、自主的に活動に取り組もうとしている。 (ワークシート)
まとめ (1)	◇この単元における学びをまとめる。 ・初めて空手道に取り組んだ。突きや受けは単純な動きだと思っていたが、細かな点に意識を向けることで美しく、迫力のある動きになるのだと実感した。みんなと動きをそろえる演武は難しかったが、正確で迫力のある動きに近づいたときは気持ちが高かった。			○	○学習を振り返り、空手道の奥深さについてまとめようとしている。 (ワークシート)

【手立て①個】空手道学校訪問プロジェクトによる出前授業



【生徒の振り返り】

「痛そう」「怖そう」というイメージがあったけれど、ぴったりとそろっている演武を見ると、人を感動させられるものなのだと実感した。ここまでそろえるのは難しいと思うけれど助けて練習したい。

【手立て②個】空手道の基本技能の習得に向けた活動



【生徒の振り返り】

ペアで確認したが、ペアの仲間の蹴りがピタッと止まっていたてきれいだっ。私は中段受けのときに手が上がり過ぎてしていると教えてもらったので、そこを次は気を付けたい。チェック表を確認しながら、復習をしたいと思う。

【手立て③集】「演武構成シート」を用いた創作活動と共有



【生徒の振り返り】

班のみんなで考えた動きを練習して、動きの合わないところや少し不自然なところを修正した。みんなで合わせたときに、合いにくかった部分を「受け」に変えたことで、前よりも動きをそろえることができたので良かった。

【手立て④集】演武のグループ間評価



Aグループの演武



Bグループの演武

単元終了後の生徒の振り返り

武道は「真剣にやらなければいけない」「楽しんではいけない」と思っていた。しかし、現代の日本では武道をする人が少なくなっているのだから「楽しい」と思うことは大切だと今回の授業を通して思った。最初はダンス感覚で行っていて「本当にこれでいいのだろうか」と思ったこともあった。しかし、「動く」「踊る」のではなく、「相手」を想像して「突く」「蹴る」「受ける」を意識して行くと、技能も向上し、真剣にやることを楽しむことができるようになった。ただ「動く」ことを楽しむのではなく、「武道」の楽しみが少し分かったような気がする。これからは、機会があれば、空手道などの武道をテレビなどで見てみようと思う。

授業づくりのポイント

【授業を計画・構築するにあたって重点をおいていること】

「教材のねらいのしぼり込み」「確かなめあてのもとせ方」「3つの資質・能力の向上につながる評価のあり方」「3つの資質・能力をバランスよく育てるための工夫」という4つの視点をもとに授業を構想した。

【子どもたちへの指導、働きかけ等で心がけたり、実践したりしていること】

- ・「ボールを持たないときの動き」に焦点化し、子ども自身が自分の課題や成長を見つけやすい授業設計にした。
- ・「オフザボールシート」によって、子どもが個人のめあてをもって授業に取り組み、自己評価・相互評価をしながら学びを深められるようにした。
- ・1人1台端末を活用することで、教師が児童の動きを記録・分析し、個別に的確なフィードバックを行った。

オフザボールシート

	動き	パス	シュート	得点
●シュートにつながる ●パスにつながる	ペアがOをする。 自分もOだったらOにする			
ボールを持っていないときの動き				
① パスしたらすぐに移動している				
② 味方（ボールマン）から離れるように移動している				
③ ボールマンより前に移動している				
④ ディフェンスがいなくてもを素早く移動している				
⑤ 自分とボールマンとの間にディフェンスを入れないように移動している				
合計				

私の授業実践

全ての子どもに運動の楽しさや喜びを味わわせ、自ら学ぶ力を育てる体育学習
 ～1人1台端末を活用し、個別最適な学びを保障する授業のあり方～

大分市立明治小学校 石川信太郎

学習計画

時間	1	2	3	4	5	⑥	7	8
主なめあて	フットホッケーの行い方を知ろう	みんなが楽しめるフットホッケーにするためにはどうすればよいのか		パスでボールをつなぎ、シュートするには、どんな作戦にすればよいのか			これまでの学習を生かしているいろいろなチームとの対戦を楽しもう	
0	集合・あいさつ・準備運動	用具の準備・集合・あいさつ・準備運動						
15	単元の内容、ねらいの説明	ゲームにつながる補助運動						チーム練習（補助運動を選ぶ）
30	ゲームにつながる補助運動	ルール会議	ゲーム①（3対2、提示したルール）	考えられる動きの出し合い・めあて、作戦の共有	ゲーム①（3対2、考えられる動きを基にした作戦で）※互いのめあてや作戦を視点にしてペアで見合う	めあて、作戦の共有（チームーペア）	ゲーム①	作戦会議等
45	試しのゲーム（3対2、提示ルール）	ルール会議 ※ルールの変更あり	ゲーム②	教え合い・作戦会議（ペア→チーム）	ゲーム②	ゲーム②	ゲーム③	作戦会議等
		ルールの確定					ゲーム④	
	振り返り・片付け							

【対象学年と単元】

5 年生「ボール運動」：ゴール型（フットホッケー）

【授業展開における工夫】

- ・柔らかいディスクを使用し、操作のしやすさや安全性に配慮
- ・攻守交代型の簡易ゲーム（3 対 2）で運動量と状況判断力を向上
- ・毎時間のはじめに自分のめあてや作戦を仲間と確認
- ・オフザボールシートを使って個の目標とチーム戦術をリンク
- ・チームタイムでは 30 秒ずつ発表の時間を保障し、全員が表現できる場を設定

【配慮事項】

- ・伝えることが苦手な児童には個別支援や問いかけを行い、安心して発言できる環境をつくる
- ・実際の動きを用いた共有で言語的理解を補完
- ・タブレット端末を使った作戦ボード活用により、視覚的・身体的に理解を深める

〈ゲームの様子〉



〈チームタイムの様子〉



〈単元終了後のワン・ページ・ポートフォリオ〉



〈6時間目のシート〉

チームのめあて(作戦)	自分のめあて
スルーパス 作戦	1
6時間目のふりかえり	
「ゴールの姿」に対して、今日の自分は何点？	
73 点	
今日1番良かった自分の姿【動画】	
【点数の理由】	
・自分達のチームで決めた作戦を成功することができました。自分が味方にどうして欲しいかを、くわしく伝える事ができました。チームで作戦をする時も、良かったところ、悪いところをたくさん話す事ができました。あと、作戦のおかげでゴール（点）を決める事ができました。 ・考えたことを友だちに伝えることができましたか？	
【理由】	
・私は、味方に置ったボールが届かなかったけど、もう少し近くに寄って欲しいと言ったら、味方はパスが届くように近づいてくれたから、そのおかげで、自分がどこに動けばいいかが分りやすかった。	

〈指導者のアドバイス〉

オフザボールシート	2時間目のふりかえり
ゴールの姿に近づいたら、パスを渡す。 ボールを渡す時に1回1秒の動き ゴールの姿に近づいたら、パスを渡す。 ゴールの姿に近づいたら、パスを渡す。	「ゴールの姿」に対して、今日の自分は何点？ 75 点 【点数の理由】 ・ゴールに近づけた。 ・ゴールに近づけた。 【理由】 ・フットホッケーのポイントが、速く移動する、ということがわかった。

ボールマンから大きくはなれる動きをしてみよう！

ネット型の運動の特性を踏まえた、簡易化されたゲームの工夫
ソフトバレーボールにおける技能の習得やルールの工夫に向けて

1 授業づくりのポイント

本授業では、味方にボールをつないだり、ボールを打ち返したりするなどのバレーボールの簡単な技能を身に付けることができ、全員がソフトバレーボールを楽しめる為に、ルールや作戦を工夫することを目指し、以下の手立てで授業提案を行った。

(1) ソフトバレーボールにおける簡単な技能習得の手立て

① 単元を通したドリル運動

オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、アタックなど基本の動きを習得できるように、毎時間導入においてドリル運動を取り入れるようにした。また、単元の後半では習熟に合わせてドリル運動を選択できるように多様な場を設定した。

② タブレット端末を活用した客観的分析

タブレット端末のタイムシフトカメラ機能を活用して、自己のプレーする姿を客観的に分析できるようにした。また、毎時間技能に関する自己評価カードを記入させ、技能の向上を実感できるようにした。

(2) 全員がソフトバレーボールを楽しむための手立て

① 簡易化されたルールの設定

ラリーが続くように、ボールをキャッチしてもよくしたり、多くの児童がボールに関われるようにローテーションを取りいれたりするなど、子供の実態に合わせてルールを設定した。

② 道具、コートの広さ、ボールの種類などの工夫

子供の技術の向上に合わせて容易にネットの高さを変更できるようにバドミントンのネットを活用したり、アンダーハンドパスが安定してできるようにビート板を活用したりした。また、ボールに恐怖心を感じている子供もいた為、風船や柔らかいボールを選択して活動に取り組めるようにした。

③ ICT を活用した作戦等の設定

試合の動画をチームごとに撮影し、作戦タイムでチームの課題を共有し、次のゲームに向けて練習やポジションに生かせるようにした。また、タブレット端末を活用して作戦ボードを操作し、教師側が用意した作戦などを選択できるようにした。

2 単元の指導計画

時	学習活動	単元の評価基準		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
1	・試しのゲームをして、単元全体のめあてを決める。 ・単元全体を通したドリルゲームの確認をする。	・単元全体を通したドリル運動のやり方や意図を理解することができる。	・単元のめあてを達成するために、道具やネットの高さ、ルールの工夫などを考えることができる。	・試しのゲームを基にソフトバレーの運動の価値や特性に気付くことができる。
2・3	・課題に合わせてみんなで楽しめるルールを設定する。 ・ゲーム①→ルール設定→ゲーム②	・能力に応じてドリル運動に取り組むことができる。 ・片手や両手で味方にボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したり、サーブを打ち入れたりするなどの簡単な技能を身に付けることができる。	・自分のチームの合った作戦を設定し、ゲームを楽しむことができる。 ・自分や仲間の成果や課題を振り返ることができる。	・チーム内での掛け声や喜び方を設定し、励ましたり認め合ったりしながら楽しくプレーすることができる。
4・5	・課題に合わせてチーム毎に作戦を設定する。 ・ゲーム①→作戦設定→ゲーム②			・ルールを守り、役割を分担しながら、安全に楽しく運動することができる。
6	・自分たちが設定したルールや作戦を生かしてソフトバレー大会を行う。			

3 実践の様子

(1) ソフトバレーボールにおける簡単な技能の技能習得の手立て

① 単元を通したドリル運動

自分やチームの実態に合わせて、技能の習得を目指したドリル運動に取り組んだ。練習内容を自分たちで話し合う機会も設けたことで、より実態に合わせた練習に取り組み、チーム力向上に繋げることができた。



(1)-①ドリル運動(ブロックの練習)

② タブレット端末を活用した客観的分析

アタックの練習では、タイムシフトカメラ機能を活用して自分の動きを確認できるようにし、ボールを捉えるタイミングやトスの高さを意識できるようにした。視覚的に技能の向上が確認できた事で、自己評価カードの技能の向上に関する数値も、単元が進むに連れ向上が見られた。



(1)-②タイムシフトカメラ機能の活用

(2) 全員がソフトバレーボールを楽しむための手立て

① 簡易化されたルールの設定

試しのゲームを行う中で、ラリーが続かないという実態が把握できた。そこで、相手からの返球をキャッチするという簡易化したルールに変更したことで、ラリーが続き笑顔でゲーム楽しむ子供が増えていった。また、ボールに関わるのが苦手な子供も多かったので、サーブごとにローテーションを行ったり、ポジションによって役割を設定したりしたことで、積極的にボールに関わる子供が増えていった。

② 道具、コートの広さ、ボールの種類などの工夫

ボールを怖がって、運動に取り組むことができない子供が多かったので、風船やビーチバレーボールなど、柔らかいボールをドリル運動の中で選択できるようにした。少しずつボールに慣れていったことで、より積極的にボールに触れる子供が増え、最後のバレー大会では全員がボールを怖がらずにプレーすることができた。また、アンダーハンドパスがうまくできない子供に対して、ビート板を持たせてアンダーパスをすることで、どのような角度でボールが跳ね返るのかを意識させる事ができ、技術の向上に繋げることができた。



(2)-②ア 実態に合わせたボールの選択



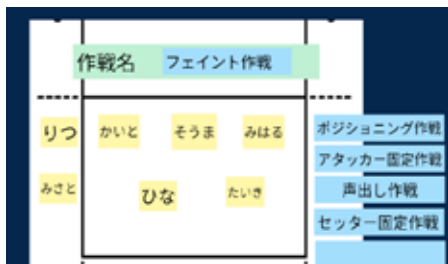
(2)-②イ ビート板を活用したパスの練習

③ ICT を活用した作戦等の設定

試合の動画を撮影し、チームの動きや課題を確認することで、練習の工夫やポジション、作戦の工夫に生かすことができた。また、タブレット端末を使い作戦ボードでチームの目標を共有する事で、チームの勝利の為に実態に合わせた活発な意見交換が行われた。



2-③ア 試合の動画を撮影



2-③イ タブレット端末で作戦やポジションの選択



2-③ウ 意見交換の様子

主体的に運動に親しむ児童の育成
～協働的に学び合う体育的活動を通して～

授業づくりのポイント < 単元を通した指導の工夫及び手立て >

(1) 主運動へつながる基礎感覚運動（パワーアップタイム）の工夫

技を行う上で必要な技能や感覚を養うために、単元を通して「基礎感覚運動」を取り入れ、主運動のどの部分に繋がるかを意識させながら進める。8つのコースをグループで順番に進んでいくようにさせ、色々な動きの中からマット運動に必要な基礎感覚を身に付けさせた。

(2) ICT 機器「タブレット」の活用（学習支援ソフト：ロイロノート）

児童一人一人が自分の課題点を把握するために、タブレットを活用し児童間で動きの撮影をさせた。その際、視点を明確にして撮影させ、より具体的なアドバイスができるようにした。また、事前にダウンロードした「手本の動画」と比べながら進めることで課題解決の手立てとした。

(3) 教具活用の工夫

自己の能力に適した技を選び、課題解決に向けて練習を工夫する場面の手立てとして、様々な教具を選択させ活用させた。

単元指導計画（マット運動：5年生）

単元前半に、回転技・倒立技（巧技系）の「技のコツ」を習得し、後半に仲間と練習方法を工夫しながら取り組む場面を設定した。

		1	2	3	4	5	6	7	8	
学習の流れ	0		1. 整列・あいさつ・柔軟運動		2. 基礎感覚運動（パワーアップタイム）			3. めあての確認		
	5	【めあて】 マット運動の学習の進め方を知ろう	【めあて】 回転技のコツを見つけよう	【めあて】 回転技のコツをもとに練習方法を工夫しよう	【めあて】 倒立技のコツを見つけよう	【めあて】 倒立技のコツをもとに練習方法を工夫しよう	【めあて】 自分の課題にあった場で、練習方法を工夫してできそうな技に挑戦しよう	【めあて】 できる技で発表会を楽しもう		
	15	4. オリエンテーション ・学習の進め方 ・1時間の流れ ・技の種類 ・学習の約束 ※体育館でスライドを使って行う。	基礎感覚運動（パワーアップサーキット） ①前転コース ②後転コース ③うさぎ・かえるコース ④うで支持歩きコース ⑤川遊びビョンビョンコース ⑥倒立パターンコース ⑦逆立ち歩きコース ⑧ボール前転コース							
	25	5. 柔軟運動やパワーアップサーキットを楽しくやってみる。	4. ポイントタイム ・「技のポイント」をもとに、コツを見ながら楽しく回転技にチャレンジする。 【回転技】 大きな前転 開脚前転 とび前転 後転 開脚後転 伸膝後転	4. ポイントタイム ・「技のポイント」をもとに、コツを見ながら楽しく倒立技にチャレンジする。 【倒立系技】 壁倒立 補助倒立 倒立 倒立ブリッジ 腕立横跳び越し 倒立前転 側方倒立回転 ロンダート	4. ポイントタイム ・自分の課題に合った場で、練習方法を工夫しながら、友達と学び合いながら練習する。 ・自分の課題を明確にさせ、めあてを持って取り組ませるようにする。 ・ペアやグループで目的意識を持って練習させるようにする。	4. ポイントタイム ・自分の課題に合った場で、練習方法を工夫しながら、友達と学び合いながら練習する。 ・自分の課題を明確にさせ、めあてを持って取り組ませるようにする。 ・ペアやグループで目的意識を持って練習させるようにする。	4. 発表練習 ・できる技を連続で行ったり、組み合わせたり、友達とシンクロしたりしながら楽しく練習する。	4. 発表練習 ・できる技を連続で行ったり、組み合わせたり、友達とシンクロしたりしながら楽しく練習する。		
	40	<柔軟運動> ・首や股関節を中心にマット運動で使う体の部分を伸ばす。	★ICT機器（タブレット）の活用目的 ・タブレットを使って、友達とお互いの動きを撮影し、動きの課題点を確認する。 ・自分の動きと手本の動きを比較する。						5. 発表会 ・できる技で、「発表会」を行う。 ※個人、ペア、グループは子どもたちで考えさせる。	
	45	<パワーアップサーキット> ・基礎感覚運動の意味を理解し、8つのコースを楽しくやってみる。	5. チャレンジタイム ・見つけたコツを使って、友達と技を見合ったり、お互いにアドバイスし合ったりして、学び合いながら練習を進める。 ※お互いの動きをタブレットで撮影しながら進める。 ※ペアやグループでそれぞれの課題に沿って、解決の仕方を考えたり、練習の場を変えたり工夫したりして取り組む。	5. チャレンジタイム ・見つけたコツを使って、友達と技を見合ったり、お互いにアドバイスし合ったりして、学び合いながら練習を進める。 ※お互いの動きをタブレットで撮影しながら進める。 ※ペアやグループでそれぞれの課題に沿って、解決の仕方を考えたり、練習の場を変えたり工夫したりして取り組む。	5. チャレンジタイム ・見つけたコツを使って、友達と技を見合ったり、お互いにアドバイスし合ったりして、学び合いながら練習を進める。 ※お互いの動きをタブレットで撮影しながら進める。 ※ペアやグループでそれぞれの課題に沿って、解決の仕方を考えたり、練習の場を変えたり工夫したりして取り組む。	5. チャレンジタイム ・見つけたコツを使って、友達と技を見合ったり、お互いにアドバイスし合ったりして、学び合いながら練習を進める。 ※お互いの動きをタブレットで撮影しながら進める。 ※ペアやグループでそれぞれの課題に沿って、解決の仕方を考えたり、練習の場を変えたり工夫したりして取り組む。	5. チャレンジタイム ・見つけたコツを使って、友達と技を見合ったり、お互いにアドバイスし合ったりして、学び合いながら練習を進める。 ※お互いの動きをタブレットで撮影しながら進める。 ※ペアやグループでそれぞれの課題に沿って、解決の仕方を考えたり、練習の場を変えたり工夫したりして取り組む。	5. 発表会 ・できる技で、「発表会」を行う。 ※個人、ペア、グループは子どもたちで考えさせる。		
		【キラリタイム】友だちの良い動きを全員で認め合い、技のポイントや上手にできるコツ等を全体で共有する。								
		6. ふり回り（自分の課題やペア、グループでの練習の工夫等をふり返る。※必要に応じて実技と結びつけて発表させる）								
	評価規準	主体的に取り組む態度①③	知識・技能①	思考・判断・表現①	知識・技能②	思考・判断・表現②	思考・判断・表現③	知識・技能③	主体的に取り組む態度②	

<主運動へつながる基礎感覚運動の工夫>

8つのコースをグループで順番に進んでいくようにさせ、「できた」「できない」にこだわらず、楽しみながら取り組ませ、色々な動きの中からマット運動に必要な基礎感覚を身に付けさせた。



<ICT 機器「タブレット」の活用>

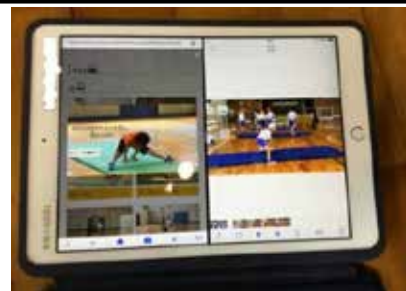
- ① 1人1人が自分の課題をしっかりと把握し、撮影してもらい視点をしばって自分の課題点を撮影してもらい、課題解決の手立てとした。
- ② 自分の動きのどの部分が課題なのか、どのような動きに近づきたいのか、理想の動きを確認し話し合いの視点を明確にすることで、より質の高い協働的な学びにつながった。その際、ロイロノートの「画面分割機能」を利用し、自分の動きと手本の動きを「2画面表示」で確認できるようにしたことで、より自分の動きの課題点に気づくことができるようになった。



↑互いに撮影し合う様子



↑課題解決に向けて話し合う様子



↑お手本動画との比較

<目的を明確にした教具の活用>

ペアやグループで練習を進める手立てとして教具を活用させた。その際、「〇〇(技)の、〇〇(自分の課題)ができるようになるために、〇〇(用具)をつかう」等、目的を明確にもって活用するよう助言した。

▼倒立技の練習場面で、足をついて練習した。伸ばすために、ゴム支柱を使う



▼手形マットを作成し、どのように着手するとよいか思考判断させた。

第六十三回 全国学校体育研究大会 山口大会を終えて

山口大会実行委員会 会長 藤井 邦夫



令和六年十一月に、第六十三回全国学校体育研究大会山口大会を、歴史と文化の魅力あふれる「西の京 やまぐち」、山口県山口市で開催いたしました。

大会には、全国から千二百名を超える学校体育・スポーツ関係者や体育・保健体育科の教員をめざす大学生にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。山口県実行委員会一同、心から感謝申し上げます。

の二つの視点をもとに、「子供たちの主体性や協働性を最大限に引き出す指導の在り方」や「多様性に重点を置いた授業づくり」について研究を重ね、大会当日、発表させていただきました。また、円滑な大会運営で参加者の皆様方がより有意義な研修となるよう、総務部、研究編集部、式典事業部の三部会と事務局で連携して大会開催に向けた準備を進めて参りました。

大会一日目は、KDDI維新ホールでの開会式を皮切りに表彰、全体会を行いました。基調報告では、「主題設定の理由」や「大会主題・副主題の詳細」、「主題・副主題に迫るための研究の視点や授業づくり」等について山口県の取組について報告しました。

学習で育む三つの資質・能力」、「その資質・能力を育てるための体育、保健体育の授業づくり」について解説していただきました。

シンポジウムでは、早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ科学部 准教授 吉永武史氏をコーディネーターとして、幼稚園から大学までの各校種と行政機関を代表するシンポジストによる「誰一人取り残されず、全ての子供の可能性を引き出す共生の視点に立った体育、保健体育における学習指導の工夫」というテーマに沿った特色ある取組等の発表の後、コーディネーターとシンポジストによる意見交換を行いました。

りました。お二人には、山口大会の主題の一つである「体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず」という、共生の視点を大切にしたい。「多様性を生かした学びの充実」に繋がるお話が聴けるものと考え、この度の講演をお願いした次第です。

大会二日目は、幼稚園一園、小学校三校、中学校三校、高等学校二校、特別支援学校一校の計十校・園で、公開保育・授業、研究発表、研究協議を行いました。全ての会場において、本大会の主題を踏まえた取組を提案することができたと感じています。研究協議では、参加者の皆様方に大変熱心にご協議いただき、意見交換を通してより多面的な視点をもつてこれまでの実践を見直すことができました。指導・講評いただきました各先生方には、準備期間におけるご指導も含め、貴重なご示唆をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

た貴重な機会と研究を通して得た成果を、山口県の体育・保健体育学習の充実と「たくましいやまぐちっ子」の育成に役立てていきたいと考えています。また、参加者の皆様方の山口大会での「学び」や「出会い」が、それぞれの地域の子どもたちの健やかな育ちへと繋がっていくことを強く願っています。

終わりになりましたが、本大会の開催にあたり、ご指導・ご助言等を賜りましたスポーツ庁、公益財団法人日本学校体育研究連合会の皆様をはじめ、指導助言者の皆様、前年度開催県の山形大会実行委員会様、授業を提供していただいた研究指定校・園の皆様、役員として大会運営にご尽力いただきました本県の先生方、山口大会を支えていただいた全ての関係の皆様方に心より感謝申し上げます。

第六十四回 全国学校体育研究大会 北海道大会開催にあたって

北海道大会実行委員会 会長 嶋本 剛



豊かな大地と澄み渡る空に包まれた北海道において、全国各地から学校体育に対する正しい考え方、熱意、能力をおもちの皆様をお迎えし、「第六十四回

全国学校体育研究大会北海道大会」を開催できますことを心より嬉しく思います。

北海道での開催は、平成二年、平成十四年、平成二十四年に次ぐ四回目となります。平成二年の第二十九回大会では、「二十一世紀を豊かに、たくましく生きる子どもの育成を目指す学校体育の在り方を求めて」を研究主題に掲げ、初めての全国大会を経験しました。平成十四年の第四十一回大会では、「はづむ心と身体、共に高め合う体育活動」を研究主題に、一人一人が

適切な課題をもち自ら解決していく過程を軸として、仲間と共に支え合い高め合う喜びを実感できる学習指導の在り方について提案しました。平成二十四年の大会では、「未来へつなぐ健やかな心と体を育む体育学習の充実」を研究主題に、心と体を一体として捉えた指導及び実生活や実社会に生きる指導の充実について発信しました。

これまでの研究成果を受け継ぎ、今大会に向けて学校体育の在り方について研究を深めてきました。また、運営面についても、現状に合った、そして、今後の全国大会が持続可能な大会になるにはどうしたらよいのか考えながら準備を進めてまいりました。

さて、これからの時代を生きる子供たちが、明るく豊かで活力ある生活を営むためには、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することが重要です。これに向けて、学習指導要領等では、

幼児児童生徒が身に付けることを目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、内容等の改善が図られました。これらの資質・能力を育むためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組が必要であり、令和の日本型学校教育の構築が欠かせないといえます。

そこで本大会では、幼稚園教育要領・学習指導要領の趣旨及び内容、並びに北海道の子供の実態やこれまでの研究実践を踏まえ、大会主題を「豊かなスポーツライフの実現を目指す、『自ら』課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して資質・能力を育む体育・保健体育学習」と設定しました。

これまで北海道では、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主題の具現化を目

指してきました。そのために、幼児児童生徒が「〜したい」という思いに支えられながら活動に取り組み、自ら課題を発見して解決していくための手立てを追究してきました。また、幼児児童生徒が自らの課題の解決に向けてICTの活用や他者との関わりなど、自分にあつた方法で学習を進めることができるよう、指導と評価の場面やその方法を明確にし、学習過程の工夫を図ってきました。

地からご参会いただいた皆様同士のつながりを深める大会にするとともに、目指す体育・保健体育学習についての考え方を共有し、昨年度の山口大会から受け取ったバトンを来年度の新潟大会へとつなげる大会にしたいと思えます。

結びに、北海道大会を開催するにあたりご指導・ご支援賜りましたスポーツ庁、公益財団法人日本学校体育研究連合会をはじめ、各分科会にて指導助言をいただいた皆様、北海道教育委員会、札幌市教育委員会の皆様、そして本大会の準備にご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。また、この度表彰されます学校体育研究最優秀校・優良校・功労者、体育授業優秀教員の皆様に、心からの敬意とお祝いを申し上げます、ご挨拶といたします。

北海道の子どもの笑顔、明るい表情、澁瀬とした動きで自らの課題を解決していく姿を通じた研究協議により、全国各地からご参会いただいた皆様同士のつながりを深める大会にするとともに、目指す体育・保健体育学習についての考え方を共有し、昨年度の山口大会から受け取ったバトンを来年度の新潟大会へとつなげる大会にしたいと思えます。

分科会 授業の見どころ

第1分科会	認定こども園 札幌大谷幼稚園
<公開授業領域> ①表現遊び（年少：3歳児） ②食育活動（年中：4歳児） ③運動遊び（年長：5歳児）	
<授業テーマ> 心と体が一体となった育ちをめざす「遊び」の創造 ～すこやかな心と体を育むために～	
<授業の見どころ> 発達特性に合った援助や環境構成を的確に行い、子どもたちが心と体を存分に動かしながら夢中になって遊び込んでいく姿をめざします。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：一人一人が思い切り体を動かし、友達と関わり合いながらイメージをもち、なりきって遊ぼうとする姿を後押しします。 公開②：友達と一緒に育て、生長を見守ってきた野菜を使ってできる料理を考え、調理を通して、つながるのちに触れていきます。 公開③：目的に向かって、ともに思いや考えを出し合いながら遊び方を工夫し、友達と一体感をもって動いていく姿を後押しします。	
<指導助言者> 東京女子体育短期大学 堀内 亮輔	

第2分科会	札幌市立北九条小学校
<公開授業領域> ①器械運動（跳び箱運動） ②体づくり運動（体の動きを高める運動）	
<授業テーマ> 意思をもち、未来を創る子供の育成 ～他者と共に学び続ける体育の授業づくり～	
<授業の見どころ> 仲間と共に自分の課題や動き方の工夫を自らアップデートしながら、技能や体力を高めていく授業を展開していきます。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：回転系の技について、新しい技の習得や技の安定といった自分が目指したい姿や練習方法を子供が選択しながら学習を進めていきます。自分に合った方法で課題を明確にしながら運動に浸る姿をご覧ください。 公開②：動きを持続する能力を高めるための運動について、体の動かし方を変えたり、条件を変えたりして、自己に合った行い方を選びながら学習を進めていきます。仲間との協働を生かし、主体的に運動に向かう姿をご覧ください。	
<指導助言者> 北海道教育大学旭川校 高瀬 淳也	

第3分科会	札幌市立幌南小学校
<公開授業領域> ①体づくり運動（体の動きを高める運動） ②ゲーム（ネット型ゲーム）	
<授業テーマ> 根拠をもって運動に取り組む子供の育成 ～子供の「～したい」が深まっていく体育学習～	
<授業の見どころ> 仲間と共に学び合う中で、子供が自己の動きや体力を捉え、それらに合わせた作戦や運動を、根拠をもって選択する授業を目指します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：体の動きを高める四つの運動を一単元で構成し、子供が自己の体力や体の状態を見つめながら根拠ある選択を行える授業を展開します。豊かなスポーツライフを見据えた土台づくりを図ります。 公開②：発達の段階や技能の系統性を踏まえ、個の動きに焦点を当てた天大中小を基にしたゲームを行います。個の動きを大切にしつつも、チームの仲間と動きを見合い話合いながら、自己に合った作戦を選択する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 日本女子体育大学 須甲 理生	

第4分科会	札幌市立二条小学校
<公開授業領域> ①保健（体の発育・発達） ②ボール運動 ゴール型（ハンドボール）	
<授業テーマ> 健康や運動に自ら働きかけ、仲間と共に自分の学びを創る子供の育成 ～子供の思いや意図が見える体育の授業～	
<授業の見どころ> 「自分の思い」「友達の考え」「チームのよさ」を共有し、課題を見付けて解決しようとする、子供の思いや意図を大切に体育の授業を展開しようと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：未来の自分を創る思春期の発育・発達を支える運動習慣について課題を設定します。自分の経験や友達の取組から自分に合った運動を見付けていく姿をご覧ください。 公開②：チーム内でプレーの判断を共有したり技能の発揮の仕方を工夫したりして、意図的な動きによってシュートチャンスを作ろうとする姿をご覧ください。	
<指導助言者> 東京学芸大学 鈴木 聡	

第5分科会	札幌市立白楊小学校
<公開授業領域> ①走・跳の運動遊び（跳の運動遊び） ②表現運動（リズムダンス）	
<授業テーマ> 自ら働きかけ、自分の成長に気付く子供の育成 ～運動に浸る機会を保障し、子供が運動の価値や特性を実感できる授業～	
<授業の見どころ> 子供たちが自然と体を動かし、誰とでも楽しく運動していけるような体育の授業をしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：どの子も前向きに楽しんで遊べるように、たくさんの場を用意します。それぞれの場で遊びに夢中になっている姿をご覧ください。 公開②：「踊る≡ジャンプ」から脱却し、子供たちが軽快なリズムに乗って全身で踊る姿を目指します。リズムダンスがもっと好きになる1時間にできればと思います。	
<指導助言者> 千葉大学 七澤 朱音	

第6分科会	札幌市立日章中学校
<公開授業領域> ①球技（ゴール型）バスケットボール ②保健 心の健康	
<授業テーマ> 自己の成長を実感できる子供の育成 ～子供と教師が楽しく学ぶ授業づくり～	
<授業の見どころ> 子供たちが主体的に学び合う授業を目指し、全員が学習課題を自分ごととして捉えられるような導入や学習展開に力を入れています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：子供自らが課題を発見し、サッカーの単元で学習した知識を汎用的に活用して、仲間と解決に向かう活動を通して、球技ゴール型の特性を味わう子供たちの姿をご覧ください。 公開②：「今後」の自分を想像するために、様々な視点から課題の設定を目指していきます。その課題に対して、仲間とかかわりながら解決していく姿をご覧ください。	
<指導助言者> 北海道教育大学札幌校 中島 寿宏	

第7分科会	札幌市立羊丘中学校
<公開授業領域> ①器械運動（平均台運動） ②体育理論（文化としてのスポーツの意義）	
<授業テーマ> 学んだ知識を活用して表現し合う子供の育成 ～共生と豊かなスポーツライフに着目して～	
<授業の見どころ> 「技の出来映え」「文化としてのスポーツの意義」それぞれの分野で、ICTを活用することで客観的に捉え、仲間と協力しながら課題解決に向かう姿を引き出す授業にしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：技の出来映えの要素を考え、自己や仲間の演技の完成度を高める授業を行います。体操競技の現役選手と自己の演技の映像を比較し、様々なかわり方を通して、主体的に学び合う生徒の姿をご覧ください。 公開②：パラスポーツである「ボッチャ」を通して学びを深め、スポーツの文化的意義について、生徒が具体的にイメージしやすい学習展開を計画しています。単元のつながりを大切にし、知識を自分ごととして捉え、考え表現する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 盛岡市立黒石野中学校 千田 幸喜	

第8分科会	札幌市立真駒内中学校
<公開授業領域> ①武道 柔道 ②球技 ベースボール型	
<授業テーマ> 意欲的に運動に挑戦する子供の育成 ～子供の「したい」が溢れる体育学習～	
<授業の見どころ> 手立ての工夫や個別学習、協働学習、ICTの活用によって、各領域ならではの特性を味わうことができる授業を目指します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：武道だからこそ「学べること」や「感じられること」とは何かを常に考え授業づくりに取り組みました。武道に真摯に取り組み、様々な〇〇と「向き合う」子供の姿をご覧ください。 公開②：「正しく振れば打てる」、「たくさん点が取れる」経験から、子供の「もっとやりたい」を引き出し、ベースボール型球技に楽しく前向きに学び合う姿をご覧ください。	
<指導助言者> 追手門学院大学 有山 篤利	

第9分科会	北海道恵庭南高等学校
<公開授業領域> ①球技（ゴール型：バスケットボール） ②スポーツ概論（スポーツの多様な指導法と健康・安全）	
<授業テーマ> 豊かなスポーツライフを継続するために自己の適性に 応じた運動やスポーツとの多様な関わり方を見いだすた めの授業	
<授業の見どころ> 公開①：自分の考えを仲間に伝え、想像力を働かせ ながらチームで協働する経験を通して、課題を解決 するとともにできなかったことができる喜びや、その 喜びを仲間と分かち合う姿をご覧ください。 公開②：日頃から、それぞれのスポーツに深く関わり、 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する生 徒の視点や気付きの姿にご注目ください。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：一人では解決できないことも、チームで取り 組めば発想や想像は膨らみます。それぞれの考えを 紡ぎ、課題解決に向けて協働する授業を目指します。 公開②：授業案づくりの過程で、自らの経験や実践を 生かし、「支える」、「知る」など多様な視点も含んだ 課題解決につなげる授業展開を目指します。	
<指導助言者> 山形県立南陽高等学校 佐藤 若	

第10分科会	北海道北広島高等学校
<公開授業領域> ①体育：ネット型（バドミントン） ②体育理論：スポーツが経済に及ぼす効果	
<授業テーマ> 共生の視点を踏まえた個別最適な学びと協働的な学び の一体的な充実を目指した学習指導の工夫	
<授業の見どころ> 生徒が自ら課題を発見し、仲間と協働し、課題を解決 する力を積み重ねていけるような授業をデザインして いきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：トリプルス（3対3）のゲームから各班が技術 的な課題を分析、抽出し、制約をつけた練習により、 課題を克服しようとするプロセスをご覧ください。 公開②：スポーツと経済について、エスコンフィール ドやボールパークとの関わりのなかで普段から生徒 達を感じている疑問や課題などの高校生らしい発想 や、チームで意見交換しながら協力して課題解決に 取り組む姿をご覧ください。	
<指導助言者> 北翔大学 森 靖明	

第11分科会	市立札幌みなみの杜高等支援学校
<公開授業領域> ①ゴール型球技「フットサル」 ②保健「大切な心と体・性」	
<授業テーマ> 公開① 生徒一人一人のつよみを生かす！ ～自ら考え、対話し、挑む 公開② 多様な考えを認め合い、人と関わり合って生 きていく	
<授業の見どころ> 公開①：互いのつよみやよわみを認め合い、力を合わ せて切磋琢磨する生徒の姿をご覧ください。 公開②：自身の考え方を見つめ、対話を通して自他の 違いに気付き、そして、受入れながらよりよい関係 性を築く方法を思考する生徒の姿をご覧ください	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：「勝利」を目指しながらも、対話から生まれる 「気づき」を活かして、チームプレーの本質を知るき っかけとしたい。 公開②：互いに尊重しあい、安心で安全なふれあいが できるようになるための、学びをデザインしたい。	
<指導助言者> 国士舘大学 松浦 孝明	



令和7年度 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介

かすみがうら市立下稲吉小学校（茨城県）

<研究主題>

「主体的・対話的で深い学びに向けた体育指導の在り方」
—体育授業のユニバーサルデザイン化を通して—

<研究の目的>

体育授業のユニバーサルデザイン化を通して、すべての児童が「できる・わかる」を味わい、体育の授業に意欲的に参加し、運動の楽しさを知ることができる工夫等を推進する。

<研究内容と成果>

- 学習のねらいや活動内容を簡潔で分かりやすくしたことで楽しく学べるようになり、主体的に取り組む児童が増えた。
- 動きのポイントや補助の行い方等を言語化して伝え合ったり、ICT機器を活用して自他の動きを確認したりする中での対話的な学びを通して、「できる・わかる」が実感できた。

久喜市立菖蒲小学校（埼玉県）

<研究主題>

「いのちの大切さを実感し、たくましく生きる児童の育成」
—楽しい体育授業を通して、スポーツ健幸大使の育成—

<研究の目的>

全ての児童が運動好きになる楽しい体育授業の改善を図るとともに、健やかな身体と豊かな心をもつ幸せを家庭や地域に届ける「スポーツ健幸大使」の育成を図る。

<研究内容と成果>

- 授業改善を図ることで楽しい授業の実現ができ、運動好きが増加するとともに運動の日常化につながられた。
- 「健幸大使」として、健康でいることや運動することのよさを学校保健委員会や授業参観等で発信できた。

江戸川区立船堀小学校（東京都）

<研究主題>

運動の楽しさと課題解決の喜びを味わう「これから」の体育
—「主体的・対話的で深い学び」を通して、子供を“自立した学習者”として育てる学校—

<研究の目的>

「自立した学習者を育てる学校」を目指して、子供が学習課題を見いだし解決に向かう学びを中心に据えた学習を保障する体育科の授業改善を行い、「これからの体育」に繋げていく。

<研究内容と成果>

- 児童が自己の「学習課題」と子供を主語にした「学習過程」の実践により、学習課題に向かい、ICTを駆使して主体的に学ぶ姿がどの学級でも見られるようになった。
- 「これからの体育学習」を目指す取組を通して教師の指導観が変容し、子供が主体的に学ぶことや楽しさや喜びを味わうための視点について研究を深められた。

令和7年度 体育授業優秀教員 受賞者紹介①

諏訪 真宣（すわ まさのぶ） 川口市立安行小学校（埼玉県）主幹教諭

<実績>

- 令和4年 小学校体育実技伝達指導者講習会 講師
- 令和5年 第65回埼玉県小学校体育研究協議会 司会・助言者
- 令和6年 各都道府県教育委員会長期研修教員等合同発表会 発表者

<体育授業における実践>

- 児童が「楽しい、もっとやりたい」と感じるような学ぶ必要感をもって取り組む学習過程の工夫
- ICTを効果的に活用したり、学習の振り返りを焦点化できる学習カードを用いたりすることで、学習の成果を児童自身が実感できる授業の実践

吉田 直崇（よしだ なおたか） 三鷹市立第六小学校（東京都）主幹教諭

<実績>

- 令和3年 東京都教育研究委員（体育）
- 令和4年 東京都小学校体育研究会多摩地区発表校 研究主任
- 令和5年 東京都教育委員会体育健康教育推進校 発表者

<体育授業における実践>

- 「楽しい」を大切にしながら運動に意欲的に取り組み、技能も身に付けられる学習過程の工夫
- 三つの資質・能力をバランスよく育むための意図的な働きかけ
- 運動の特性やゲームに関する資料を提示した「令和版ゲームハンディブック」の改定

田中 大志（たなか ひろし） 滋賀大学教育学部附属小学校（滋賀県）教諭

<実績>

- 平成30年～ 滋賀大学教育学部附属小学校 授業公開、研究紀要執筆
- 令和4年 第61回全国学校体育研究大会滋賀大会 授業公開及び研究提案
- 平成31年、令和6年、令和7年 全国小学校体育科教育研究集会 実践提案

<体育授業における実践>

- 見方・考え方を働かせた探究的な学びを、発達特性を踏まえて取り組める小学校6年間のカリキュラム作成
- 全ての児童が運動との関わりを存分に楽しみながら、他者と協働して課題解決に取り組む体育学習の実践

令和7年度 体育授業優秀教員 受賞者紹介②

安本 直哉（やすもと なおや） 茨木市立春日小学校（大阪府）教諭

<実績>

- 令和5年 第32回近畿小学校体育研究大会 基調提案者
- 令和6年 体育・保健体育指導力向上研修大阪府伝達講習会 講師
- 令和7年 第70回大阪小中学校体育研究発表会 発表者

<体育授業における実践>

- 全ての児童の豊かなスポーツライフの実現に向け、運動の楽しさが実感できる単元の魅力的なテーマ設定
- 指導内容の精選を図り、運動が苦手な児童に関わる時間を確保することで、児童が楽しみながら達成感を味わえる授業実践

田中 歩（たなか あゆむ） 山口市立宮野小学校（山口県）教諭

<実績>

- 令和3年 第59回中・四国小学校体育研究大会（高知大会）指導助言
- 令和4年 第60回中・四国小学校体育研究大会（山口大会）基調提案
- 令和6年 第63回全国学校体育研究大会山口大会 基調提案

<体育授業における実践>

- 運動の特性を生かした、子供が夢中になれる運動の場の設定や試行錯誤が連続するような単元の構成
- ICT機器を用いて動きの成果や課題を可視化する授業実践
- 「する・みる・支える・知る」視点から、運動に積極的に関わろうとする態度の育成



令和7年度（2025年度）

全国学校体育実技指導者講習会の実施報告

—講習内容の概要—

東京都

幼稚園・こども園の部

●日時：七月二十四日（木）

●会場：千代田区立千代田 小学校体育館

●受講者：三八名

●主題 「健康な心と体を育てる運動遊び」

○趣旨 幼児期の運動遊びは心身の成長を促す影響がたくさんある。大人側から一方的に運動させるのではなく、子供が主体的に運動遊びをし、体を動かす心地よさや楽しさを感じることが大切である。すぐに実践できる運動遊びの理論と実践を通して幼児の健康な心と体の育ちを支える保育者の育成を目的とする。

●内容

①「幼児期からの足育」

○講師 本会足育推進委員会

幼児教育部幼稚園部会

○概要 脳神経系の発達のある幼児期に足育を経験していると、楽に正しく靴を履く習慣が身に付く。そのためには、3・4・5歳の実態に即した指導を積み重ね、幼児期からの足育を実践することが必要である。足育推進園で実践してきた部員が中心になって遊びながら事例を紹介した。

・体を動かす動きの楽しさを味わう体操「走れセイヤー」
・自分の足や足指に関心を持ちながら動かす「足指体操」
・裸足になって遊ぶ「動物の表現遊び」・様々な素材を足指でつかんでフープに移動させる「クレーンゲーム」・タオルを使った綱引きやしっぽとり等

・チームで協力して競い合う宝取りゲーム。初めて足育を知った参加者も二学期からの保育で靴を正しく履く指導をして、すぐに実践できるという声が聴かれた。



②「楽しい運動遊び」

○講師 文京区立誠之小学校 指導教諭 岩田 純一先生

○概要 幼保小の接続が求められる中で、運動遊びではどのようなことが考えられるか、つながりを意識して子供が夢中になる運動遊びを実践した。小学校での取組を参考に、幼児教育で実践する視点をもち、参加者が自園の幼児の実態をイメージしながら取り組んでいた。

幼児は1・2・3・4と数字を数えながら体操をすることは少ないが、8・4・2・1のリズムで動作をすると楽しめる歌遊び等は、園でも実践が可能である。また6人組で動く遊び等は、幼児の場合は親子3組で遊ぶと楽しめる等考えながら実践できた。小学校入学当初にこのような運動遊びがあると段差を感じずに学校生活になじめることを実感した。



UFO

③「楽しく取り組み、遊びから体育へつなげる活動」

○講師 こども体育研究所 体育指導員 笠原 孝之先生

○概要 縄を使った遊びを紹介していただいた。すぐに跳ぶのではなく短縄・長縄それぞれを使った動きや遊びは園ですぐにやってみたくなる。長縄をみんなで円になって持ち、上げたり下げたりすることが「パラバールン」につながることや、チャイルドビジョンを着用して跳ぶことで、幼児の視野が狭いので長縄の回し方を高く変えること等、大変参考になった。

子供の視野を知るメガネ



④「絵本から広がる運動遊び」

○講師 東京女子体育大学 講師 堀内 亮輔先生

○概要 ダンスや手遊びに歌を付け、言葉のリズムを感じながら動く、ストーリーに沿って動く楽しさが感じられる実践になった。何もないフロアーにヘビやカラス、草むら等のイメージがもてることで体が動く、何かを身に付けるのではなく、楽しんで心と体を動かして遊ぶことが大事、子供が健やかに育ちあうことからウエルビーイングを目指す話されていた。堀内作「森のうんどうあそび」の絵本から運動遊びへのつながりも実践できた。子供が作る遊びの取り上げ方や伝承遊びを知らない若い保育者にはゴム跳び等も参考になった。



東京都

小学校の部

第一日 七月二十四日(木)

●会場：千代田区立昌平小学校
体育館・多目的ホール

●受講者：一二一名

①器械運動系

○講師 東京女子体育大学

教授 佐藤 晋也先生

○概要 はじめは、「器械運動が苦手な児童への実技指導」について、できないにどう寄り添うかの話があった。教師の多くはできない苦労を知らないから、できるようにするプロセスが分からないことが多い。できる人が無意識に行っているコツやポイントが重要で、それを教えることが大切である。

次に前転の実技に入り、足の曲げ伸ばしで、地面に着地する少し前で降ろすような動きをやってみた。足の役割を意識することで、きれいな前転へと変容していった。

それから後転に移り、できない子供の実例が示され、できない理由を考えてみた。お尻の位置が近すぎる。手が押せないなどが出された。かかとをつけない体育座りから後転を試みるなど、どの部分が大切かを体感できる。頭の振り方によって足が

ついてくる。胸と足がくっつく状態での回転が求められることが分かった。

最後は倒立に取り組んだ。三人一組で、両側から支えながら倒立をしてみた。バランスをとっていく中で、どこかの位置で体が乗っかる感覚があるのでそれを体験するようにした。これを繰り返し行うことで、体が無意識の中でコツをつかんでいくことになることを学んだ。



②ゲーム

○講師 調布市立八雲台小学校

指導教諭 小島 大樹先生

○概要 体も心もリラクセスするために、アイスブレイクで、歩き鬼、バランス崩し、つま先踏みなどを行った。次に、ゲームとしてシッティングホッケーを二対二で行い、スペースを意識した作戦を考えてみた。その後、フロアボールを三対三で行い、どこをねらって打つとよいのか、前か後か、強いかわいかなど、自己決定しながらゲームを進める大切さを学んだ。

最後は、キャッチバレーで、四対四のゲームを行った。どこかのスペースをねらうと得点しやすいか、チームの作戦タイムでコミュニケーションを大事にしながら、自分たちの思いがプレイにつながる楽しさを実感した。今回は、作戦を考える大切さや系統的に学びをつなげることにについて、教師が考えることを実際のゲームを通して学ぶ貴重な機会となった。



第二日 七月二十五日(金)

●会場：千代田区立昌平小学校
体育館・多目的ホール

●受講者：一二一名

③ボール運動

○講師 日本女子体育大学

准教授 須甲 理生先生

○概要 最初は体ならしで、鬼遊びから始め、しっぽ取りの個人戦、団体戦で、この後の運動の動きを体験するようにした。ゴール型ゲームの難しさとして、

苦手な児童はコートに立っていないだけで、得意な児童がボールを独占、身に付けた技術がゲームで生かされないなどの問題点がある。今回は、フラッグフットボールを基にした易しいゲームの指導内容を学ぶことになった。

特にボールを持っていない人の動きやボールの保持の仕方を相談しながらゲームを進めていった。

④体づくり運動系
○講師 筑波大学

准教授 三田部 勇先生



○概要 体ほぐしの運動から始め、二人一組の追いかけて鬼、後ろからのコントロールなどから、グループになって、バランス崩し、風船リフティング、輪の移動、四人でのバランス立ちなどを協力し、どうしたらうまくいくかをかけ合いながら行った。次に、フラットリリングを並べ、ケンパのリズムを工夫して、跳んでみた。人によってリングの間隔を変えるなど、個の目標や状況に合わせて、取り組んでいた。

実際のゲームは、攻撃三人、守備は二人から始めた。プレイが止まれば作戦を考える場面を設定した。ガードを使ったラン、フェイクを入れたラン、スペースに走り込むパス、スペースをつくるパスなど、実際の対戦の中で、意識しながら動くようにしていった。またタッチダウン以外にも、点数のゾーンを決め、途中までのランでも得点が入るように工夫した。



その後の用具操作では新聞紙でできた棒を使って、移動して受け渡し、ボールを使って投げ

上げ移動、キャッチするなど、姿勢、人数、方向、用具に移動を加え、それぞれができる動きを考えていった。続いて、力試しでは雑巾や座布団に乗った人を引っ張る運動で、児童が持ちやすく力を入れやすい教材になっていた。最後は高学年の動きを高める運動で、体の柔らかさを紐をくぐるリンボードダンス、巧みな動きはバンブーダンスや短なわの移動跳びなどでチャレンジした。

動きを広げる視点、コツやポイントの共有、運動の行い方やポイントに気付かせる視点について、講師から話があった。体づくり運動はすべての学年で取り扱う重要な領域であることを参加者も再認識した。

東京都 中・義務教育 中等教育・高等学校・ 特別支援学校の部

- 日時：令和七年八月八日(金)
- 会場：東京都立晴海総合高等学校 講堂・体育館
- 受講者：三九名
- 主題 「体づくり運動及び球技の授業づくり」
- 趣旨 全国の中学校・義務教育学校・中等教育学校・高等学校

校・特別支援学校の保健体育指導者が、体育の指導技術の向上を図ると共に研究協議を行い、保健体育指導者としての資質向上を図る。

●内容

①午前の部「体づくり運動 リズムトレーニンングを利用した授業づくり」

○講師 スポーツリズムトレーニンング協会 インストラクター 大瀧 悠佳氏

○概要 前半の講義では、理論的な部分を分かりやすく解説していただき、後半の実技では、受講者が楽しみながらできるように笑顔で進めていただいた。

講師の大瀧悠佳氏(左)
スタッフ(中、右)



リズムトレーニンングとは、音楽のリズムと脳の働きとの関係から開発されたものである。朝起きてリズムトレーニンングをして、学習や運動に取り組むと、集中力やその結果に大きな影響があることを知った。

ムの感度を上げること、筋肉の収縮と弛緩のタイミングを学習することを目的とした運動で、音楽のリズムに合わせて手と足で異なる動きをするトレーニンングである。例えば、手は表拍子に合わせて「頭↓肩↓胸の前で交差↓肩↓頭↓」と両手で触り、足は「パー↓グー↓パー↓グー↓」という「開いて閉じて」を軽いジャンプで行う。その際、足は3拍目の直後に1回裏拍子を入れる。このことによつて見た目は単純な動きでもリズムの取り方、リズムへの合わせ方が難しくなる。

グループで動きを合わせよう



ということである。本講習会で初めて出会った受講者が、グループ活動を通じて誰からともなく互いの活動を称えあうようにハイタッチを行っていた。また、できなくても努力を認めてもらえることから意欲を高め、一層楽しく取り組むことができたと考えられる。このトレーニンングを授業の導入に取り入れることで、授業全体の活動も楽しくできると思われる。

②午後の部「球技アルティメットの授業づくり」

○講師 東京都立葛飾商業高等学校 教諭 小池 裕子先生

清瀬市立清瀬第五中学校 教諭 池田 梨那先生

○概要 前半の講義では、アルティメットの競技特性とルールについて、実際の試合の動画をしながら説明いただいた。

講師：池田梨那氏(左)
小池裕子氏(右)



後半の実技では、ディスクの持ち方からミニゲームに至るまで、理論と練習で進めた。主なルールは、「エンドゾーンの中で見方からのパスをキャッ

チできれば得点となる。得点後にエンドが替わる。相手に触ってはいけない。ディスクを持つて移動してはいけない。ディスクを手渡ししてはいけない。ディスクを持った人に複数で対応してはいけない。10秒以上ディスクを保持してはいけない。ディスクが地面に落下したらターンオーバー(攻守交替)である。

これらを踏まえ、相互審判として試合を行う。意図的な反則行為はなく、選手はフェアプレイが当たり前、という前提の競技であるので、「究極の競技」という意味でアルティメットと名付けられた。

ディスクの扱いでは、地面と平行に投げることでまっすぐ進む、ディスクに回転がかかることで安定する。ディスクに傾きをつけて投げれば、カーブして移動していく。投げ方はフォアとバックが主にあり、その両方を練習した。

3人組のパス練習では、一人がディフェンスとなり、そのディフェンスをかわすために大きく横に踏み込んで(ピボットして)ディスクを投げることを繰り返した。パスの際にピボットを使えるようにするための練習であった。

ピポットを使ったパス練習
フォアで投げた場面



岩手県

小・中学校の部

●日時：七月二十九日（火）

●会場：西部公民館（盛岡市）

●受講者：一〇二名

（小六四名 中三九名）

●主題 「豊かなスポーツライフの実現に向けた体づくり運動の教材を知る」

また、エンドゾーンのスペースにディスクを投げ、味方が走り込んでキャッチする、というスピードとタイミングが重要な練習を行った。

最後に、体育館半面（縦24m程度）のコートで3対3のミニゲームを行った。プレイヤーを3人にする事で、ディスクに触らない人がいなくなり、パスを受けるために動く必要がある、その結果一人当たりの運動量が増える。また、どちらかのチームに得点が入った時点で選手の手入れ替えをすることで、適度な休息時間の確保や給水を行うことができる、といったメリットがある。1試合5分としたが、受講者は十分満足していたように伺えた。

技能レベルを踏まえ、コートの広さや人数、試合時間など、ルールを工夫することで、活気のある授業展開が期待できる。

による格差や環境による格差について示された。これらのことから学校で行う体育授業が重要だということを学んだ。そして、本講習会で学ぶ意義を参加者が感じた上で、講習が進んでい



様々な関わり方と関連付けた指導の進め方を学び、受講者一人一人の支援の幅と質が広がり深まることを期待して計画した。受講者自身が運動の楽しさや喜びを味わえるようにするとともに、全国の仲間と実技の受講ばかりではなく、授業の進め方や評価の仕方など、幅広く体育について学ぶ機会として開催するものである。

●内容「体づくり運動」

○講師 筑波大学 准教授 三田部 勇先生

○概要 はじめに、スライドを使って座学で講義をいただいた。スポーツ庁から示されている令和六年全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書を基に、児童生徒の実態、特に男女の性別

また、本講習会のメインテーマである体づくり運動については、学習指導要領上の取り扱いや、体ほぐし、多様な動きをつくる運動、体の動きを高める運動がどのように構成されているかを図や表で分かりやすく示していただいた。各領域には、似たような運動も多く見られるが、ねらいの違いによって動きが変わること、それぞれの発達段階で大切にしたい心と体の変化に対する「気づき」、それを引き出す教師の「問い」や児童同士も含めた「関わり」が大切であることについて学ぶことができた。

講義に続いて、次の実技講習を行った。

- ・からだじゃんけん 雰囲気づくりの感情表現を入れる。
- ・早歩きでペア鬼ごっこ 十秒たったら鬼がスタート。タッチしたら一点。
- ・合図を決めて歩こう ペアで前後に並び、右肩タッチ→右へ、左肩→左へ、両肩→ストップ。応用編→四人組でひし形歩き。
- ・しつぽとり鬼 四人縦並び一人鬼 鬼がしつぽをとった
- ら、先頭が鬼になり、鬼は自分でしつぽをつけて最後方へ。
- ・短縄 二人で一本を使って交互に縄に入る跳び方。
- 二人で二本。横に並んだペアで、それぞれの内側の持ち手を交差して跳躍を行うなど。
- 大人数でトラベラー。拍を変えたり、移動する人を変えたりして、難易度を変える。
- ・棒キャッチ 円陣形式だけでなく、縦並び形式も。棒からボールやフラフープに変更する。棒は新聞紙を巻いたものでその場で作成したもの。
- ・大縄、座布団を使って力強い動き。自分が引いて近づく。ペアに近づいてもらう。様々な姿勢（足上げ うつ伏せ）や人数の変更などの工夫を。
- ・円形で並び、88442211（11）のリズムでお互いの肩たたき。（音楽に合わせ、最

後の11は、中心を向いて一拍休憩、最後にパンと手をたたく。その他、多くの種類の運動を教えていただいた。



まとめ

それぞれの運動が「単発」で終わらぬように、人数、用具、時間、距離、姿勢、方向などの変更の視点も教えていただいたことは大きな学びであった。それらの変更によって使う力が異なるなど、体の変化を受講者も感じたようであった。

また、紹介していただいた運動も「関わり」が大切にされており、講習が進むにつれて、受講者の拍手や歓声が大きくなった。まさに心の変化に受講者自身が気付き、趣旨に沿った講習会となった。

本講習会を受講された先生方から各校に実践が広がり、子供たちの豊かなスポーツライフの実現につながることが望まれる。

三重県 小・中・義務教育 学校の部

●日時…七月二十九日(火)

●会場…四日市市総合体育館

●受講者…一三八名

●主題 「誰一人取り残さず、その運動ならではの世界を味わい、運動好きになり、様々な環境に合わせて動ける授業の創造」

○趣旨 体育実技が苦手な小学校教員が実技能力を高め、指導力の向上を図るとともに、発達段階や習熟段階に応じた指導を取り入れた授業づくりの一助とする。

●内容

①陸上運動

○講師 鈴鹿市立国府小学校

足立 幸太郎先生

鈴鹿市立一ノ宮小学校

鈴木 悠大先生

○助言者 国士舘大学体育学部

准教授 陳 洋明先生

○概要 はじめに、リレーの授業づくりについて、リレーが固有にもつ運動の中心的なおもしろさを「速さをつなぐこと」と設定し、二人又は三人で標準タイム(個人のタイムの合計)より速く走ることを学習課題とするという提案があった。シンプ

ルな活動を通して、テイクオーバーゾーンでの減速の少ないバトンパスの探究を体感することができた。また、くじで即興的に二人か三人かを決めてリレーするという状況づくりの提案があった。相手や人数を流動的にする環境にすることで、多様な

他者の動きに対応する力を育むとともに、テイクオーバーゾーン内でのバトンパスの能力を向上させる可能性もあることが示唆された。



次に、幅跳びの授業づくりについて、幅跳びが固有にもつ運動の中心的なおもしろさを「ある幅を跳び越すこと」と設定し、ブルーシートを跳び越すことを学習課題とするという提案があった。助走の距離の変更や踏み切時のロイター板の有無、ブルーシートの中に段ボールを入れて高さを出すといったような多様な環境での運動を通して、幅に合わせた助走や踏み切、着地といった身体技法を学ぶことが可能であることを体感することができた。また、くじを使って偶然性の高い環境とすることで、

即応的に自分の跳躍を調整することを学ぶことができることが分かった。さらに、二人で手をつないだり、バトンを紹介したりして跳ぶという運動の提案があった。二人で跳ぶことで、相手の跳躍の仕方を体感しながら、自らの運動を再構成することができることを学ぶことができた。



最後に助言者の陳洋明准教授より、陸上運動の授業づくりのポイントや評価の仕方について、実例を紹介していただきながら示唆していただいた。

②器械運動

○講師 玉城町立田丸小学校

高田 秀先生

桑名市立大成小学校

峯 悠貴先生

○助言者 日本大学文理学部

教授 水島 宏一先生

○概要 はじめに、中学年のマット運動(回転系・主に前転)を想定した授業づくりについて、マット運動が固有にもつ運動の中心的なおもしろさを「回転の推進と制御の間で遊ぶこと」と設定し、「ペアでスツと立てる」を学習課題とするという提案が

あった。スツと立つ場所(着地場所)の変更や人数の変更、ペアの変更といった相手や場が変わる多様な環境での運動を通して、回転をコントロールする力を学ぶことが可能であることを体感できた。さらに、ペアで一人が横で歩きながら、その速さに合わせて回転し、また隣と合わせて歩き出すという運動の提案があった。相手の速さに合わせて回転することで、相手の速さに合わせるための勢いをつくり出したり、速さをコントロールしたりすることが必要になる。そのため、自分勝手に回転することができない状況が生まれ、より回転をコントロールする力を学ぶことが可能になる。また、ペアを変え、速さも変わるため、自らの回転を再構成できることを学ぶことができた。



次に、中学年の跳び箱運動(切り返し系)を想定した授業づくりについて、跳び箱運動が固有にもつ運動の中心的なおもしろさを「第2空中局面の雄大さ」と設定し、「ピタツと着地できる」を学習課題とするとい

う提案があった。ピタツと立つ場所(着地場所)の変更や段数の変更といった場を変えた様々な環境での運動を通して、第2空中局面へとつなげる着手を学ぶことが可能であることを体感できた。着地をピタツと止める課題を踏まえ、助走から着地までの運動全体をイメージして跳び越える必要が出てくる。また、跳び箱の上にスポンジを置き、当たらないように跳び越えるという運動の提案があった。跳び箱の奥側にスポンジがあることで、手前への着手の必然性が生まれ、より大きな回転の切り返しが必要になってくる。そのため、手をかくようにして前に体重移動するよう



な跳び越え方が難しくなり、これまでとは違った、突き放しや支え等の着手を学ぶことができた。

最後に、助言者の水島宏一教授より、マット運動と跳び箱運動の授業づくりのポイントや苦手な子への指導のポイントについて、実演を通して紹介していただき、示唆をいただいた。

令和6年度 各都道府県教育委員会 長期研修生等合同発表大会

【主催】(公財)日本学校体育研究連合会

【目的】体育、保健体育の指導者の資質向上を図るとともに、各教育機関の教員研修事業の充実に資する。

【日時】令和7年3月1日(土)

【開催場所】日本体育大学 記念講堂

伊藤 翔子 (横須賀市立池上中学校)

【演題】個々の主体性を育むバスケットボールの授業

—チームビルディングの知識学習とGROWモデルを用いた学習活動を通して—

【概要】

チームビルディングの知識学習と、GROWモデルを用いた学習活動を行うことにより、個々の主体性を育むことができるかを明らかにするために検証授業を行った。チームビルディングの知識学習により、チーム内の心理的安全性を確保するとともに、GROWモデルを用いた学習活動により、課題解決のための自己決定力が高まり、主体的に学習を行うことができるようになった。このことから、本研究で目指した「自分で決める、自分で考える、自分で実行する」という個々の主体性を育むことにつながったものと考えられる。

川野辺 昌史 (秩父市立花の木小学校)

【演題】3つの資質・能力をバランスよく育む体育授業の研究

—全ての児童が表現運動の世界に没入するための指導方法について—

【概要】

本研究では、小学校高学年の表現運動領域において、児童が表現やイメージの世界に没入するための指導方法を探究し、運動の魅力を味わえる体育授業の実現を目指した。発達段階に応じた導入教材とICTを活用した「ひと流れの動き」のシステム化を取り入れることで、表現運動に対する心理的抵抗感を軽減し、児童が意欲的に活動できるようにした。さらに、基本的な動きの習得から応用へと段階的に学びを深める学習過程を構成した結果、児童が表現活動に没入できる授業づくりを実現することができた。

一木 翔吾 (宇美町立宇美中学校)

【演題】主体的に運動にかかわり続ける生徒を育てる保健体育科学習指導

—段階のねらいに応じた反転授業を通して—

【概要】

本研究では、運動の興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く取り組み、振り返ったことを次につなげようとする生徒を育てることを目指した。そこで、段階のねらいに応じた反転授業を行い、生徒が事前に動画や資料を見て授業に臨む仕組みを行った。

また、自己の課題に合った練習を選択する活動やインタビュー形式の振り返りを単元に位置付けた。その結果、本研究で設定した具体的な支援が、主体的に運動にかかわり続ける生徒を育てることに有効であることが示唆された。

渡邊 純一 (長南町立長南小学校)

【演題】主体的な学習者を育む陸上運動ハードル走の研究

—学びの調整とAARサイクルの活用を通して—

【概要】

小学校におけるハードル走の学習において、主体的な学習者を育てるために自身に合った学びの調整と、課題解決に向けてAARサイクルを活用しながら授業実践を行った。その結果、自身に合った学び方を選択しながら学習成果を上げることや、AARサイクルを活用しながら課題解決を図ることができた。このことから、学びの調整を図ることやAARサイクルを活用することは、主体的な学習者を育む有効な手立ての一つであることが示唆された。

綿貫 聡（毛呂山町立泉野小学校）

【演題】 進んで運動に取り組む運動好きな児童を育成する体育授業の研究

—一人一人が運動の楽しさを味わう体づくり運動の実践を通して—

【概要】

小学校高学年の体づくり運動の授業において、児童が自己決定しながら運動に取り組める学習過程と教材・教具の工夫を行い、その影響を検討した。楽しく自己決定しながら学べる教材・教具の工夫と、児童の自己決定を促す学習過程の工夫を実践・検証した。児童が運動による充足感を得るとともに、仲間と関わりながら自己決定し、動きを高め、楽しさを実感していたことがわかった。このことから、本研究で設定した教材・教具や学習過程の工夫が、児童の楽しさの認知に肯定的な影響を及ぼすことが示唆された。

松尾 聡一郎（筑後市立二川小学校）

【演題】 自ら運動にかかわる子供を育てる体育実践の一方途

—ボール運動における学習活動の工夫と遊びの環境づくりを通して—

【概要】

体育の学習で運動の楽しさを味わい、休み時間にも進んで運動を行う子供の育成を目指した。そこで、学習活動にチャレンジタイムと振り返りタイムを位置付けたり、学習で行った運動と関連する遊びの空間をつくったり用具を充実させたりした。その結果、「身体性」「創造性」「協働性」の育成に有効であること、「日常性」の育成に概ね有効であることが分かった。また、「日常性」を育むためには、発達段階に応じた遊びの環境や人間関係を構築することが重要であるといった課題が生まれた。

浅見 翔太（羽生市立手子林小学校）

【演題】 児童が主体的に運動に取り組める体育授業の研究

—「できる・できないの間を楽しむ」ことを通して、意欲的に挑戦し続けることのできるマット運動を事例に—

【概要】

小学校における器械運動（マット運動）の授業において、児童の主体性を高めるための指導の工夫を行い、児童が主体的に運動に取り組める体育授業を目指した。具体的には、運動遊びと運動を円滑に接続する教材の開発に加え、「できる・できないの間を楽しむ」ことができる学習過程を設定した。そして、児童が自分なりの楽しみ方を見つけることで主体性が高まるかどうかを検討し、実践を行った。その結果、本研究で設定した教材や学習過程の工夫が、児童が主体的に運動に取り組むことを促す上で有効であることが示唆された。

小後貫 淳（御宿町立御宿小学校）

【演題】 マット運動へとつながる運動感覚を高めるための学習指導

—Gボールを使用した活動及び単元構成の工夫を通して—

【概要】

マット運動における学習意欲や技能を高める学習指導を明らかにするため、第4学年を対象に、Gボールを使用した多様な動きをつくる運動とマット運動を組み合わせ、継続的・段階的な指導が行えるように、単元構成を工夫した授業を行った。その結果、情意面や学ぶ姿勢に変容が見られ、マット運動の技能が向上した。さらに運動有能感が向上し、Gボールの使用がマット運動の技能や学習意欲の向上に対して、有効な手立ての1つとなることが分かった。

田村 大輔（市川市立新井小学校）

【演題】 投能力向上を意図した低学年ゲーム領域の研究

—「ねらって」投げることと「思い切り」投げることに着目した2つの教材開発—

【概要】

子供の投能力は低下傾向が引き続き課題となっている。投動作は様々な運動やスポーツで求められる動きのひとつであり、その獲得は豊かなスポーツライフの実現の視点からも重要である。本研究では、神経系の発達が著しい低学年を対象に「ねらって」投げる力とある程度はねらいながらも「思い切り」投げる力の向上を意図した2つの単元教材の開発に取り組んだ。また下位教材では、口伴奏の使用や教具の工夫を行った。その結果、ゲーム中にねらって・思い切り投げる割合が向上し、教材の有効性が示唆された。

櫻田 基紀（九十九里町立片貝小学校）

【演題】 空間把握能力を高めるセストボールの学習指導
—ゲームや教材・教具の工夫を通して—

【概要】

中学年ゴール型ゲームのセストボール学習において、空間把握能力を高めることができるかを明らかにするために、ゲームや教材・教具づくりの工夫を行った。その結果、サポート行動成功率や学習カードから、空間に着目したスキルアップゲームや俯瞰映像を用いた事後学習が手立てとして有効であった。また、発話分析や形成的授業評価より、戦術的な対話が増加し、楽しさや達成の喜びを感じられることが示唆された。

隈本 華行（福岡県立小郡高等学校）

【演題】 健康に関する知識を活用できる生徒を育てる保健の学習指導
—段階的な単元構成の工夫を通して—

【概要】

本研究では、科目保健の授業で、健康に関する知識を活用できる生徒を育てることを目指した。そこで、単元を「知る段階」、「関連させる段階」、「深める段階」の3段階に分け、それぞれで「マインドマップ」、「ジグソー法」、「ケーススタディ」の具体的支援を仕組んだ。その結果、生徒は、実生活やライフステージにおいて、自分や他者、社会の視点から健康を保持増進することを目指して、自らよりよい意思決定・行動選択をすることができた。

佐賀 若菜（神奈川県立藤沢総合高等学校）

【演題】 スポーツを「つくる／はぐくむ」楽しさを実感できる授業
—多様な関わり方によるクライマックスイベントの学習活動を通して—

【概要】

国の第3期スポーツ基本計画が示す、スポーツを「つくる／はぐくむ」視点に着目し、その楽しさを実感することを目指して、高等学校の球技ネット型（テニス）の授業を行った。スポーツへの多様な関わり方で、クライマックスイベントに「つくる／はぐくむ」視点を踏まえた学習と、体育理論の授業を関連させる工夫により、ほとんどの生徒がスポーツを「つくる／はぐくむ」楽しさを実感できたと考える。

下山 大介（匝瑳市立八日市場小学校）

【演題】 誰もが面白さを感じることができるゴール型の学習指導の在り方
—アダプテッドの視点を取り入れたスポーツを「つくる」活動を通して—

【概要】

高学年ゴール型バスケットボールの学習において、児童が主体となって参加者の状況に応じたアダプテッドの視点を取り入れたスポーツを「つくる」活動を実践することで、運動の面白さを実感し、運動有能感が高められるかを明らかにするための授業実践を行った。その結果、多くの児童がシュート場面を味わうことができ、単元前後で運動有能感の高まりが見られた。このことから、本実践は運動の得意・不得意に関わらず、ゴール型の面白さを実感することができ、運動有能感の向上につながることを示唆された。

河野 遥樹（愛川町立中津小学校）

【演題】 様々な国の子どもたちが考えを伝え認め合い、誰もが楽しめるネット型ゲーム
—合言葉を使った協同学習を通して—

【概要】

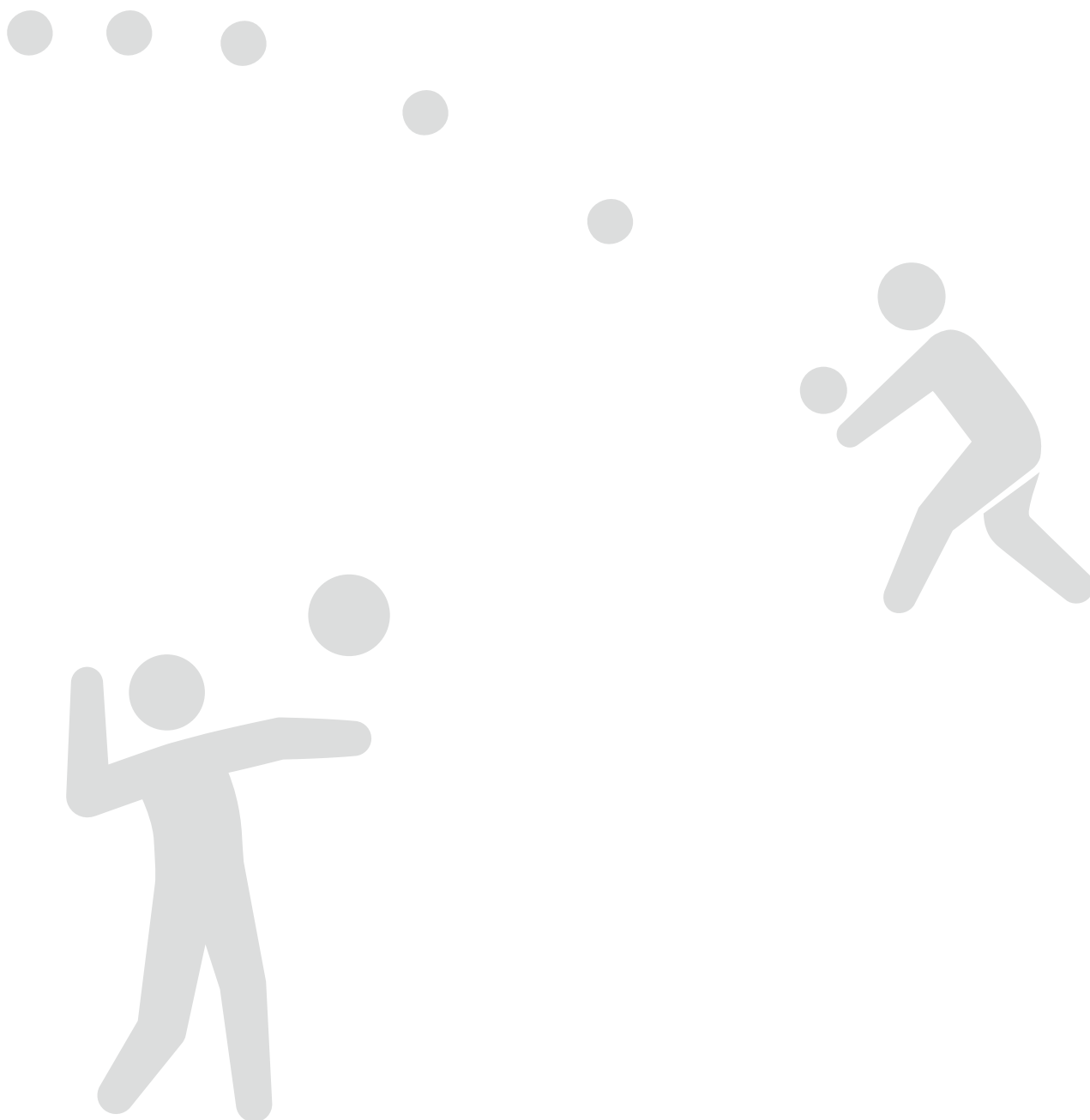
様々な国の子どもたちが共に学ぶ環境において、運動の楽しさを味わうためには、協同して活動する場面で、自分の考えを伝え認め合うことが重要である。そこで、本研究では合言葉を使った協同学習を行った。その結果、練習やゲームの中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりして考えを伝え認め合い、ラリーの続くネット型ゲームを誰もが楽しむことができたと考える。

古橋 裕二郎（那珂市立芳野小学校）

【演題】 個別最適な学修の実現に向けた授業モデルと学習過程の検討
—小学校第4学年のベースボール型ゲームを通して—

【概要】

小学校4年生におけるベースボール型ゲーム教材を基本として、自ら進んで基本的な動き技能を確実に習得していくため個別最適な学修の実現に向けた体育授業を目指した。①確実な技能習得のための教材の工夫、②操作性や活動意欲を高めるための教具の工夫、③技能の段階的な習得を図るための教材の設定を柱に、第3～5学年の授業モデルと系統的な学習過程を検討した。本研究では、課題解決のための時間の設定や系統的な学習過程の重要性が明らかとなった。



令和七年度 JASPE足育の推進について

～足が変われば子どもが変わる 子どもが変われば『未来』が変わる～

JASPE足育推進委員会

は、保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校等の教員、靴や足の専門家等で構成され、現在その人数は70人に及んでいる。推進委員を中心に、出前授業や学校保健委員会、各種研修会などの依頼を受け、各地・各校での足育の実践に取り組んでいる。また、定期的に足育推進委員会を開き、各委員との情報提供や足育の取組の改善や新たな挑戦に取り組んでいる。

《JASPE足育推進委員会の活動》

※リモートや対面での実施

- ①足育推進委員会
- ②出前授業
- ③学校保健委員会
- ④教員研修会
- ⑤学体連全国大会山口大会
- ⑥全国保健主事会
- ⑦推進校・推進園発表・報告会

◇分科会・部会等

- 資料編集委員会
- マイスター部会
- 養護教諭部会
- 幼児教育部会
- 中学校部会
- 動画編集部会

《令和七年度

足育研究推進園・推進校》

◇令和七・八年度

足育研究推進園・推進校

- 足立区立富士幼稚園
- 豊島区立池袋保育園
- 昭島市立光華小学校

◇令和七年度

足育研究協力園・協力校

- 千代田区立九段幼稚園
- 世田谷区立等々力中央保育園
- 練馬区立光が丘春の風小学校

《足育の推進活動》

- ◇出前授業・学校保健委員会等
- ①出前授業・学校保健委員会・研修会：計27校実施

- 児童・生徒数：2998名
- 教職員・保護者・指導者等：1127名

②JASPE足育研修会

- (令和六年度：北海道大会)
- (令和七年度：新潟大会)

③学体連全国大会

- (令和六年度：山口大会)
- (令和七年度：北海道大会)
- ④全国学校保健主事研究大会
- (令和六年度：大阪大会)
- (令和七年度：千葉大会)

《足育パンフレット「足育のススメ」の作成》

- ・保護者等への足育の興味関心、理解啓発のため
- ・小学生の一日をベースに、足育へのいざない、足育の入門編をイメージし作成
- ・QRコードから、指導資料集のWEBデータに展開



《足育指導資料集：第4集の作成・資料検討》

- ・足育指導資料集：第3集までの資料の精選、改訂
- ・指導の内容がよりわかりやすく伝わるように、動画を作成、編集

・QRコードから、WEBデータに展開



《足育の専門家の育成》

JASPE足育マイスター制度

- ・エビデンスに基づいた足育の推進を目指す
- ・正しい足育の普及を図る
- ・教育現場で足育の授業を自ら実践できる教員の育成に取り組む

◇会員登録

会員登録でできること

- ①教材や資料のダウンロード
- ②コンテンツ視聴
- ③簡易計測器の貸出
- ④マイスターの資格所得可能
- ◇JASPE足育マイスターの認定は、講義受講、課題提出



学体連・足育推進事業ホームページはこちら



JASPE足育の登録はこちら

- 【授業マイスター】
- ・正しい足育授業の実践者として認定
- ・足育推進委員とともに出前授業等を行い、子供たちに足育を広める
- 【推進マイスター】
- ・授業マイスターで実績を積み上げた先生を、正しい足育の推進、普及者として認定
- ・児童生徒だけでなく、保護者や社会へ普及するための講演等の講師に認定

養護教諭部会

養護教諭部会では、養護教諭を中心に「保健室」から発信する足育を実践しています。

どこの学校にも必ずある保健室、保健指導、健康診断、健康相談、救急処置等、保健室の役割を生かした足育を取り入れる場面はたくさんあります。

1. 健康診断の中で足育

身長・体重の計測時等には、子供たちが裸足になるため、自分の足や靴を教材とした指導ができます。



2. 問診を通した足育

保健室には様々なけがで子供たちが来室します。

「靴が脱げて転んじやった」という子供に対して、「かかととは踏んでいなかった?」「いつも履いている靴?」とけがの手当を行うだけでなく、けが防止の視点からの言葉がけをします。擦り傷一つにしても、靴のサイズや履き方が要因となつていことも少なくありません。問診に一工夫加えることで、日常的にできる足育指導となります。また、「靴はどうなつてゐるかな?」と問いかけたり、一緒に靴の観察をしたりして、靴へ興味関心を持つきっかけ作りをしています。

3. 計測コーナーで足育

健康診断以外の機会に、自分の身体が気になつて保健室に来る子供もいます。

保健室の一角に設けた計測コーナーで、身長計・体重計と並べて足の簡易計測器を置くことで、足のサイズにも興味を

もっている様子がみられます。

「やってみたい!」、そんな子どもには、足の測定をします。同時に靴のサイズもチェックして、記録用紙に最適な靴のサイズを記録して渡すと、保護者への啓発にもつながります。



4. 廊下掲示物で足育

保健室前を通つた子供にも廊下の掲示物を利用してできる足育があります。特に、操作性のある掲示物だと、立ち止まって読んだり触ったりする姿を目にします。

こんな姿があつた時こそ、正

しい知識を伝えていくチャンスといえるかもしれません。



5. 保健便りで足育

「すぐに使える保健便り・コラム」を作成しています。

保健便りは毎月発行している学校も多いかと思ひます。

運動会や体力テスト前には「正しい靴の履き方」や「選び方」、汗をたくさんかく夏には「足の清潔」に関する記事等、

季節や学校行事に合せて、カスタムしながら記事を掲載してはいかがでしょうか。

6. 保護者への啓発

保護者への啓発として、学校保健委員会や入学説明会は養護教諭が主担当となることも少なくありません。

参加した保護者からは、「靴選びのポイントが分かつた」、「家でも子供と足指じゃんけんをやってみようと思う」という感想が聞かれました。

これからも、保健室だからこそできる足育の発信に挑戦し続けていきます。



幼児教育部会

◇保育園・幼稚園・こども園で 足育を実践

幼児期の足育の重要性を広げるために保育園部会・幼稚園部会にて足育を推進している園の取組状況を観察したり、報告を受けたりしながら取り組んでいます。靴の貸与が終わった園でも引き続き保育者が正しい知識や情報を得て、子ども・保護者が足や靴への関心をもてるように指導を継続しています。保育園部会では講師に特別顧問の吉村先生を招いて研修を行います。0歳児からの足育推進に努めています。

◇足育絵本の活用

ケンちゃんあししくものがたり〜みらいにむかってゴー〜を作成して三年。足育推進園研究報告会や、学体連、幼児教育関係の研究会などの機会に配布したり、解説に活用したりしてきました。今後ホームページにパ

ワーポイントで掲載してさらに使いやすくしていきます。足育の重要性を子ども自身が理解できるようにしていきます。



◇本会「全国学校体育実技指導者講習会」にて実践

保育園・幼稚園・こども園の保育者向けの講習会で足育推進園で実践してきた部員が遊びの事例を紹介しました。靴の履き

方指導や足指体操の後に体を動かす楽しさを味わえる裸足になって遊ぶ活動を多数行いました。参加者からはすぐに実践できると好評でした。



◇足育指導計画の作成

足育が身に付くためには3・4・5歳児の実態に応じて指導を積み重ねていくことが大切です。足育指導計画と実践例の一部をご紹介します。

○3歳児

靴の正しい履き方を知り、自分なりに体を動かす心地よさを味わう

○4歳児

靴の正しい履き方、脱ぎ方に身に付き、多様な動きを取り入れた遊びを楽しむ

○5歳児

靴をきちんと履き、目的に向

実践事例
「バスに乗って動物園に行こう！」
〜様々に足を動かして動物の表現を楽しむ〜
3年保育4歳児6月



4歳児

目標	1期（4月上旬～5月中旬）	2期（5月下旬～7月下旬）	3期（8月上旬～10月上旬）
足育の基礎的な動きの習得	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。
足育の応用的な動きの習得	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。
足育の発展的な動きの習得	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。	○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。 ○靴の正しい履き方を学び、脱ぎ方を学ぶ。

かつて挑戦したり、チームで競い合う遊びを楽しんだりする。

◇幼保小の接続を考えて

幼保小の接続が求められている今、足育もその一つです。幼児期に足に合った靴を選び正しく履き、楽しく運動遊びを積み重ねていくことが、小学校以降の運動遊び・体育に繋がっていくことでしょう。未来までウェルビーイングに生きていくことを願い、足育の実践に取り組みます。

<環境と指導の工夫> （一部抜粋）

- ・幼児が裸足で滑らず動ける場所で行うようにする。
- ・教師も一緒に動き、見本となるように動く。
- ・幼児が足や体の動きを繰り返しの言葉をみんなで言いながら動き、楽しめるように声掛けをする
- ・バスの動き…「バスは足と使って動くよ」「足に力を入れよう」「運転はゴーゴー」→足を踏ん張る
- ・クマの動き…「クマはおしりを上がっているよ、ノッシノッシ」→四つん這い
- ・ネズミの動き…「ネズミは小さく動くな、チョロチョロ」→しゃがんで動く
- ・きりんの動き…「キリンは背が高いね、グーングーン」→つま先立ち
- ・ゾウの動き…「ゾウはドッシンドッシンって歩くな」→足を踏み込む
- ・幼児なりの動きを認める。

中学校部会

本中学校部会もスタートして1年半が過ぎた。推進委員18名、協力委員9名及び徳島県7名による34名での活動となっている。

保育園・幼稚園及び小学校部会の活動や成果、出前授業の見学、推進園・校の実践報告会からの学びと菅原前副会長、早川JES日本教育シューズ協議会理事長、吉村顧問及び（公財）日本学校体育研究連合会山田事務局長等からの指導・助言を受けながら、中学生の足元からの健康の維持・向上及び障害防止に向けての研究に取り組んでいる。

2. 取組方針

① 第二の心臓と言われ、様々な運動を支える足の構造や機能適切な靴の履き方・選び方を指導するための指導法及び資料づくりを研究・推進する。

② 足元からの健康づくりに関する内容と学び方について科学的・実践的な理解を深め、生徒が「自分の体への気付き」「健康な心と体」など自己の生き方を見つめることに繋げる。

③ 「足育」が健康な生徒を育てるための有効な手だてであることを実証するとともに、生涯にわたって足元からの健康づくりに取り組む資質・能力を育成する。

3. グループ分担&取組内容

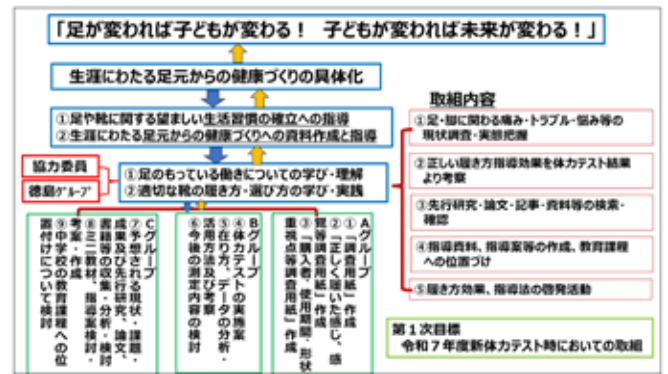
下表に示した三つのグループに分かれて取組を始めた。

① 前年度後半からAグループが予備調査として、Aグループ内で足の状態やトラブル等についての調査を行った。

② Bグループでは履き方指導の効果を調べるために、履き方指導後に再度、反復横跳びを行い、その回数の変化を測定した。

4. ここまでの成果

- ① Aグループ
 - ・ 調査目的…今後予定の「運動と靴に関する調査」の基礎調査として、足の状態やトラブル等についての課題把握
 - ・ 調査期間…令和7年3月末の1週間程度
 - ・ 回収数…東京都公立中学校7校、他県公立中学校1校
 - 1・2年生（男子568名、女子555名）
- ② Bグループ
 - ・ 回収数…東京都公立中学校7校、他県公立中学校1校
 - 1・2年生（男子568名、女子555名）
- ③ Cグループは、靴購入時に添付されている注意書等の記載内容をまとめる予定。



項目	平均	標準偏差	項目	平均	標準偏差
5-1 足の親指に痛みがありますか	1.07	0.263	5-7 足や指（指から上）の筋肉に痛みがありますか	1.13	0.290
5-2 足の小指に痛みがありますか	1.08	0.274	5-8 足や指（指から下）の筋肉に痛みがありますか	1.13	0.286
5-3 足のかかとに痛みがありますか	1.04	0.196	5-9 足のすねの筋肉に痛みがありますか	1.04	0.208
5-4 膝に痛みがありますか	1.18	0.268	5-10 足のふくらはぎに痛みがありますか	1.10	0.304
5-5 足や指（指から上）の筋肉に痛みがありますか	1.08	0.278	5-11 靴ずれでアキレス腱の下（かかとや足首あたり）の皮がむけることがありますか	1.10	0.295
5-6 足や指（指から下）の筋肉に痛みがありますか	1.09	0.285	5-12 靴ずれで足の裏の皮がむけることがありますか	1.13	0.303

◎足の状況について12項目の質問を行った。

・ 質問は2点満点とし、合計が20点を越える者を原則とした。ただし、膝痛を訴える者については、合計18点以上の者を対象とした。

- ・ 1123名中37名
- 1学年（男子12名、女子3名）、2学年（男子9名、女子13名）が該当
- ② Bグループ
 - 正しい靴の履き方指導の効果体力テスト…反復横跳び計測（男子384名、女子345名）

（1）特別な指導無し

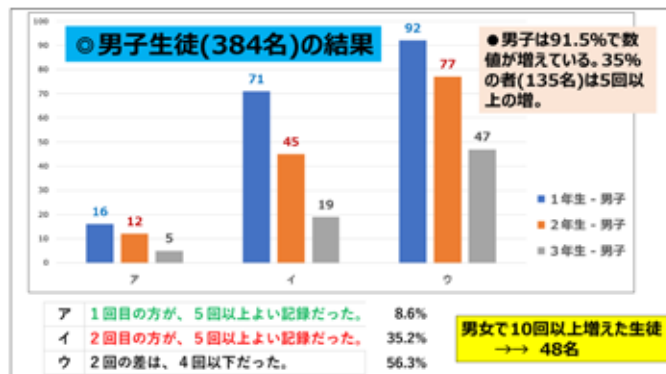
「反復横跳び」計測

（2）動画視聴&履き方指導

（3）指導後、2回目の「反復横跳び」計測

・ 測定結果の数値的变化

・ 履いた感じの変化



5. 今後の取組予定

推進委員の三グループ、協力委員及び徳島グループでの情報共有を図りつつ、中学生の実態を正しく把握すること、指導効果の検証などの調査活動や指導資料作成に力を入れていくことを考えている。

令和七年度 JASPE 足育研修会

新潟大会 令和七年八月十九日（火）

於 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター大研修室

全国大会を翌年に控えた地域で夏季休業期間中に開催しているJASPE足育研修会が、新潟県新潟市で実施されましたので、その様子についてお伝えします。

主催者挨拶 日本学校体育研究連合会

会長 友添 秀則

・学生時代、柔道に取り組んでいて、何度も足を運んだ新潟の地で足育研修会を開催できることを大変ありがたく思っている。
・吉村先生の講演で、足育についての知識や実践がより深まることを楽しみにしている。
・来年度の全国大会は新潟大会。たくさんの方が参加していただけることを願っている。

主催者挨拶 日本教育シューズ協議会

理事長 早川 家正

・一人一人の子どもに正しく靴を履いていただき、たくさん運動をしてもらいたい。
・まず、参加された皆さんが自分の足元を見直してもらいたい。
・自分の足に合った靴を履いてもらい、そして、足育を新潟でも広げてもらいたい。

開催県挨拶 全国学校体育研究大会

新潟大会 実行委員会委員長

新潟市立沼垂小学校 校長 門倉 純一様

・私自身、初めて足育について学ぶ研修です。とても楽しみにしています。
・今日の研修会を通して、新潟にも足育を広めていけたらと思います。
・来年度の全国学校体育研究大会新潟大会へつなげる研修会にしていきたいです。

○なぜ、今「足育なのか」

JES（日本教育シューズ）が行った児童・生徒一万に対する足の調査から、43%の児童・生徒が何らかのトラブルがあることが分かった。子どもたちの足を、未来を変えていくために、足育を推進することとした。

○「足育」とは

足育＝足元からの健康教育
「足育」を通して、自分の体に気付き、健康な生き方について学ぶ力を育てる。

○足育の授業モデル

足育の学習の基本的な流れを課題解決的な学習となるよう、「そうか・そうだ・そうしよう」の3つのステップで考えた。各学年の学習指導案については、学体連・JASPE足育のホームページに掲載している。

○JASPE足育推進委員会の

さまざまな取組の紹介

※詳細は別ページにて解説

- ①幼児教育部会（保育園・幼稚園）の取組
- ②中学校部会の取組
- ③養護教諭部会・保健室での取組
- ④足育マイスターについて
- ⑤足育指導資料 第4集について

○足育出前授業について

指導内容の実演と体験として「模擬授業」を行った。

◇小学校1・2年生

「足のせいけつ」

◇小学校3・4年生

「足のひみつを発見しよう」

「足のせいけつ」で足への興味関心を抱かせ、「足のひみつを発見しよう」では、土ふまずの働きや健康に過ごすため必要なことを考え、実際に体験してもらった。

○JASPE足育特別顧問

吉村眞由美先生による講演

「シューエデュケーション®」最新情報2025夏へ移り変わる時代に即した教育のヒント



さまざまな校種から参加の研修会場の様子



来場者全員が簡易計測・フットプリントを体験



来場者が中学年児童となり出前授業を体験

講演 「シューエデュケーション® 最新情報2025夏 〜移り変わる時代に即した教育のヒント〜」

（公財）日本学校体育研究連合会 JASPE 足育事業 特別顧問
早稲田大学人間科学学術院 人間総合研究センター

招聘研究員 博士（学術） 吉村 眞由美先生



○自己紹介

○平成・令和の靴の流行から

- ・平成の大ヒットサンダルの定番化
- ・足を締め付けずゆったり幅広く、つま先をトントンして履くのが便利
- ・令和最大の流行の靴（スリッポンズ）のCM動画
- ・人気芸人やアスリートを起用しての靴のCM
- ・「手を使わないで靴を履くこと」が、そんなに良いことだと思いますか？

○日本には靴教育が無かった

- ・昔は下駄が主流
- ・子どもたちへの運動靴の普及は1945年
- ・第二次世界大戦後に靴へと変化
- ・過去の日本には靴教育が無かった
- ・第二次世界大戦後、もの（靴）だけが普及したが、靴の教育は始まらなかった
- 指導者として必要な視点
- ・中学校、高校の運動部の事例から（体育科教育 連載）

○足育の背景と諸問題

- ・はだしの教育
- ・日本の足の教育の歴史は古い
- ・が、靴の教育は無かった
- ・JASPE足育推奨の正しい履き方との比較
- ・足にフィットする履き方のメリットとは
- ・靴教育で得られる効果（運動・快適・転倒・緊急）

○手を使って丁寧に履く効果と意味

- ・靴底の摩耗や不自然なすり減り
- ・指導者から靴ひも指導を受けたことは一度もない実態
- ・靴の履き方の基本は手を使うこと
- ・足だけで履くのは下駄や草履の文化
- ・手を使わないで靴を履けば、足を支える靴のかかところがぶれ、ぐらつく原因・ケガの原因に
- ・手を使わないで靴を脱ぐ癖は、ゆるんだ靴に慣らされて「ゆるい靴好みの足感覚」を育てる

○足育・靴教育を始めた方へ

- ・特別な靴がなくても良い
- ・特別な授業をしなくても良い
- ・毎日の教育、保育に少しプラスするだけ
- ・1日できたら自信がつく
- ・3日できたら慣れてくる
- ・1週間できたら工夫ができるようになる
- ・1カ月できたら習慣化し、効果が出てくる
- ・まずは、とにかくやり始めてみるのが大事

○履き方指導を始めるヒント

- ・靴を履く時の声掛け、脱ぐときの声掛け、しまい方を見る
- ・教師自身が正しい履き方、正しい脱ぎ方を見ることが効果的
- ・子どもが履いているのと同じ種類の靴（ひもやベルトあり）で行うことが重要
- ・口だけで子どもを動かすのではなく、自ら率先して見せながら履く・脱ぐ
- ・心ある教師が増えれば、学年での共通指導、部活動での共通指導などできればさらに浸透する

○日本人が「大きいサイズ」に陥る仕組み

- ・1歳の頃に芽生え、6歳頃には大人の80%の感覚が身に付く
- ・この時期に大きすぎる靴を履いたり、ベルトをゆるめに履いたりすることで「ゆるい状態が安心できるフィット感」として刷り込まれてしまうことは危険
- ・「ゆるい靴感覚」は足に合った靴がきつく感じてしまう現象が起る
- ・大きいサイズを履くデメリッとは多く、改めるべき

○教師から子どもへの声掛けの重要性

- ・靴のフィット感と、足に合った靴のフィット感を比較し、教師・保育者がその感覚を覚えておく
- ・言葉として伝える
- ・これが正しい履き方だよこうやって履くと足にびったりして気持ちがいいよね
- ・大好きな先生の言葉はいつまでも心に残る

＼質疑応答＼

- Q：おさがりの靴の損耗はどの程度までなら大丈夫か（保）
A：著しいすり減りによる靴の左右への傾きが無いこと、ベルトの損傷や著しい歪みが無ければ基本的に大丈夫。
Q：スリッポンの靴が多いが、ベルトの靴へ変えてもらうにはどうしたらよいか（保）
A：正しい履き方をするには、幼児にはベルトが必須。足にフィットさせることが子どもの成長に欠かせない。スリッポン型の靴は、機能的に低く、危険な履き方を誘発するため、推奨できない。スリッポンの靴の欠点を周知し、ベルトの靴に替えていくことが望ましい。

令和七年度よりJASPE足育推進校を拝命した本校では、取組の目的を「正しい靴の履き方を定着させる」ことに焦点化する。

JASPE足育推進委員会が発足した当初、私たちは足育を生活文化にしたいと考えた。そのためにも、子供たちの健やかな育ちのために、足元からの健康教育を学校教育に根付かせたいと考えたのである。

そこから約十五年の歳月が流れた現在、足育の出前授業は東京を中心に全国に普及してきた。資料のデジタル化や一般教諭、養護教諭、あるいは保護者への啓発資料も確実に充実してきた。

一方、働き方改革を求められる学校現場において、いまだ新しい教育として捉えられる足育の普及は十分なものではないと感じる。

そこで、本校では原点に立ち

返り、学校教育の範疇で、正しい靴の履き方を定着させる」このシンプルな目標に焦点化し実践を重ね、検証することとした。

○なぜ「正しい靴の履き方」が定着しないのか

各地での出前授業が順調にその回数を伸ばしている反面、そこで得たはずの知識が果たして子供たちの生活に根付いているのか、以前より疑問であった。この疑問が本校取組の出発点であり、整理すると次の三点に集約される。

- ①そもそも、子供たちは「正しい靴の履き方」を憶えているのか？
- ②知識として憶えている子供は果たしてそれを実践しているのか？
- ③継続的に実践している子供と、実践していない子供は何が異なるのか？

まず、この課題の所在を明らかにすべく、先行してJASPE足育の出前授業を受けた都内公立小学校2校に調査協力を要

請した。調査の目的、概要および結果内は次の通りである。

一 調査の目的

足育出前授業実施後の意識と行動の変容における検証的調査から、児童が正しい靴の履き方を定着させることができる取組についての新たな知見を提供することを目的とする。

二 調査の概要

- ・対象 JASPE足育出前授業を受けた都内公立小学校2校 5年生225名（内有効回答数210名）
- ・方法 formsによる意識調査
- ・正しい靴の履き方の知識の定着
- ・正しい靴の履き方の実践頻度
- ・正しい靴の履き方をする場面とその頻度

三 結果

（2025年1月～2025年3月実施）

※ここでは紙面の都合上、文面でのみ記載

①両校ともに、正しい靴の履き方を憶えている児童の方が多い（正答率A校63%、B校72%）

②両校ともに、出前授業後に正しく靴を履く頻度においてばらつきがみられる

（両校ともほぼ同じ結果が出た。A校の結果のみ記載。）

- ・「毎日正しく履く」 23%
- ・「時々正しく履く」 54%
- ・「ほとんどない」 20%
- ・「一度もない」 3%

③両校ともに知識の定着と、正しく靴を履く頻度は関係していないと考えられる。（t検定）

④正しい靴の履き方を「一度もしていない」児童の自由記述から

- ・忘れてしまう
- ・面倒くさい
- ・気にしていない

⑤正しい靴の履き方を「時々、ほとんどしていない」児童の自由記述から

・（正しく履いている）時間が少ない

⑥正しい靴の履き方を「毎日している」児童の感想から

- ・ケガをしたくない

これらの結果をまとめると次の二点が浮かび上がると考える。

○足育出前授業は、正しい靴の履き方を一定期間、知識として残す。

○継続的な行動変容にまで至らない可能性が高い。

四 課題

これらの実態を鑑み、出前授業後の取組（適時性のある言葉掛けや、靴を履く環境整備等）が必要である。

今後、児童の行動変容を目指した本校の実践および検証を報告していく予定である。

本園は、令和7・8年度でJASPE足育研究推進園の指定を受け、足育活動を推進しております。今年是一年目の取り組みのご報告をいたします。

○教員の研修

昨年度の千代田区立九段幼稚園の取り組みについての報告会に、教員が参加させていただきました。二年間の取り組みの状況や、足育活動の趣旨、子どもの発達とのつながりについて勉強させていただきました。そのうえで、自園でどんな取り組みをしたいか、必要かについて話し合い、令和7年度の教育課程を編制しました。

令和7年度の始まりには、教職員全員に「足育活動推進」について共有し、学体連で作成した指導計画を参考にして、各学年「足の裏の感覚を育てるために、裸足になって動く活動を取り入れる」「遊びの中で、多様な動きのできる環境構成について意識していく」「足育活動の成果について、子どもたちの動きの中から確認していく」など

を指導計画に記載していくようにしました。

○保護者への啓発

6月には、土曜参観日の後に「足育講習会」を開催しました。講師として、早稲田大学人間科学学術院 招聘研究員 吉村眞由美先生にお越しいただき、保護者に対して靴の選び方や健康とのつながりについてお話しいただきました。土曜開催ということもあり、両親での参加も多く、事前のアンケートの効果もあり、大変関心をもって参加されていました。

保護者の皆さんの足の採寸や、靴のサイズ合わせを通じて、「靴の選び方が、動きの心地よさ、健康につながるがよく分かった」「デザインばかり気になっていて反省した」「長く履けるようにと、常に緩い靴を履かせていた」という声が聞かれ、家庭と園が連携して取り組む活動の、良いスタートとなりました。

○園児の実態を把握する

7月には、園児一人一人の足型をプリンターで記録しました。その際には、保護者への講演会でもご協力いただいたJES日

本教育シューズ協議会の早川家正様にお越しいただき、採寸の方法も学びました。足型の読み取りはまだ不十分ですが、教師が子供たちの足の裏の状況や変化を確認することが少なかったため、継続して行うことで、読み取れることも増えてくると考えています。

○園児の活動 3歳児

入園したばかりの3歳児は、靴の履き替えだけでも大仕事です。外靴はマジックテープで止めるものが多いため、自分で固定することが難しい姿も多く見られました。そこで一人ずつ丁寧に声掛けをしながら、靴を履くことに慣れていきました。斜面板で作った山に裸足で登る際、滑って落ちてしまっていたが、何度も挑戦しているうちに、足の掛け方や足の裏の踏ん張りが効くようになり、自力で登れた時は、とても素敵な笑顔を見せていました。



○園児の活動 4歳児

4歳児は、運動遊具を用いた場を毎日作り、動くことを楽しんでいきます。ある日、斜面板をよじ登る際に裸足の方が登りやすいと気付いてから、自然と室内の運動遊びでは裸足になるようになりました。バランスミニお山という遊具を教師が提示すると「ちくちくする」「痛くないよ、気持ちいい」「落ちずに行けるよ」と言い楽しみながら挑戦しています。遊びながらバランス感覚や体幹を鍛えています。また、年長児が足育サーキットで遊んでいる様子から刺激を受け、教師と一緒に様々な材料を集めて製作したマットもお気に入りです。感覚が好きなマットを見つけて友達に伝えたり、足裏で感じたことを言葉にしたりしながら繰り返し楽しんでいました。



○園児の活動 5歳児

5歳児が好きな遊びの中で、裸足になって円形マットやビ



ニール素材のでこぼこ山を組み合わせて楽しむ姿がありました。裸足になって、より様々な感触や刺激を楽しめるように、教師は凹凸をつくるための素材（ビー玉、様々な大きさのテープ芯、ラップ芯、ペットボトルキャップ、梵天）とそれをくっつけるためのジョイントマットを提示したところ、友達と力を合わせて素材をくっつけたり、「ここにもつけてみる?」「こっちの方が痛いよ」などとやりとりをしたりして作ることを楽しみました。

自分たちで作った特製のマット遊びを「ほだしコース」と名付け、翌日以降もマットの組み合わせを変えながら友達と一緒に楽しむ姿が見られました。

今後多様な動きを経験できるように工夫していく予定です。

JASPE 足育研究推進園 豊島区立池袋第一保育園

池袋第一保育園は、今年度から二年間、JASPE足育推進園の委嘱を受け、足元から子どもたちの健やかな育ちを支えるために、保育園だからこそできる取り組みを行っていかうと考えています。

【本園の概要】

本園は、東武東上線北池袋駅から徒歩7分の閑静な住宅地にある保育園です。0歳児～5歳児クラスまでのお子さんをお預かりしており、令和六年度からは医療的ケア児受入れ園となりました。園庭や近隣の公園などで身近な自然と触れ合う体験を大切に行っている保育園で、小さいけれど二つある園庭には、地域の子育て家庭の方々も遊びに来てくれます。

【豊島区の靴教育の取組】

豊島区は、人口密度も高く、広い遊び場が少ない地域なので、保育園では、様々な活動を通して、しなやかな体づくり、大きな怪我の予防を心掛けて保育をしています。

そのような中で、平成二十九年度より、靴教育の第一人者である吉村眞由美先生（早稲田大学人間学学術院 招聘研究員）

をお招きして保育園職員対象に「靴教育」の研修を毎年実施しています。受講した職員からは、

この研修を通して、正しい靴の履き方・履かせ方を実践するようになり、保育園の子どもたちの健やかな育ちに大きく影響している事例が報告されています。吉村眞由美先生の「靴教育」の研修を受講した職員が、年々増えていることで、豊島区全体の「靴教育」「足育」への取組みが広がっています。

【看護師業務連絡会】

豊島区の公立保育園は、現在十六園あります。全ての公立保育園が産休明け園であり、医療的ケア児受入れ園もあることから、各園1～2名の看護師が配置されています。子どもたちが健やかに伸びやかに成長していくように、これまでも保育士と共に、様々な専門性を発揮してきました。足育に関しても、

看護師が中心となり、積極的に取り組んでいる保育園が多々あります。令和六年度、公立保育園全看護師会にて、吉村眞由美先生の研修を実施しました。足の健全な育ちから体全体の健康を図るために、足育推進グループを作り、看護師の視点で様々な取り組みを始めています。今後は、全園の看護師が、足育のリーダーとなり、豊島区の子ど

もたちの健康を足元から支えていくと思います。

【池袋第一保育園の取組】

これまでも、園児が靴を履く時には、「かかとトントン」「ギュー、ペタ！」と言葉で伝えながら正しい靴の履き方を実践している職員もいましたが、保育園全体の取組みにしたかったため、令和六年度に、職員と保護者を対象に「子どもの靴の選び方」「正しいサイズの靴を正しく履く」というテーマで吉村眞由美先生の研修を実施しました。



職員にとっては、確かな学びとなった研修であり、保護者の反響も大きく、「もっと早く知りたかった」という感想が多く寄せられました。受講した保護者は、その後も靴の履き方や選び方の意識が高まったことで、保育園職員と共感し合えるようになり、保護者と共に子どもたちの健康な体や成長のために勉強していく大切さを実感しました。また、遊びを通しての体づく

りという目的で、二年前より各年齢に合ったリズム遊びを取り入れています。裸足で行うリズム遊びなので、自然に足の指や足裏を使う活動となっています。

保護者には、入園時保護者説明会や各クラスの保護者会の場で「正しい靴の選び方・履き方」について話をしています。歩き始めの時期の0歳児クラスの保護者は、靴についての関心が特に高いので、ファーストシューズの選び方をはじめ、履き方についても正しく伝えて、保育園と共に足育への理解を深めています。

【今年度の取組】

足育推進園としての第一歩として、全職員が、足育について学び、正しい知識を身につけていくために、7～8月に吉村眞由美先生の研修「乳幼児の足の健康・安全を守る靴教育」を計4回とJES日本教育シユーズ協議会の武原さんの研修「足計測とフイッティングの特別講座」

を実施しました。今後の取組みについては、足育PT職員が中心となり、計画を作成していきます。

①保育園職員と園児が同じタイプの上履きと外履きを履くことにより、生活の中で靴の脱ぎ履きを丁寧に行うことを、一緒に意識していく。園児と共に感じ合いながら、足に合った靴の感覚や正しい靴の履き方を身につけていく。

②保護者会や園だよりを活用して、靴教育・足育への取り組みを伝えていく。保護者対象の研修を実施する。

③異年齢での関わりを大切にしながら、正しい靴の脱ぎ履きの仕方を子ども同士も伝え合えるようにする。

④これまで実践してきたリズム遊びに加えて、足指遊び等、足の指や足裏を使う遊びを幅広く取り入れる。裸足になって園庭で遊ぶ機会を増やしていく。

今後、靴の貸与を受けていくのは、3～5歳児クラスの園児ですが、歩き始めの0歳児から2歳児クラスの園児の時期も重要であることから、保護者と共に、子どもの健やかな育ちのために靴教育を土台とした足育に取り組んでいきます。



JASPE 足育研究推進校
練馬区立
光が丘春の風小学校

本校は令和5・6年度のJASPE足育推進校での取組を終え、今年度はJASPE足育研究協力校として、引き続き、足元からの健康教育「足育」の実践と「足育」の定着を目指し取り組みでいる。

《足育の取組》

①正しい靴の履き方の指導

年度当初や運動会前の全校朝会にて、正しい靴の履き方と脱ぎ方、なぜそれが大切なのか等、足育についての講話を実施した。「ベリベリ・トントン・ギュウピタ」を靴の履き方の合言葉として繰り返し指導するとともに校内掲示することで、足育への意識付けを継続している。推進校の時に設置した靴履き用の簡易ベンチは子供たちの中に定着し、ベンチに座り、ベルトを外して脱ぎ履きする児童や、かかとトントンで履くことが定着してきている。

②定期的な足育に関する掲示

運動会前など、児童の上履きの状況を見ながら、校内の掲示板に足育に関する掲示をおこ

なっている。

◇正しい履き方の合い言葉

◇全校朝会での講話に基づいた「靴を揃える」の言葉

◇1年生への意識付けのための「足あとクイズ」など



③外国籍児童への対応

本校ではここ数年、外国籍児童が急増している。現在の状況は、全校児童600人に対し、60人が外国籍児童であり、その多くが日本語を話せない現状である。保護者も同様であり、足育や上履きなどについて英語版や中国語版を作成し、理解が少しでも進められるよう取り組んでいる。



《上履きの実態調査》

昨年度まで、全児童に対し上履きの無料貸与をおこなっていたが、今年度からは各家庭で購入する形に戻ることとなった。この状況の中で、子供たちの上履きがどう変化していくかを年間を通して実態調査していきながら、JASPE足育が実践してきた足や靴に対する学び、足元からの健康教育が、どう定着していくかを分析していきたいと考えている。

◇新1年生に対しては、入学説明会で新足守シューズを紹介し、春休み中に販売。

◇児童の上履きを次の4つに分類。

①旧足守シューズ

令和6年度まで無料貸与していた足守シューズ。

②新足守シューズ

今年度から導入した新しい足守シューズ。学区内の販売店で購入可能。

③JES以外のメーカーのベルト型の上履き

④バンドバレーなどベルトが無い形の上履き

図1 上履きの実態調査

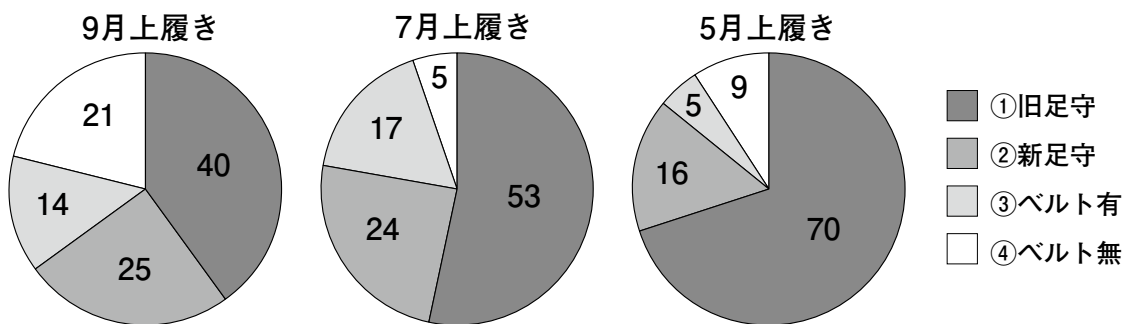


図1は、5月・7月・9月の3回、児童の上履きの実態調査、図2は実態の変化を低学年・中学年・高学年に分けてまとめたものである。

図2 上履きの変化（詳細）

	低学年			中学年			高学年		
単位：%	5月	7月	9月	5月	7月	9月	5月	7月	9月
①旧足守	43	28	19	76	57	39	80	65	53
②新足守	36	41	39	12	21	24	7	16	18
③ベルト有	9	25	15	3	16	16	4	14	11
④ベルト無	12	6	27	9	6	21	9	5	18

図1・図2から、夏休み明けの9月になり、ベルト無しの上履きの割合が急増していることがわかる。図2からは、ベルト無しの上履きの割合の増加が低学年で顕著であることがわかる。これは、1年生の児童・保護者への足育学習の取組が他学年に比べ少なかつたことが要因ではないかと考えている。引き続き、さまざまな場面で足元からの健康教育・足育について発信し、児童・保護者が足育の日常化へ歩みを進めていくよう取り組んでいきたい。

JASPE 足育研究推進園 千代田区立九段幼稚園

本園は、令和5・6年度足育推進園として活動させていただき、今年度は調査協力園として、引き続き取り組んで参りました。今年度は、園内での継続した足育推進活動とともに、保護者、地域に向けた啓発活動に取り組んでいます。今年度の取組内容をご報告させていただきます。

足育サーキット・足指体操等

昨年度までは、保護者とともに取り組んできた足育サーキットは、今年度は各学級のタイミングで、また、保育室内や廊下など、好きな場で取り組んでいます。子どもたちが自分たちでサーキット場を構成しながら、楽しむ姿が見られます。時には、遊びの場とつながったり、また、数名の友達が作った場が、違う遊びをしていた友達との刺激となつて場や仲間が広がったりすることもあります。



今年度入園したばかりの3歳児も、先生と一緒にサーキットを楽しんだり、先生のまねっこをしながら、足指で布ボールをつまんだり、布をつまむことに挑戦したりなど、日常的に楽しんでいます。



足測定

今年度から、学期ごとに子どもたちの足長と足幅を定期的に計って記録し、保護者と共有しようということ、「足測定」を始めました。そこで、年度の始めに、JES日本教育シューズの平井様にお越しいただき、新しい職員向けの足測定学習会



を行いました。どの職員も、子どもたちの足測定ができるよう、園の教員みんなで内容を共有しました。さらに、年少の子どもたちも、まっすぐ前を見て、正しい姿勢で計ることができるよう、測定器の外の足を、足形に載せるようにし、目線の高さに視覚教材を貼るなどの工夫をしています。



保護者向け足育学習会

六月の中旬に、靴博士 吉村眞由美先生、JES日本教育シューズの早川様、平井様を招聘して、保護者向け足育学習会を行いました。今年度の新入園の方や、昨年度の途中入園の方を対象としましたが、リピーターの方々も大勢いらして、改めて足育について熱心に学ばれる姿が見られました。終了後も、個別に質問をされて、お子

さんの特性に合わせた靴の選び方や、幼稚園を修了されたごきょうだいの足についても質問される方などもいらつしやいました。関心が増々高まっていることを痛感いたしました。

地域に向けた足育

夏季休業日明けの九月の最初の土曜日に、地域の町会が主催される「えんにち広場」という大イベントが二年ぶりに開催されました。協賛となつている幼稚園は、今年度初めて、「足育」のブースを開き、足育サーキット体験コーナー、足指体操等の動画視聴と体験、足測定、そして平井様にお越しいただき、フットプリント体験など、盛りだくさんのコーナーを設定し、地域の方々に足育を実際に見て、体験していただきました。会場の入口近辺に設定された足育コーナーは、思わず、立ち止まって見ていただける、大変、宣伝効果の高い場所です、小さなお子様からご高齢の方まで、関心をもって体験していただくことができました。特にフットプリント体験では、自分の足の形がどのような形になっているのか、どのような癖があるのかなどに関心をもたれ、解説を聞くのに

行列ができ、百枚用意していただいた用紙が足りなくなるほどの人気のコーナーでした。お見えになった千代田区長様にも体験していただくなど、地域の皆様にも「足育」について、関心をもつていただく貴重な機会となりました。



JASPE 足育研究推進園 世田谷区立等々力中央保育園

本園は、令和5・6年度、保育園として初めてJASPE足育推進研究園の指定を受け、子どもたちの健やかな育ちを足元から支えるため、靴教育を中心とした足育活動の実践に取り組んできました。

令和7年度は、JASPE足育調査研究協力園として、靴の貸与の終了後も、子どもたちが自分の足に合った靴を正しく履いて元気な毎日を送ること、また、自園だけでなく他の区立園でも足育に興味を持つて保育に取り入れてもらうことを目指して実践を継続しています。

これまでの取組の成果

足育研究推進園としての2年間、足指を使ったあそびや年齢・発達にあった動きやあそびを積極的に保育に取り入れ、子どもと一緒に足育活動を楽しみながら行ってきました。



職員と幼児クラスの児童に対しては、足守シューズを貸与していたが、保育士と子どもが同じ靴を履くことで靴の履き方を知らせやすくなるとともに、

正しい履き方が習慣化してきました。

幼児クラスでは、活動を始める前には靴が正しく履けているか、保育士が声をかけて確認するようにしてきたことで、子ども自身も履き方を確かめ、より運動しやすい状態で活動に取り組んでいます。



乳児クラスの子どもたちは家庭で用意した靴を履きますが、靴を履き始める1歳頃から、保育士が子どもに靴を履かせる際、動作とともに『かかとトントン・ぎゅーぺったん』と、子どもにわかりやすい言葉を添えて繰り返して知らせています。そうすることで、正しい靴の履き方が、当たり前の履き方となっています。

子どもたちの姿から、靴を正しく履いて過ごすことは、「からだを動かしやすいだけでなく、良い姿勢を保つことや安全面でも効果がある」と日々子どもにかかわる保育士たちが実感したことも取り組みの大きな成果です。



今年度の課題

子どもの姿から効果を感じられる一方で、子どもの靴を用意する保護者の意識には個人差があります。取り組みを通して、ほとんどの方が「ベルトのある靴」を選んでもくださるようになりましたが、足のサイズより大きいサイズを選ぶ、機能性ではなくデザイン性やブランド名で選ぶ方は一定数いらつしやいます。また、子どもが自分で靴を履けるようになると、子どもに任せてしまいがちです。

実際、登園時に家から履いてくる靴（片側ベルトの靴）で履き方指導を行った際、まずはいつもの履き方で履くよう伝えたと、園では正しく丁寧に靴を履いている年長児であつても、家の靴はベルトを着脱せずに履く姿が半数近くに見られました。



家庭では、子どもが靴を脱ぎ履きすることにあまり注目していないこと、子どもの見本となるべき保護者の大半が、紐を結んだままのスニーカーを脱ぎ履きしていることなどが原因ではないかと考えます。

この春、等々力中央保育園から別の区立園に異動した保育士5名に対し、今の園の子どもたちの靴について聞いたところ、全員が「靴がとても気になる」と答えました。気になっている理由は、「靴のベルトを着脱せずに履く」、「ベルトがない靴を履いている」、「靴のサイズが大きい」と皆同じで、具体的には「活動中に靴が脱げてしまい、活動を中断せざるを得ない」、「足元が不安定で転びがち」、「動きにくそうにハラハラする」などの声が聞かれました。せめて自分だけでもと、できる範囲で子どもたちへの声掛けを行う、園内研修で足育を取り上げようと動き出した保育士もいますが、異動したばかりの一保育士だけです。すすめていくには少しハードルが高いようです。

今年度の取組目標

- * 子どもたちに正しい靴の履き方を知らせ、日々履き方を確認し、正しい履き方が身につくようにする
- * 年齢発達にあった運動あそびを積極的にを行い、足の感覚を育てるとともに、心身の成長発達を促す
- * 保護者に向けて靴についての正しい知識や情報を発信し、子どもたちの足に合った靴を選べるようになってもらう
- * どの保育園でも活用できる足育資料の作成を目指す

基本的な目標はこれまでと変わりません。今年度も、JASPE足育事業特別顧問の吉村眞由美先生や、JES日本教育シューズ協議会理事長 早川家正氏にご助力をいただきながら、子どもたちが「どんなベルトの靴でも正しく履けるようになる」ことを目指し、靴の貸与終了後も保育士や保護者が足や靴への関心を持ち続け、子どもたちが足に合った靴を正しく履いて元気な毎日を送ることを目指して実践を行っています。



そして、我が園から巣立っていった保育士たちが、今の園で少しずつ足育を始めているので、そのサポートができないかと考え、新たな目標として、足育の資料作りを掲げました。

どの保育園でも乳児期からの足育の重要性を知って、保育の中で活用してもらえような啓発資料を作ることを目指し、まずは保育士、子ども、保護者それぞれに、どの情報が必要なのか、どのように知らせればわかりやすいのかなどを現場の声から探っていきたいと思っています。



全国学校体育研究大会 近年度開催地のご案内

第64回全国学校体育研究大会（令和 7 年度）開催地	北海道	令和 7 年10月30日・31日
第65回全国学校体育研究大会（令和 8 年度）開催地	新潟県	令和 8 年10月12日・13日
第66回全国学校体育研究大会（令和 9 年度）開催地	鳥取県	令和 9 年11月11日・12日
第67回全国学校体育研究大会（令和10年度）開催地	群馬県	



令和6年度 個人賛助会員

個人賛助会員 (10,000 円)

北海道	林 政 孝
	菅 原 伸 一
	坂 本 浩 哉
青 森 県	鹿 内 安 栄
	俣 田 登
	三 上 保
岩 手 県	細 川 佳 紀
	江六前 仁 史
宮 城 県	小 野 敬 弘
秋 田 県	藤 田 博 樹
山 形 県	金 子 孝 宏
	小 野 行 彦
	細 谷 尚 寿
茨 城 県	秋 山 克 巳
埼 玉 県	久 保 浩
千 葉 県	高 橋 和 宏
	中 村 太一郎
	後 藤 光 康
	都 丸 輝 信

東 京 都	井 上 龍 夫
	門 野 吉 保
	小 板 橋 悦 子
	佐々木 秀 之
	佐 藤 洋 士
新 潟 県	星 野 浩 一
富 山 県	盛 宏 之
長 野 県	秋 山 昇
岐 阜 県	辻 伸 之
愛 知 県	小野田 達 也
	森 弘 徳
	水 田 智 之
滋 賀 県	高 田 和 子
	南 雄 志
大 阪 府	荒 木 豊 充
	安 原 巧
	溝 端 茂 樹
兵 庫 県	木 舩 和 幸
	石 野 稔
	宮 本 稚 子

奈 良 県	濱 中 誠
鳥 取 県	近 藤 剛 夫
	賀 川 雅 規
	林 原 ゆかり
島 根 県	塚 田 英 樹
	安 達 正 治
岡 山 県	松 崎 なぎさ
徳 島 県	二 宮 あゆみ
福 岡 県	宮 城 強
	久 野 玄 仁
	石 橋 勝 志
佐 賀 県	藤 田 弘 美
	平 井 敏 博
	武 藤 敏
長 崎 県	廣 重 昭 博
	片 岡 勝 志
	川 本 哲 也
	内 田 直 志

以上 57 名

児島株式会社
JES 日本教育シューズ協議会
株式会社Gakken
株式会社大修館書店
株式会社ギムニク
株式会社ミカサ
株式会社グリップメソッド
教育シューズ振興会・日進ゴム株式会社
株式会社エービーシー商会
株式会社第一学習社
三洋工業株式会社
フットマーク株式会社
株式会社光文書院
東京書籍株式会社
セノー株式会社
あかつき教育図書株式会社
学校体育シューズ研究会（株式会社アスティコ・協和株式会社）
株式会社三和製作所
ブランロッシュ株式会社
株式会社こども体育研究所
美津濃株式会社
株式会社エバニユー
大日本図書株式会社
株式会社東洋館出版社
ヤブ原産業株式会社

〈大会協賛企業〉

東武トップツアーズ株式会社

本財団事業は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から
助成を受けております



MADE
IN ITALY

レオプラステイク

Disc'o'Sit
ディスクシット

&

Movin'Sit
ムービングシット

Disc'o'Sit カバー
¥3,400(税抜)



Movin'Sit カバー
¥3,400(税抜)



Disc'o'Sit

size:Φ39cm
¥6,800(税抜)

【LP8911】
colour: blue

【LP8915】
colour: dark grey



Movin'Sit 【LP8910】

size:36×36×7cm
¥6,800(税抜)



Disc'o'Sit Jr. 【LP8912】

size:Φ32cm ¥4,800(税抜)



Disc'o'SitやMovin'Sitを
椅子に置いて座るだけで無意
識のうちに正しい姿勢に導い
てくれます。
自然と、お腹の筋肉も使える
ようになるため、腰への負担
も軽減される優れたものです。

Movin'Sit Jr. 【LP8909】

size:26×26×7cm ¥4,800(税抜)



株式会社ギムニク

〒544-0005 大阪市生野区中川6-10-13 Tel:06-6756-7575

mail:g-ball@gymnic.co.jp Website:https://gymnic.co.jp



重量約150g

ネーム可

SD10-YBL/YLG/YP

【スマイルドッジボール1号】

●スポンジ(EVA) ●円周約59cm ●推奨内圧0.10-0.15kgf/cm² ●タイ製



YLG



YP



重量約290g

TRS-Y

【スマイル タグラグビーボール】

●縫い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.20-0.30kgf/cm² ●円周68.5~70.5×51~53cm
 ●重量約290g ●グリップ性があり、握りやすい。 ●4号 ●中国製

RKU BASKETBALL LAB 共同開発



重量約430g

ネーム可

SB612-OBL

【スマイルバスケット6号】

●スポンジ(EVA) ●円周約73cm、推奨内圧0.20~0.25kgf/cm² ●タイ製

セストボール



重量約240g

ネーム可

SC-YPLG

【セストボール】

●縫い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.2~0.25kgf/cm²、円周64.5~66.5cm ●タイ製



重量約150g

KR-Y

【スマイル ラグビーボール】

●縫い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.07kgf/cm² ●円周52~54×38~40cm
 ●重量約150g ●中国製



重量約280g

小学生全期 ネーム可

SF428-WBK

【スマイルサッカー4号】

●円周約65cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
 ●柔らかさと使用感をバランスさせたスマイルサッカーボール ●タイ製



重量約260g

小学生低学年 ネーム可

SF326-WBK

【スマイルサッカー3号】

●円周約59cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
 ●柔らかさと使用感をバランスさせたスマイルサッカーボール ●タイ製



Y



P

重量約260g

ネーム可

SFLL3-Y/P

【スマイルフットサル3号】

●円周約59cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.10-0.15kgf/cm² ●3号サイズによる重量約260gのスマイルフットサルボール ●タイ製



重量約150g

FF-YBL

【フラッグフットボール】

●縫い、スポンジ(TPE)、推奨内圧0.07kgf/cm²
 ●円周52~54×38~40cm、重量約150g ●中国製



FFF-BL (1セット)

FFF-Y (1セット)

FFF-Y/BL

【フラッグフットボール用フラッグ 1セット】

●フラッグ: 縦32×横32cm、ベルト: 長さ90×幅2.5cm ●フラッグ: ポリエステル、ベルト: ポリエステル
 ●セット内容: フラッグ×2枚、ベルト×1本 ●マジックテープで簡単装着 ●中国製

ブルボール



重量約210g

ネーム可

SP-OYLG

【ブルボール】

●縫い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm² ●タイ製

自治体・学校・体育施設・プロスポーツ施設・ スポーツクラブなど、北海道から沖縄まで 全国の多くの施設で導入いただいています。

NONSLIP SERIES

体育館床面専用メンテナンス剤

ノンワックス・
水分不使用

安全性

学校環境衛生基準・
食品衛生法基準をクリア

下処理なしで塗布可能

簡単

バスケット2面
(当社施工)を
1時間以内に塗布可能

抗菌



メンテナンスクリーナー
¥52,000(税別)

抗菌



ノンスリップ
¥62,000(税別)

抗菌



ノンスリップハイパー
¥86,000(税別)

驚異のグリップ力回復

高性能

ウレタン樹脂塗装と同等
滑り抵抗係数
+0.3以上回復 ※

コストは1/10以下

低コスト

ウレタン樹脂塗装に
かかる費用(当社比)

※NONSLIPが該当

(株)GRIPでは専門知識を必要としない、学校職員や生徒様でも簡単に
体育館のフロアメンテナンスができる方法を開発。
コスト面・衛生面・アフター管理面でもご評価をいただいています。

導入実績<例>



福岡市総合体育館



東海大学



江戸川区総合体育館



公益財団法人
日本ハンドボール協会

スポンサード



燃ゆる感動 **がごしま** 国体
燃ゆる感動 **がごしま** 大会

認定



公益財団法人
日本学校体育研究連合会 優良体育用品



ますます拡大中!



<導入施設一覧>

サンプルのご希望やお見積りなど下記までお願い致します。

店舗名	株式会社グリップメソッド 鹿児島本社	株式会社グリップメソッド 東京支店
住 所	〒890-0062 鹿児島市与次郎1丁目5-30	〒105-0013 東京都港区浜松町2-10-11-1F
電話番号	099-806-8686	03-6820-0820
F A X	099-806-5858	03-6800-8430

お問い合わせ



日本の室内スポーツの底上げは「床」から。

GRIP SPORTS-FLOOR
MAINTENANCE

安心・安全なスクールライフをサポートするスーパーシューズ

教育シューズ® PK-X4



上履き&体育館兼用で使える
タフなハイブリッドシューズ!

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<https://www.nisshinrubber.co.jp>

e-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp

思いきり遊ぼう。



(公財)日本学校体育研究連合会
認定 No.2022001

レックスコート レイジャー4.0



ABC
shokai

株式会社エービーシー商会
乾式材事業部

TEL 03-3507-7221

MAIL info-03@abc-t.co.jp

商品・企業情報



健康と安全と教育の「もの・こと」を探究する

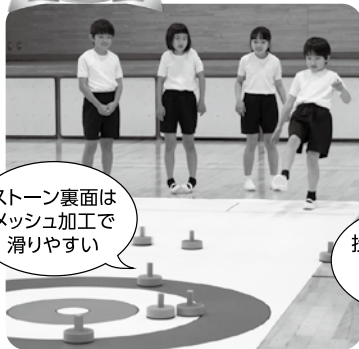
スクラボ
inCLum

学校教材カタログ「スクラボ」ならびに「インクルム」は、小学、中学、高等学校、特別支援学校で使われる教材を掲載しているカタログです。深い学びに繋がる教材を開発・流通し、全国の教育委員会や小学、中学、高等学校、特別支援学校にお届けしています。



教材コンテスト最優秀賞！ 「フットカーリング」

●先生のアイデアから生まれた「蹴るカーリング」が商品化。足の力加減を遊びながら身につけられます。



ストーン裏面はメッシュ加工で滑りやすい



投げても遊べる
取っ手付きバージョン

実用新案登録：第 3251647 号

「ユニボッチャ rotolo(ロトロ)」

- ユニボッチャ rotolo は屋内、屋外問わず、簡単にボッチャができるように開発されたボッチャセットです。
- ボールは、耐久性の高い素材を採用し、水洗いやアルコール消毒もでき、衛生的です。



人気のボッチャを楽しもう



実用新案登録：第 3220001 号



sanwa 株式会社 三和製作所

〒132-002 東京都江戸川区中央 4-11-8
tel.03-5607-7811(代) fax.03-5607-7812



<https://www.sanwa303.co.jp>

板書
シリーズ

1 年 分 の 授 業 プ ラ ン が 手 に 入 る !

**イラストで見る
全単元・全時間
の授業のすべて**



QRコードより、東洋館出版社のホームページにてご注文ください。

学校教育書
110 売上げ
万部突破!
No.1!



授業を効率化する学習カードがダウンロードできる!

本シリーズでは、単元ごとに新学習指導要領に基づく指導・学習の見通しを示し、各時間の授業展開、学習活動の進め方、指導上の留意点がひと目で分かるように構成。保健分野は板書例をもとに、4段階で授業を展開している。

中学校 1・2・3年 **全3巻**

保健体育



東洋館出版社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2 丁目 9-1
コンフォール安田ビル 2F TEL: 03-6778-4343

<https://www.toyokan.co.jp>

Blanc Roche



フルオーダーメイド ウェア・シューズ

【取引先】

都内を中心に100校以上の幼稚園・小・中・高・大学

《体操着・水着・上履き・通学帽・体育教材・備品・部活用品》
 ゴール・ネット・マット・支柱・ハードル・プールフロア・ラインカー
 ネーム加工 ユニフォーム・シャツ・ジャージ・バッグ・ボール

【取り扱いメーカー】

アシックス・ミズノ・アディダス・ナイキ・プーマ・ノースフェイス・チャンピオン・アスレタ・コンバース・デサント・D&M・ゼット・エスエス
 ケイ・ウィルソン・ハイゴールド・アンプロ・シュアプレー・ヒュンメル・ルコック・ディアドラ・ベナルティ・モルテン・セイコー・ゴーセン・
 ニューバランス・ヨネックス・ナガセケンコー・エバニュー・トーエイライト・ミカサ・鐘屋産業・奏運動器具工業・仲條・成美堂スポーツ出版・
 ダイケントップ・ニチバン・KT・ルーセント・ヤサカ・ヤマト卓球・日本卓球・タマス・九桜・早川繊維 他多数

ブランロッシュ株式会社

東京本社 〒176-0006 東京都練馬区栄町32-15 TEL: 03(3994)1055 FAX: 03(3994)1079
 埼玉営業所 〒359-0026 埼玉県所沢市牛沼431-4 TEL: 04(2001)6421 FAX: 04(2001)2323

ブランロッシュ公式ホームページ [http://www/blanc-roche.com/](http://www.blanc-roche.com/)
 ブランロッシュヤフー店 <http://store.shopping.yahoo.co.jp/blanc-roche/>
 お問い合わせ メールアドレス school@blanc-roche.com

祝 第64回全国学校体育研究大会北海道大会

高橋陽一先生
描き下ろしの表紙!!



©高橋陽一

中学校 / ビジュアル

新しい 体育実技

教師用DVD-ROM



生徒も動画データを
スマートフォンや
タブレットなどで
見られるようになりました!

▶学習指導要領に対応したコーナー

「運動やスポーツへの多様な関わり方」や「高まる体力」などを
考えられるようにしました。

▶写真点数3,500 圧倒的な迫力

鮮明な連続写真を豊富に掲載し、
動きのポイントをわかりやすく提示。

▶約800点の動画などを収録したDVD-ROM付き [教師用]

動画集には14種目約800点のデータを、図版集には技能の
イラストのほか、競技場・コートなどの図版を約200点収録。
動画は生徒への演示に、図版集はテスト作成にご活用いただけます。

B5判/348頁/4色刷 定価820円(本体746円)



東京書籍

【教育情報】

LINE公式
アカウント

ねだち募集中!



Point
1

すぐに使える
ワークシート

Point
2

最新のICT活用
実践事例動画

Point
3

全国の先生の
板書例や指導案

ID @tokyo-shoseki-ten

東京書籍【教育情報】

東京書籍

義務教育部 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel: 03-5390-7490 Fax: 03-5390-6012

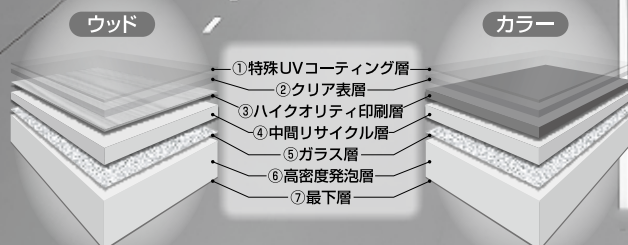


多目的弾性シート
スポーツフロアシステム

日本製

Sanyo SPORTS
サニョースポーツ

Sanyo SPORTS は、日本産業規格
「JIS A 6519 体育館用鋼製床下地構成材」に規定される
以下の床性能を満たしたトータルフロアシステムです。



発泡複層ビニル床シート

■シート厚／3.5mm、6.0mm、7.0mm ■シート幅／1,820mm
■シート長さ／9M ■カラー／14色(木目調3種、単色11種)

- 高い衝撃吸収性で膝や腰への負担を軽減します。
- 抗菌性、清掃性に優れたノーワックスメンテナンス
対応で防災施設への利用にも適しています。

※1 当社製品、鋼製下地【スリベース(組立式)、メタルベース(固定式)】に施工することで床性能を満たします。

鉛直載荷 たわみ	14.7kN/m ² 載荷時、最大たわみ量 20mm 以下、 最大残留たわみ量 1.5mm 以下
弾 力 性	弾力性値 (Y)、緩衝効果値 (U)、振動の減衰時間 (T ₉₀)
硬 さ	最硬点で体育館・剣道場は 980m/s ² (100G) 以下、 柔道場は 637m/s ² (65G) 以下



快適空間の創造

三洋工業株式会社

URL: <https://www.sanyo-industries.co.jp>

本社: 〒130-0012 東京都墨田区太平二丁目9番4号 TEL. 03(5611)6310 FAX. 03(5611)6311



Sanyo SPORTS

大日本図書の
小学校体育の準教科書



A4判／オールカラー／60～92 頁
定価：各学年 560 円 (本体 509 円)

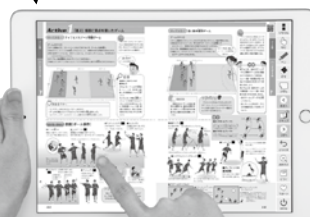
できる・わかる
そして体育が好きになる！



関連技能がリアルにわかる
動いてわかる！

デジタル版も
好評発売中！

650点以上の動画を
ワンタップで再生できます！
事前に読み込んでおけば、
オフラインでも使用可能です！



大日本図書の
中学校体育の準教科書



B5判／オールカラー／352 頁
定価：850 円 (本体 773 円)

* デジタル版は 1 ユーザーに 1 ライセンス 必要です

大日本図書

<https://www.dainippon-tosho.co.jp>

本 社 東京都文京区大塚 3-11-6 管理部供給課
中部支社 名古屋市千種区内山 1-14-19 高島ビル
関西支社 大阪市北区東天満 2-9-4 千代田ビル東館 6 階
九州支社 福岡市中央区長浜 2-4-1 東芝福岡ビル 10 階

☎ 03 (5940) 8676
☎ 052 (733) 6662
☎ 06 (6354) 7315
☎ 092 (688) 9595

【新体力テスト集計・分析システム】

(文部科学省発表新体力テスト準拠)

体力づくりをめざして

●学校のご希望に応じて、以下の2つの方法をご利用可能

◆紙版

◆デジタル版

集計・分析処理料金(1人分)

最寄りの営業所へお問い合わせください



みつめたい教育と未来

第一学習社

TEL 082-234-6806 FAX 082-503-3084 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14

●大阪支社/☎06-6380-1391

●新潟営業所/☎025-290-6077

●横浜営業所/☎045-953-6191

●福岡営業所/☎092-771-1651

●札幌営業所/☎011-811-1848

●つくば営業所/☎029-853-1080

●名古屋営業所/☎052-769-1339

●金沢出張所/☎076-291-5775

●仙台営業所/☎022-271-5313

●東京営業所/☎03-5834-2530

●神戸営業所/☎078-937-0255

●沖縄出張所/☎098-896-0085

以下の資料をお届けします

- 学校総括表
- 順位一覧表・級門分布表
- 判定別一覧表
- 生徒指導カード(個人カード控え)
- クラス台帳
- 生徒指導台帳
- 部活分析表
- 運動部活別比較表
- 部活台帳
- 学校集計資料・保健部資料
- ★教育委員会提出資料を完備

体育館の事故から生徒を守る。

床が滑ると感じる

まだワックスを
使用している
方々に朗報!

ついに登場! 体育館に使える次世代のメンテナンス剤

ANZENノンワックス

まだワックスを使用していないか?



体育館フロアにワックス掛けを行うことは負傷事故につながるため、
文部科学省の通知により禁止されています

ワックス掛けを行うと、木製床が過度な吸湿と乾燥を繰り返し、割れや剥離など体育館床板の不具合の原因になります。実際に床の不具合がきっかけとなって**重傷を負う事故**が発生しています。

誰もが安心して体育館を使用できる環境を創出する



ヤブ原産業株式会社
YABUHASHI INDUSTRY CO., LTD.

注文・お問合せはこちらから!

Tel : 048-290-4111 Mail: hanbai@yabuhara-ind.co.jp

体育の学習

児童書 1～6年 全学年
オール
カラー



大判化で、
イラストや写真が
見やすい！

連続写真で
わかりやすく解説！



二次元コードから
動画が見られる！！

『体育の学習』対応 デジタル図書教材

デジ体

デジタル 体育

DVD版

アプリ版

*DVD版「デジ体」は、児童書+指導書をセットでご採択
いただいた場合のみ、指導書冊数分をお送りします。

*アプリ版は、児童書+指導書のご採択校へ認証コードを
ご提供します。認証コードで、全コンテンツが利用できます。

・アプリ版は、アプリストアからインストールしてご利用ください。

デジ体の
詳細は
こちら⇒



よくある「つまずき」に対応した
解決法を動画で確認！

800本以上！

動画撮影&
保存機能も！
動きの確認や、
評価に役立つ！



学ぶことが好きになる。

光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町14
TEL.03-3262-3271(代表)
<https://www.kobun.co.jp>

ミズノグループの総合力

■スポーツ施設運営・サービスの提供 ■スポーツ施設の設計・施工 ■スポーツ施設用品販売



スポーツ施設設計・施工
運動プログラム・
サービスの開発・提供

MIZUNO WELLNESS LIFE DESIGN



スポーツ施設管理運営
スポーツ教室・
イベント企画運営



体育施設機器・
器具設計、
施工販売

ミズノ 株式会社 スポーツ施設サービス事業部

〒559-8510 大阪市住之江区南港北 1-12-35
TEL : 06-6614-8184 FAX : 06-6614-8343
〒101-8477 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL : 03-3233-7235 FAX : 06-3295-4286

ミズノ 施設 検索

Physical
Exercises
Gymnastics
Track&Field
Swimming
Basketball
Handball
Soccer
Volleyball
Soft Tennis
Table Tennis
Badminton
Softball
Judo
Kendo
Sumo
Dance
Skiing
Skating
Outdoor

副読本

『図解中学体育』巻頭ページ全面改定！
動画も充実します。ご期待ください。



表紙もかわります

図解
中学体育



新保健
体育ワーク



新保健
ワーク

ワークは見比べてください。
使いやすく、進歩しています。

あかつき教育図書

〒161-0033 東京新宿区下落合1-6-1 宮村ビル2階
☎050-1731-5975
<http://www.aktk.co.jp/>



こども体育研究所



遊びを
体育まで
高める

理想の教育、体育を研究する

大宮本社
〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町1丁目38-1 アソルティ大宮 ル・ノード3F
☎048-657-2550 (代) ☎048-657-0550
横浜本社
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3-23-3 新横浜AKビル2F 2-1
☎045-624-9482 (代) ☎045-624-9483

支部
札幌・岩手・仙台・山形・福島・新潟・宇都宮・茨城・水戸・千葉・さいたま
神奈川・静岡・浜松・東海・関西・中国・松山・福岡

無線で 音を飛ばす 電子音スター

EVERNEW

EGA215 デジタルスターター 100 ￥89,000(税込 ￥97,900) / 丁

電子でピストル音を出す新しい信号器。火薬音を忠実に再現した電子音に進化を遂げました。

無線で他機器への接続が可能となり、授業やイベント使用での幅が広がります。

無線接続のフローチャート簡易図



※弊社で販売しているワイヤレス機器の対応周波数は 300MHz になります。お使いの無線機とスピーカーの周波数をご確認の上ご使用ください。

●27.1cm×15.4cm×5.6cm●重量：358g 材質：スチール・ABS・ポリカーボネート●光源：白色 LED●出力：最大 6W・定格 3W●単 3 乾電池 ×4 本●日本製

[お問い合わせ先]

株式会社 **エバニュー**

[本 社]

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-6-35 JMF ビル東陽町 02 6F

TEL.03-3649-3052 (代) FAX.03-5683-5946 E-mail:a-f@evernew.co.jp

[大阪営業所]

〒542-0061 大阪府大阪市中央区安堂寺町 2-3-5 第 18 松屋ビル 9F

TEL.06-6762-2431 FAX.06-6762-2425 E-mail:osaka@evernew.co.jp

有効期限：25.8～26.3 2508

Senoh

スポーツと健康の
未来を創る。

夢の舞台に挑む

アスリートたちの躍動を、最大限に引き出すために。

セノーは100年を超える歴史で

培ってきたあらゆる技術と経験を集結。

最高峰の品質を求めた

スポーツ器具でサポートしています。

すべてのアスリートたちと同じように、

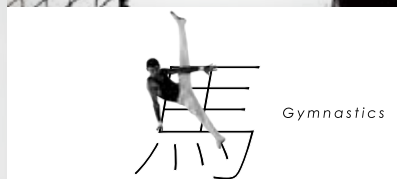
セノーもさらなる高みをめざして。

最高のプレーを支える器具にも

ぜひご注目ください。



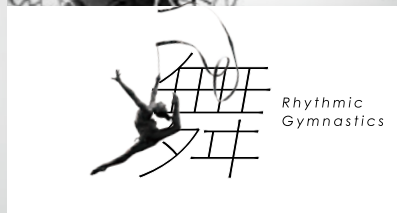
Volleyball



Gymnastics



Basketball



Rhythmic
Gymnastics



Senoh セノー株式会社 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 250 Tel:047-311-8912 Fax:047-385-9177 <https://www.senoh.jp>



RAKUSACK®

FOOTMARK

成長期の身体を守る、多機能・重量対策リュック「ラクサック」。

GIGA スクールにも対応 タブレット収納付き大容量モデル

RAKUSACK / ラクサック・ネオ
【商標登録 / 特許第 6793435 号】

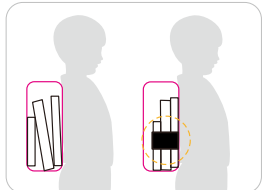
独自開発のバックストラップが体幹近くに教科書を固定、揺れを防ぎ、身体に密着させることで重さを軽減します。



教科書、ノート、辞書を中央で揃えます。



動かないようストラップでしっかり留めます。



バックストラップ（特許取得済）で教科書類を固定することで重い荷物を背中に密着、揺れを防ぎます。



品番：101353
本体重量：1120g
サイズ：高さ 45cm、幅 30cm、厚さ 16cm
容量：28 リットル、A B ワイド版対応
品質：ナイロン 100% (210 デニール + 裏面 PVC 加工)
表面は撥水加工
カラー：09 ブラック

★お取り扱い上の注意：雨天時は、備え付けのレインカバーをご使用下さい。レインカバー使用後は、水気をしっかりとふき取り、十分に乾かしてから収納して下さい。カビの発生原因になりますのでご注意ください。

NEW

model ネオ
NEO



広くて便利な
全面開口採用で
さらに便利に！

① インナーポケット

教科書類とは分けて入れたいファイルやプリントなど、素早く取り出したいモノの収納に便利なインナーポケットを装備しています。

② バックストラップ

厚みの違う教科書を簡単に区別し整理できます。また大容量のバックの中では揺れがちな荷物をしっかりと固定。体への負担を最小限に抑えます。

③ 伸縮性サイドポケット

ポケットの口に伸びる素材を使用し収まりの良い収納。水筒やペットボトルなども収納可能。高さのあるサイドポケットを装備しています。

28L

A B ワイド版対応

体型データに基づいた 3D 肩ベルト



様々な姿勢を想定し、動作による皮膚、筋肉、骨格の動きを理解し立体的にパターンを創生した三次元テクノロジーを採用しています。

タブレットポケット（開口幅：28cm）



開口幅もゆったり大きめのタブレットポケットを装備しています。中面には画面を保護する起毛素材を使用しています。

前面ポケット x 2



大型の全面開口ファスナーを採用しながらも、前面には 2 つのポケットを採用。A4 ファイルや小物などを分けて収納出来ます。

サイドポケット



ポケットに伸縮性を持たせ、出し入れがスムーズになりました。折り畳み傘や小型の水筒など用途によって様々な使い方が可能です。

防水コーティング



生地裏面には PVC (塩ビ) コーティングを施し雨などによる水の侵入を防ぎます。内側生地も裏面にポリウレタンコーティング済み。

撥水加工



生地表面に撥水加工を施し、水滴をはじきます。雨天の場合は付属のレインカバーを装着する事で防水効果が高められます。

内蔵型レインカバー収納ポケット



突然の雨でも安心のレインカバーを背面下部に内蔵。使用後はサッとふき取り、クルッと収納します。（取外し可）

リフレクター付きレインカバー



レインカバーにもリフレクターが付いているので、本体全てを被せていても視認性を確保、雨の日でも安心です。（本体内部型）

● 商標登録 / 特許第 6793435 号 ● RAKUSACK は特許取得済み製品です。類似品にご注意ください。 ● 掲載商品は予告なく仕様変更、カラー変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

Gakushin®

SCHOOL SHOES
S-2800



SPES
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

協和株式会社

神戸市東灘区西紀地町1丁目3番8号
TEL : 078-611-4376 (代)

School Shoes としての耐久性
ただ長持ちさせるのではなく、
運動性能と安全性も大切です。

GOLDSTAR

SPORTS SCHOOL SHOES

GX



体育館
シューズ

SPES
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

高機能・ジャストフィットを実現
超軽量モデル 片足 (24.5cm) 290g

ASTICO
株式会社 アスティコ

岡山県岡山市中区江部417-1
TEL : 086-276-2010 (代)



信じられる。

変化する時代に、
変わらない信頼を。

小学校・中学校・高等学校の
教科書をはじめ、
大学のテキスト、競技団体の
指導者向け教本など
体育・スポーツ・健康を通じて
新しい時代を担う
人づくりに貢献します。



 大修館書店





これからも
ずっとともに、
80周年。
Gakken

Gakken の保健体育 副読本デジタル版

デジタル版 中学体育実技 **生徒用**



豊富なデジタルコンテンツのほか、
先生の声から生まれたデジタルならではの
新機能・新教材が満載です！



くわしくは
こちら



●価格：1人当たり 800 円（本体 727 円＋税）

デジタル版 みんなの体育 **児童用**



●価格：1人当たり
各学年 550 円（本体 500 円＋税）



くわしくは
こちら

体育の学びを支える効果的なデジタル
コンテンツ（技能動画、ぱらぱらイラスト、
学びの場面チェック）が充実！
個別最適な学びをサポートします。

デジタル版 みんなの体育 教師用指導書〔6 学年セット〕

●価格：6 学年セット
49,500 円（本体 45,000 円＋税）



くわしくは
こちら

Gakken

株式会社 Gakken
学研 学校教育ネット

小中教育事業部 TEL 03-6431-1151
<https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>



目指しているのは、 人づくり



わたしたちは、

たくさん思い出づくりの

お手伝いをしています。

でも、いちばん目指しているのは

「人づくり」。

わたしたちは、

たくましく生きる力を育成し、

新しい時代に活躍する

「人づくり」に

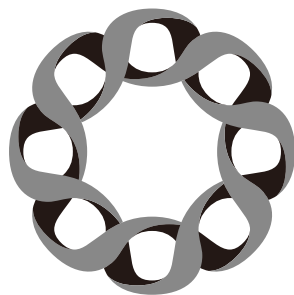
貢献します。

 東武トップツアーズ

<https://www.tobutoptours.co.jp/>

「Make It Real」

本当に良いモノを考え実現させる



Columbine

The Guardian of School Life

当社の体操着が、安心・安全な理由。
機能はしっかり、でも着心地はやさしく。

体育授業だけでなく、学校生活のさまざまなシーンで着用される体操服だからこそ着心地のよい、安全なもので過ごして欲しい。機能はもちろん、お手入れの手間も減らしたい。沢山の願いをカタチにし、お届けします。

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

(公財)日本学校体育研究連合会推薦品

 **児島株式会社** つねによりよい学校体育の環境づくりを提案しています。

本社／〒711-0911 岡山県倉敷市児島小川 2-4-60 TEL 086-473-4634 FAX086-472-0866

関東営業所／〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町 1085 TEL 048-642-5883 FAX048-642-4766

盛岡営業所／〒020-0846 岩手県盛岡市流通センター北 1-4-18 TEL 019-638-7501 FAX019-637-0144

URL:<http://www.kojima-gp.co.jp> E-mail:gyomu4@kojima-gp.co.jp